京都大学
東南アジア研究センター要覧

平成12年度版

表紙写真：平成11年12月，写真家佐藤多紀三氏（平成11年3月ご逝去）が東南アジアやオセアニアで長い年月をかけて撮影してこられた写真・フィルム等がご遺族によって東南アジア研究センターに寄贈された。センターでは，東南アジアの各地で所員が撮影してきた映像をフォト・ライブラリーに収集して，研究資料として利用できるシステムの開発を進めようとしていた矢先でもあり，約4万5千点にのぼる写真・フィルム・スライド等の寄贈を受けることにした。「佐藤コレクション」と呼ばれるこれら映像のかなりの部分がすでにデジタル化を終えており，順次，センターのホームページなどで公開することを計画している。ここに紹介するのは，その佐藤コレクションのほんの一部であるが，インドネシアの東カリマンタン州マハカム川流域で撮影されたものである。表紙は，水上マーケットを往き来する野菜行商人で，マハカム川にのぞむムアラムンタイで撮られたものと思われる。

佐藤多紀三コレクションから

——マハカム川旅情——

シンガポール植物園でくつろぐ，ありし日の佐藤多紀三氏

朝もやにつつまれたマハカム川

マハカム川中流，湖水地方でよく見られる水上家屋

マハカム川は人と物資の大動脈

川べりに並ぶ水上トイレとココヤシは集落の存在を示す指標

ロン・ダマイのダヤック人のロングハウス

マハカム川上流域ダヤック人のフドックと呼ばれる儀礼の踊り

ロン・ダマイのロングハウス内部の台所

背負い籠などの材料となるロタンの皮をはぐダヤック人女性

獣の毛皮を吊した鳥追いで見張りながら籾を干す

ま　え　が　き

京都大学東南アジア研究センターは，昭和40年にわが国で初めて，国立大学に付置された研究センターとして官制化されました。その後，組織的な充実をはかって，平成元年度からは5大部門および客員部門に組み替え，現在に至っております。その間，わが国における総合的地域研究の先駆けとしての役割を果たすとともに，東南アジアに関する資料の集積をもはかってきました。

教育の面では，従来より農学研究科熱帯農学専攻や人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻の協力講座として役割を果たしてきました。懸案であった独立研究科として，元のアフリカ地域研究センターとの共同のもと，関係研究科をはじめとする学内の温かいご協力を得て，平成10年度に大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が設置されました。今後は，この新しい研究科との密接な協力を目指しております。

研究教育面で，地域研究の重要性がますます強く認識されている今日，その責任の重大さを自覚しながら，名実ともに中核的研究拠点機関となるよう，着実な研究活動をいっそう進める努力を続けていく所存です。

本要覧は，東南アジア研究センターの機構や研究活動を要約し，あわせて，研究スタッフの紹介と出版物の目録を収めて，センターの歩みと現状を広くお知らせすることを目指しております。和文と英文とを毎年交互に発行していますので，本要覧は隔年刊となっています。本要覧を通じて本センターの意図するところをご理解いただき，いっそうのご教導をたまわりますようお願い申し上げます。

平成12年11月16日

京都大学東南アジア研究センター
所　長　立　本　成　文

目　　次

第1章　性格と沿革 …… 1

第2章　機構と組織 …… 5

1．機　構
2．協議員
3．職　員
4．海外連絡事務所
5．学内研究担当教官
6．学外研究協力者

第3章　研究活動 …… 11

1．調査・研究
2．国際交流
3．シンポジウム・セミナー・研究集会
4．地域研究フォーラム
5．コロキアム
6．その他の研究会
7．東南アジアセミナー
8．資料収集および情報処理
9．出版
10．広報

第4章　大学院教育 …… 36

第5章　研究スタッフ …… 39

1．研究部
2．資料部

第6章　出版活動 …… 74

1．研究叢書等
2．『東南アジア研究』(36巻3号から38巻2号まで)
3．研究報告書シリーズ

第1章　性格と沿革

京都大学東南アジア研究センターは，東南アジアおよびその周辺諸国を総合的に研究することを目的として設立された特色ある研究機関である。東南アジアとは，ベトナム，ラオス，カンボジア，タイ，ビルマ（ミャンマー），マレーシア，シンガポール，インドネシア，フィリピン，ブルネイの10カ国をさすが，研究の対象としては，厳密にこの範囲に限定しているわけではない。仏教の研究のためスリランカをふくめ，熱帯稲作の研究のためバングラデシュ，インド，中国にまで視野をひろげ，対外経済活動の研究のためには香港，台湾，韓国をも対象としたこともある。周辺諸国というのは，この意味である。

センターの研究活動は，自然科学をもふくむ点において，人文科学とくに人類学と政治学を中心とする欧米の地域研究とは異なる特色をもっている。自然環境の現状と変遷の過程を視野にいれて変動する地域を総合的に捉えるということが第一義的な目標であるが，それと同時に，関連学問分野を包括的な視野の下に収め，新しい問題群に取り組み，既成の学問分野を越えた新しい知の枠組みを作り上げることも重要な課題である。しかしながら，総合的といっても，基本的には地域の内在的理解が先行すべきで，そのためには微視的な分析・解析的な研究の積み重ねが必要であることは当然である。

現在，一般的に広く地域研究と称されるもののみが，本センターの追求する総合的・包括的地域研究ではない。本センターの中でも，総合的地域研究の手法が確立しているわけではなく，いろいろなアプローチを比較・検討しながら，世界に類を見ない地域研究の確立に鋭意努力している。当面の目標は，今や日本で緊急に必要とされている地域研究のあるべき姿を，将来への展望を含みつつ早急に確定し，範型として世に示すことである。1993年度から1996年度まで実施された文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立――世界と地域の共存のパラダイムを求めて」がその一つの試みであった。また1998年度から始まった文部省中核的研究拠点（COE）形成基礎研究「アジア・アフリカにおける地域編成――原型・変容・転成」によって，センターひいては日本の東南アジア研究，地域研究のさらに新たな展望を開くべく努力を重ねている。

近隣のアジア諸国とわが国との学術文化の交流が深まるにつれて，センターが地域研究の中心として果たすべき役割への期待はいよいよ高まりつつある。その要請にこたえるため，センターは東南アジア諸国の学者・文化人はもちろん，東南アジア研究に関心をもつ

世界の学者との不断の交流につとめている。そして同時に東南アジアに関する文献資料・学問的情報を収集し，それらをひろく内外の学者に利用してもらえるような態勢を整備しつつある。学問研究の国際交流は，これからの日本にとって大きな課題であるが，とくに近隣の東南アジア諸国の基礎的研究を実施しているセンターは，こうした面でもつねにその先達としての努力を傾ける必要があろう。

東南アジア研究センターが，京都大学に正式に設置されたのは，1965年のことである。それより以前，1963年1月には，本学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設けられた。学内措置として創設せられた当時は，もっぱら民間からの寄付金とフォード財団からの研究奨励金を委任経理金として受け入れ，それによって多数の本学教官を東南アジア各地の現地調査に派遣した。その研究活動の中心は，タイ計画とマレーシア計画という2つの総合調査であった。それは人類学者による村落定着調査から，農学者による熱帯稲作の諸条件の研究に至るまで，極めて多岐にわたったが，常に現地に密着し，現地の研究者と共同して研究を進めるという態度を失わないように留意してきた。このため当初よりバンコクに連絡事務所を置き，政府機関・大学・研究者との交渉，連絡に当たらせてきた。これらの研究の成果は，1963年に創刊された『東南アジア研究』に次々と発表され，内外の学者の注目を浴びるに至った。

この成果に対する評価は，センターが1965年4月に国立学校設置法施行規則の改正による全国で初めての「研究センター」として，京都大学の正式の研究機関と認められたことによって確定したと言えよう。それより逐年研究部門の増加を認められ，1988年度までに9研究部門，3客員部門からなる研究機関に成長した。特にこの客員部門のうち，地域研究第一（外国人客員）研究部門は，東南アジアからの研究者をセンターの客員研究員として迎えるもので，この種の国際交流のための部門の設置は全国で最初の試みであった。1989年度には研究部門の大幅な編成替えが実施され，9研究部門は生態環境，社会生態，統合環境，地域発展，人間環境の5つの大部門に統合された。

東南アジアの地域研究を任務とする性格上，長期，短期の臨地研究が必須とされる。臨地研究を核に，センターにおいては各種の学際的な共同研究が組織されているのが特徴である。研究活動の活性化を図るために，5年ごとにセンターとしての研究テーマの見直しを行い，それに基づいて研究班を組織してきた。1980年（昭和55年）度には，「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」が組織され，熱帯モンスーン・エコシステム班と小型家産制国家班とが編成された。1985年度の「東南アジア世界の成立と展開に関す

る文明論的総合研究」では，外文明と内世界，文明と国家形成，文明と生態環境，文明と経済環境の 4 班が組織された。1990 年度には，「東南アジア世界の固有論理と発展構造に関する総合的研究」が発足し，歴史構造，自然生態，社会組織，地域統合にかかわる 4 班が研究を進めた。

これらの 5 カ年計画の蓄積をうけて，1993 年度〜 96 年度に，文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立――世界と地域の共存のパラダイムを求めて」の共同研究が，全国の地域研究者の参加を得て実施された。さらに，1998 年度から大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とともに，文部省科学研究費 COE 形成基礎研究「アジア・アフリカにおける地域編成――原型・変容・転成」の共同研究が開始された。従来から実施されてきた個々の研究者による共同研究はいまも継続的に組織されているが，一方で，この 2 つのプロジェクトが示すように，地域研究の中核組織としての役割をはたすべく，センターはこれまでにない大規模な共同研究を推進するようになっている。これに対応する臨地研究は文部省科学研究費補助金「国際学術研究」によって，毎年 2 ないし 3 班の研究班を海外に出している。

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は，センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは，1963 年以来東南アジア地域研究の季刊学術誌『東南アジア研究』を出版しており，現在 38 巻 2 号に及んでいる。『東南アジア研究』は，内外の大学その他の研究機関と交換しているばかりでなく，財団法人アジア研究協会に委託して，一般購読の道をひらいている。

またセンターは，東南アジア地域研究の発展に寄与するオリジナルな学術研究の発展の場として，東南アジア研究叢書（和文，英文）地域研究叢書（和文，英文）を刊行している。これまで，東南アジア研究叢書（和文，創文社刊）は 24 冊，同（英文，University of Hawai'i Press 刊）は 20 冊，地域研究叢書（和文，京都大学学術出版会刊）は 13 冊，同（英文，京都大学学術出版会刊）は 1 冊を刊行してきた。

1969 年に「バンコク連絡事務所」の運営経費が，次いで 1973 年に「ジャカルタ連絡事務所」の運営経費も国の予算として認められるとともに，現地調査費も国の予算で認められ，ようやく当センターの現地調査を計画的に推進する最小限の基礎が与えられるようになった。それ以来センターでは，この予算を活用して，大学内の「研究担当教官」による東南アジア研究をわずかながらも支援できるようになった。また 1978 年度から「非常勤講師経費」を認められ，さらに 1980 年度には地域研究第二（客員）研究部門が設けられ

たことにより,「学外研究協力者」が積極的に研究参加できる機会を提供できるようになった。また，1986年度には新たな客員部門として，東南アジア諸語文献研究部門が新設された。近年，東南アジア各国の図書資料が精力的に収集されているが，この部門新設によってそれらの整理方法の確立，資料情報の一層の収集のために，東南アジア各国から書誌学者，カタロガーを招くことが可能となった。

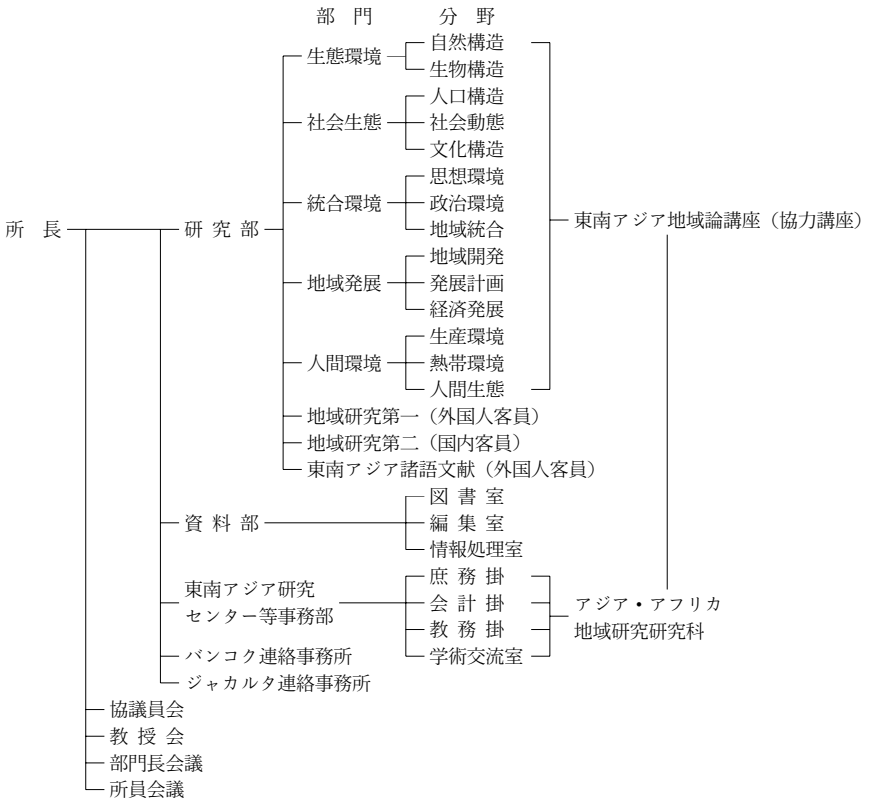
センターの大学院教育としては，1981年に農学研究科熱帯農学専攻が設置され，農学系の教官が協力講座を担当したのが最初である。その後1993年度に人間・環境学研究科の第二専攻（文化・地域環境学専攻）が発足するとともに，センターの教授・助教授ほぼ全員が東南アジア地域研究講座（協力講座）担当として参画してきた。1998年4月，アジア・アフリカ地域研究研究科が発足した。この研究科は，東南アジア地域研究専攻とアフリカ地域研究専攻の2専攻から構成されるが，前者の中に連環地域論講座を置き，東南アジアとアフリカの両地域に連接するヒンドゥ・イスラーム両世界をも含めて，地域間比較を視野に入れた地域研究教育に主眼を置いている。この設立にともなって，センターは大学院教育の場をこの研究科に移すこととなった。現在，ほぼ全教官が東南アジア地域研究専攻の東南アジア地域論講座（協力講座）担当，あるいは2専攻の共通課目担当として大学院教育に参画している。

第2章　機構と組織

1．機　　構

2000年度現在，東南アジア研究センターは，5大研究部門，3客員研究部門からなる研究部，および資料部，事務部で構成され，東南アジア地域の現地調査を円滑に行うための海外連絡事務所として，タイにバンコク連絡事務所を，インドネシアにジャカルタ連絡事務所を設置している。また，本センターの議決機関・協議機関として，協議員会，教授会，部門長会議，所員会議が設けられている。

1998年4月，アジア・アフリカ地域研究研究科設置に伴い，センター教官のほぼ全員



が東南アジア地域論講座（協力講座）あるいは研究科共通課目を担当することになった。事務部は東南アジア研究センター等事務部と名称が変わり，東南アジア研究センターとアジア・アフリカ地域研究研究科の事務を併せて受けもつことになった。事務部は庶務・会計・教務の3掛に分かれ，さらに内部組織として学術交流室を設置し，それぞれ業務を担当している。

2．協　議　員

協議員会は，センターの運営に関する最高議決機関であり，センターの所長，全教授および助教授1名，ならびにセンター所長が委嘱した関係部局の教授・助教授7名によって構成されている。

3．職　　員

センターの職員は，(1) 研究部，(2) 資料部（図書室，編集室，情報処理室），および(3) 事務部に所属する職員からなる。2000年11月16日現在の職員は次のとおりである。

所　長　教　授　立　本　成　文

(1) 研　究　部

生態環境研究部門

教　授	山　田　　勇	森林生態学
教　授	田　中　耕　司	熱帯農学，熱帯環境利用論
助教授	安　藤　和　雄	熱帯農学，農村生態
助　手	柳　澤　雅　之	熱帯農業生態学

社会生態研究部門

教　授	立　本　成　文	地域研究，文化人類学，社会学
助教授	五十嵐　忠　孝	人類生態学
助教授	林　　行　夫	文化人類学，宗教社会学
助教授	石　川　　登	社会人類学
助教授	速　水　洋　子	文化人類学，東南アジア地域研究

統合環境研究部門

教　授	白　石　　隆	歴史学，比較政治学

教　授	濱 下 武 志	アジア地域研究
助教授	Caroline Sy HAU（キャロライン シィ ハウ）	カルチュラル・スタディーズ
助教授	Patricio N. ABINALES（パトリシオ アビナレス）	歴史学，比較政治学

地域発展研究部門

教　授	吉 原 久仁夫	経済発展論
教　授	海 田 能 宏	農村開発論，開発技術論
教　授	阿 部 茂 行	経済学
助教授	水 野 広 祐	経済発展論，農業経済学，労働経済学
助教授	藤 田 幸 一	農業経済学

人間環境研究部門

教　授	西 渕 光 昭	病原細菌学
教　授	松 林 公 蔵	老年医学，フィールド医学
教　授	Terry A. RAMBO（テリー ランボー）	人類生態学
助教授	河 野 泰 之	自然資源管理
助　手	吉 村 充 則	環境工学

客員部門

地域研究第一（外国人客員）

Voon Phin Keong	人文地理学
Nik Hassan Shuhaimi	考古学
Mojares Resil	歴史学

地域研究第二（国内客員）

教　授	杉 島 敬 志	人類学
助教授	黒 田 景 子	東南アジア史，タイ＝マレーシア関係史

東南アジア諸語文献（外国人客員）

Donna J. Amoroso	東南アジア史
Kannikar Linpisal	図書館学

非常勤講師・非常勤研究員等

非常勤講師	安田　豊	情報処理システム
非常勤研究員	松本千穂	分子生物学，分子疫学
非常勤研究員	岡本正明	政治学
非常勤研究員	左右田直規	政治学，歴史学
非常勤研究員	河津日和佐	土壌環境化学
学振特別研究員	平田昌弘	牧野生態学
学振特別研究員	濵元聡子	東南アジア地域研究，文化人類学

（研究部連絡室）

事務補佐員	河合友子
事務補佐員	首藤晶子

（研究室）

事務補佐員	成田朋子
事務補佐員	林　晃子
事務補佐員	前野尚子
事務補佐員	木下秀美
事務補佐員	石川崇志
研究支援推進員	竹田陽子

（2） 資　料　部

（図書室）

助　手	北野康子	図書館学
事務補佐員	小室静子	
事務補佐員	谷口靖子	
事務補佐員	田中修司	
事務補佐員	古田保子	
事務補佐員	山田尚代	

（編集室）

助　　手	米　澤　眞理子	
事務補佐員	小　林　純　子	
事務補佐員	大　熊　知　美	

（情報処理室）

助　　手	木　谷　公　哉	形状処理工学

（3） 事　務　部

事 務 長		事務官	山　本　照　雄	
専 門 員		事務官	足　立　　巖	
庶 務 掛	掛長	事務官	白波瀬　昌　廣	
	主任	事務官	山　本　重　夫	
		事務官	神　徳　智　恵	（学術交流室勤務）
		事務補佐員	林　　千恵子	（学術交流室勤務）
		事務補佐員	藤　井　　舞	（学術交流室勤務）
		事務補佐員	中　西　亜衣子	
		事務補佐員	高　見　徳　子	
		臨時用務員	岩　本　照　子	
会 計 掛	掛長	事務官	宮　田　浩　行	
	主任	事務官	竹　口　仁　美	
	主任	事務官	岩　手　利　之	
		事務官	末　光　史　子	
		事務補佐員	石　田　祥　子	
		事務補佐員	中　川　賢　子	
		事務補佐員	西　尾　雅　美	
教 務 掛	掛長	事務官	津　知　哲　夫	
	主任	事務官	前　田　満喜子	

4．海外連絡事務所

（1） バンコク連絡事務所

バンコク連絡事務所（現在地，8 B, Raj Mansion, 31-33, Soi 20, Sukhumvit Road, Bangkok 10110, Thailand, 電話 ＋66－2－259－8485； Fax ＋66－2－259－8419； e-mail bangkok@cseas.kyoto-u.ac.jp）は，1963年10月に開設されて以来，7度にわたって駐在地の変更があったが，この間のべ67名が駐在の任に当たった。

（2） ジャカルタ連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所（現在地，Jl. Kartanegara No. 38, Kebayoran Baru, Jakarta Selatan 12180, Indonesia, 電話 ＋62－21－7262619； Fax ＋62－21－7248584； e-mail jakarta@cseas.kyoto-u.ac.jp）は，1970年10月に開設されて以来，6度にわたって移転があったが，この間のべ51名が駐在の任に当たった。

5．学内研究担当教官

当センターは，東南アジア研究に関心をもつ学内各部局の教官に，研究担当教官として参加を委嘱している。2000年度において，これらの研究担当教官は155名を数える。

6．学外研究協力者

当センターは，総合的に地域研究を実施するため，東南アジア地域の研究に関心をもつ全国各地の大学・研究機関等の研究者に，研究協力を仰いでいる。2000年度において，これらの研究協力者は262名を数える。

第3章　研　究　活　動

1．　調査・研究

（1）　共同研究

センターの調査・研究活動は個別研究と共同研究に大別されるが，共同研究のうち，センターの大部分のスタッフの関与するものは，センター研究計画（プロジェクト）として推進されてきた。センタープロジェクトは，5カ年を単位として設けられる共通のテーマのもとに，所員が任意の研究グループをつくり，科学研究費補助金「国際学術研究」などを通じて臨地研究を共同で行うものである。

1980年度から1984年度までの5カ年計画として，「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」というテーマのもとに，このセンタープロジェクトが遂行され，「熱帯モンスーン・エコシステムにおける農業の発展と地域間交渉の展開」と「小型家産制国家の社会基盤と経済発展」の2つの研究班が編成された。1985年度から，第2次5カ年計画として「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」が進められ，「外文明と内世界」「文明と国家形成」「文明と生態環境」「文明と経済環境」の4つの研究班が組織された。1990年度からは，第3次5カ年計画として「東南アジア世界の固有論理と発展構造に関する研究」が進められ，「東南アジア世界の成立と歴史構造」「東南アジアの自然生態と発展形態」「東南アジアの人間環境と社会組織」「東南アジアの文化環境と地域統合」の4つのクラスターが研究班の役割を担って組織された。以上の5カ年計画のテーマに沿っていくつもの個別的な共同研究が文部省科学研究費補助金（海外学術調査／国際学術研究）あるいはその他の機関の援助を得て実施された。

5カ年計画を背景に，1993年度から4カ年のプロジェクトとして，文部省重点領域研究「総合地域研究の手法確立――世界と地域の共存のパラダイムを求めて」が発足した。全国の地域研究者の参加を得て先端的地域研究をめざす「地域と生態環境」「地域性の形成論理」「地域発展の固有論理」の3計画研究班，および地域研究の手法確立を探る「外文明と内世界」「地域連関の論理」「総合的地域研究の概念」の3つの計画研究班が組織され，多数の公募研究班とともに，総合的地域研究の手法確立のための共同研究が進められた。同研究は，社会科学としては極めて大型の共同研究で，東南アジア地域研究の専門家

約 150 名が，地域と生態環境，地域性の形成論理，地域発展の固有論理，外文明と内世界，地域連関の論理，総合的地域研究の概念の 6 クラスターにわたって計画研究班および公募研究班を構成し，それらを総括班が結び合わせる，という構造のもとに進められた。

本共同研究の成果は，以下のように結実している。参加者の情報交換メディアとしてのニューズレター 49 号，季刊誌『総合的地域研究』が創刊準備号を入れて第 16 号までの計 17 冊，成果報告書シリーズが 36 冊，総括班主催の研究集会やシンポジウムが合計 10 回，内 1 回は “International Symposium Southeast Asia : Global Area Studies for the 21st Century” と題する国際シンポジウムであった。さらに，各研究班が開催した研究会やワークショップは合計約 100 回に及び，各班から事務局に報告された関連ペーパーは約 1,000 編にも及んだ。総括班と各研究班による最終報告書としては，現在までに『〈地域間研究〉の試み：世界の中で地域をとらえる（上・下）』『〈総合的地域研究〉を求めて：東南アジア像を手がかりに』『地域形成の論理』『地域発展の固有論理』が京都大学学術出版会から刊行されている。

この重点領域研究で得られた成果をさらに発展させるために，1998 年度から新たな 5 カ年計画が進行中である。文部省中核的研究拠点（COE）形成推進計画「アジア・アフリカにおける地域編成――原型・変容・転成」がそれで，新たに設置された大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とともに，地域研究の中核的拠点の形成を目指している。この計画では，東南アジア，南・西アジア，アフリカ，をそれぞれ対象とする 3 つの研究クラスターが編成され，センターに計画全体を統括する事務局が置かれている。地域研究における中核的な役割をセンターが機構的にも担い，「地域とはなにか」の理解に向けたトータルかつダイナミックな研究視角を提出するため，新たな一歩を進めようとしている。

上記の共同研究は，現地調査を中心として行われること，学際的なチームメンバーを組んで行われること，東南アジア地域及びその他の外国人研究者の参加を得て行われることを特色としている。本年度までに出版された研究成果の一部は，第 6 章「出版活動」の研究報告書シリーズの項に掲載されている。なお，2 つのプロジェクト以外の個別の共同研究のもとで 1990 年度以降に実施された科学研究費補助金による海外学術調査は以下のとおりである。

1990 年度：「東南アジア型都市文明の形成――外文明からの変容と内発的展開」（研究代表者：坪内良博）

「中国における農業生態空間の展開と人の移動に関する歴史的研究」（研究代表者：古川久雄）
「東南アジア海域世界の動態に関する総合的研究」（研究代表者：土屋健治）

1991 年度：「中国における農業生態空間の展開と人の移動に関する歴史的研究」（研究代表者：古川久雄）
「東南アジア海域世界の動態に関する総合的研究」（研究代表者：土屋健治）

1992 年度：「海域世界の地域間比較」（研究代表者：矢野　暢）
「島嶼部東南アジアのフロンティア世界に関する動態的研究」（研究代表者：加藤　剛）

1993 年度：「海域世界の地域間比較」（研究代表者：矢野　暢）
「島嶼部東南アジアのフロンティア世界に関する動態的研究」（研究代表者：加藤　剛）
「コラート高原における人間・環境・作物複合の総観的研究（研究代表者：福井捷朗）

1994 年度：「熱帯海域世界の比較研究」（研究代表者：高谷好一）
「島嶼部東南アジアのフロンティア世界の動態に関する総合的研究」（研究代表者：加藤　剛）
「コラート高原における人間・環境・作物複合の総観的研究」（研究代表者：福井捷朗）

1995 年度：「熱帯海域世界の比較研究」（研究代表者：古川久雄）
「サヘルと南インドにおける在来農法の再評価と両地域間技術移転の可能性に関する研究」（研究代表者：応地利明）
「人と森世界に関する大陸間比較研究」（研究代表者：山田　勇）
「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」（研究代表者：田中耕司）

1996 年度：「サヘルと南インドにおける在来農法の再評価と両地域間技術移転の可能性に関する研究」（研究代表者：応地利明）
「人と森世界に関する大陸間比較研究」（研究代表者：山田　勇）
「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」（研究代表者：田中耕司）

1997 年度：「人と森世界に関する大陸間比較研究」（研究代表者：山田　勇）
「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」（研究代表者：田中耕司）
「熱帯半乾燥地帯でのミレット農耕と他の農耕との接触複合状況および農業再生に関する調査研究」（研究代表者：応地利明）
「東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究」（研究代表者：福井捷朗）
「デルタの 21 世紀像――熱帯アジア 6 大デルタの発展に関する総合的比較研究」（研究代表者：海田能宏）

1998 年度：「東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究」（研究代表者：福井捷朗）
「デルタの 21 世紀像――熱帯アジア 6 大デルタの発展に関する総合的比較研究」（研究代表者：海田能宏）

1999 年度：「東南アジアにおける半乾燥地の発展と停滞に関する比較研究」（研究代表者：福井捷朗）
「アジア地域の環境中における腸管感染症原因菌の動態に関する調査」（研究代表者：西渕光昭）
2000 年度：「アジア地域の環境中における腸管感染症原因菌の動態に関する調査」（研究代表者：西渕光昭）
「アジアと日・米・欧の経済・文化・政治リンクの総合的研究」（研究代表者：阿部茂行）
「バングラデシュとミャンマーの少数民族における持続的農業と農村開発」（研究代表者：安藤和雄）

他にさまざまな共同研究がセンター内外の研究者を組織して実施されてきた。日本学術振興会の拠点大学方式による日本・タイ学術交流事業に関わる共同研究，国際協力事業団の研究協力事業として実施されているバングラデシュとの共同研究「バングラデシュ農村開発研究」，あるいは日本学術振興会と日立国際奨学財団の助成による「マレーシア農村部における社会経済変動と文化変容」（マレーシア国民大学との共同研究）などである。

（2）中核的研究拠点（COE）形成基礎研究

平成 10 年度から 5 カ年計画で始まった文部省科学研究費補助金による COE 形成基礎研究「アジア・アフリカにおける地域編成 —— 原型・変容・転成」は，センターおよびアジア・アフリカ地域研究研究科が基幹研究機関となり，地域研究の中核的研究拠点の構築を目指すプロジェクトとして推進されている。研究リーダーの白石隆教授のもと，東南アジア（クラスターリーダー：阿部茂行教授），南・西アジア（同：小杉泰教授［A・A 地域研究研究科］），アフリカ（同：市川光雄教授［同研究科］）の 3 つの研究クラスターにより，地域を物質生活，地域社会・交換経済，地域システムのレベルでトータルかつダイナミックにとらえる総合的地域研究を実施している。また，研究分担者に加えて，両機関のすべての研究スタッフが一丸となって，地域研究の中核拠点とするための基礎的資料（図書・文書資料，地図・衛星画像資料）の網羅的な収集や国内外の地域研究者・研究機関とのネットワークの形成に向けたさまざまな研究活動が実施されている。

これまでに収集された図書資料はすでに 3 万点余に及んでおり，登録を終えた資料は京都大学附属図書館に配架され，公開されている。また収集されたアジア・アフリカの衛星画像や地図を既存の資料も含めて検索できるシステムを現在構築中である。収集資料の紹

介，研究会やシンポジウムなどの情報を含めて，これまでの全ての研究活動およびその成果が COE のホームページ（http ://coe.asafas.kyoto-u.ac.jp/index_ja.htm）で公開されているので，詳しくはそちらを参照されたい。

（3） その他の個別研究

現在のセンターのスタッフによる個別研究については第 5 章「研究スタッフ」の紹介の項をご参照願いたい。

2．国 際 交 流

センターで共同研究をする外国人研究者はどの時点をとっても 10 人をくだらない。こういう事情から真の意味で国際化を図るため，外国人研究者にも正式に所員会議に参加してもらい，円滑な意志疎通のため会議を英語で行うようにした。セミナーも英語主体のものを増やしている。

次に，外国人客員研究員はホームページ等を通じて完全なる公募に切り替えた。応募数は募集定員の 5 倍をこえ，毎回厳正な審査の上，候補者を決めている。大学間協定もできる限り前向きに取り組み，ハサヌディン大学，シンガポール国立大学，ソウル大学と着実にその数を増やすとともに共同プロジェクトを立ち上げ研究交流を深めている。日本学術振興会の拠点大学方式による交流プロジェクトも第 2 期に入り，これまでのタイだけとの交流から，フィリピン・マレーシア等第 3 国を巻き込んだマルチ交流へと展開している。

（1） 外国人研究者の招聘

1975 年度より客員研究員の制度をセンターに設け，これまでは主として東南アジア諸国の研究者を招聘してきた。これを東南アジア研究者に切り替え，優秀で成果のあがる研究者を広く募り，センターで研究に従事してもらうことになった。その他にも日本学術振興会特別研究員（COE）や，拠点大学交流による短期派遣研究員等々を随時受け入れ，研究室・図書館・インターネットの利用等最大限の便宜をはかっている。以下は 1998 年以降の外国人研究者のリストである。

A. 外国人客員研究員

Umar Kayam	1998	インドネシアにおける文学と政治	Gadjah Mada University（インドネシア）
Varaporn Vuddhakul	1998－99	東南アジアで重要な微生物感染症に関する研究	Prince of Songkla University（タイ）
Johan Silas	1998	東南アジア都市比較論	ITS（インドネシア）
Amphorn Wongthangsawat	1998－99	センター図書室のタイ語文献の件名	National Library of Thailand（タイ）
Richard A. O'Connor	1998－99	東南アジアにおける農業生態・権力・民族間関係	University of the South（アメリカ合衆国）
Kasian Tejapira	1998－99	タイ政治文化の変容	Thammasat University（タイ）
Ratan Lal Chakraborty	1998－99	デルタ開発史研究：特にベンガルとイラワジの比較	University of Dhaka（バングラデシュ）
Uup Sjahei Wiradisastra	1998－99	衛生画像解析による土地利用研究	Bogor Agricultural University（インドネシア）
Mulni Adelina Bachtar	1999	東南アジアの発展における女性：書誌	LIPI（インドネシア）
Muhammad Haji Salleh	1999－2000	伝統的マレーシア・インドネシア社会における文学の役割と機能	National University of Malaysia（マレーシア）
Terry A. Rambo	1999－2000	東南アジアにおける環境劣化と保全の人類生態学	East-West Center （アメリカ合衆国）
Vasin Chooprayoon	1999－2000	京都大学東南アジア研究センターにおける研究者のインフォメーションフローの研究	Rangsit University（タイ）
Thaveesilp Subwattana	1999	タイ―ラオス間関係の歴史	Mahasarakham University（タイ）
Edward Lamberthus Poelinggomang	1999	東インドネシア海域世界の交易史	Hasanuddin University（インドネシア）
Roengsak Katawatin	1999－2000	人口衛生画像解析による東南アジアの土地資源評価	Khon Kaen University（タイ）
Sukanya Nitungkorn	1999－2000	タイにおける教育改革	Thammasat University（タイ）
Aris Poniman Kertopermono	1999－2000	インドネシアにおける海岸地域の土地利用の研究	National Coordination Agency for Surveys and Mapping（インドネシア）

Donna Jeanne Amoroso	2000－01	マレー諸王国の運命・その比較史	Wright State University（アメリカ合衆国）
Che Puteh Ismail	2000	マレー語および文学：書誌	University of Malaya（マレーシア）
Voon Phin Keong	2000－01	植民地時代マラヤにおける負債による貧困問題	University of Malaya（マレーシア）
Nik Hassan Shuhaimi	2000	マレー世界における伝統的プラフ・船	National University of Malaysia（マレーシア）
Mojares Resil	2000	ナショナリストは19世紀フィリピンをいかに構築するか	University of San Carlos（フィリピン）
Kannikar Linpisal	2000－01	タイ語出版物の団体名記入について	Chiang Mai University（タイ）

B. その他の外国人学者

Thanawat Jarupongsakul	1998	デルタの21世紀像：熱帯アジア6大デルタ比較研究	Chulalongkorn University（タイ）
Sopsan Petchkam	1998	東南アジアにおける半乾燥地の発展と停滞に関する研究	Sakon Nakhon General Education Office（タイ）
Lye Tuck-Po	1998－2000	マレーシアと日本における自然保護地区管理の比較研究	World Wide Fund for Nature, Malaysia（マレーシア）
Sumalee Kondo	1998	タイ南部で流行したコレラの疫学的研究	Prince of Songkla University（タイ）
金　英夫	1999	アジアおよび大韓民国における大腸菌O157に関する研究	釜山大学（大韓民国）
Pornthiwa Kangawongha	1999	コラート高原地形発達史共同研究	King Mongkut Institute of Technology（タイ）
Thanawat Jarupongsakul	1999	東南アジアにおける半乾燥地の発展と停滞に関する研究	Chulalongkorn University（タイ）
Kriengsak Junthotai	1999	コラート高原地形発達史共同研究	Khon Kaen University（タイ）
Paiboon Pramojanee	1999	東南アジアにおける半乾燥地の発展と停滞に関する研究	Walailak University（タイ）

Nongnath Chairat	1999	京都及びその周辺におけるアジア・太平洋に関するインフォメーションセンターのディレクトリーとその書誌	Srinakharinwirot University（タイ）
Donna Jeanne Amoroso	1999－2000	マレー諸王国の歴史的軌跡についての比較	Wright State University（アメリカ合衆国）
Withaya Sucharithanarugse	1999	知的ヘゲモニーの構造（仕掛け）：テクノクラシーに関する共同研究	Chulalongkorn University（タイ）
Patma Vityakon	1999－2000	熱帯土壌の産出力に関する研究	Khon Kaen University（タイ）
Coeli Maria Barry	1999	ヘゲモニーの構造変化（ネットワークの比較史）	Thammasat University（タイ）
Leo Suryadinata	1999	東南アジアにおける国民性と国籍法：グローバル化の挑戦	National University of Singapore（シンガポール）
Thanet Aphornsuvan	1999	ヘゲモニーの構造変化（ネットワークの比較史）	Thammasat University（タイ）
Pasuk Phongpaichit	1999	ヘゲモニーの構造（仕掛け）：テクノクラシー	Chulalongkorn University（タイ）
Mohd. Taib HJ. Dora	1999	都会の貧困撲滅に関する比較研究：日本とマレーシアの場合	Technological University of Malaysia（マレーシア）
Trisilpa Boonkhachorn	1999	ヘゲモニーの構造変化（ネットワークの比較史）	Chulalongkorn University（タイ）
Sriprapha Petcharamesree	1999	ヘゲモニーの構造（仕掛け）：テクノクラシー	Mahidol University（タイ）
Julaporn Euarukskul	1999	ヘゲモニーの構造（仕掛け）：テクノクラシー	Thammasat University（タイ）
Pisit Boonchai	1999	漢方薬に関する日本人の意識と暮らし：比較研究	Mahasarakham University（タイ）
Suporn Katawatin	1999－2000	東南アジアにおける畜産を組み込んだ農業的土地利用の展開	Khon Kaen University（タイ）
Na Pombejra Dhiravat	2000	ヘゲモニーの構造変化（ネットワークの比較史）	Chulalongkorn University（タイ）
Dararatt Anantansuwong	2000	国家・市場・社会・地域統合のロジックとアジア経済	NIDA（タイ）

Charnvit Kasetsiri	2000	プリディ・バヨンの人生と仕事	Thammasat University（タイ）
Song Xianfeng	2000－02	東南アジア研究に関するメタデータベースの構築	China Investment Corporation of Science and Technology Development（中華人民共和国）

（2） 留学生の派遣と受け入れ

センターは東南アジア研究を志す研究者の養成と国際交流の目的で，センターの若手研究者，京都大学の大学院生，およびその他の学生，若手研究者を欧米と東南アジアに留学生として派遣し，あるいは留学の便宜を計ってきた。

また，東南アジア諸国の学生をセンターの研修員として受け入れ，その指導に当たった。1998 ～ 2000 年度に受け入れた外国人研究生（研修員）は次の通りである。

Wahyu Prasetyawan	2000－01	インドネシアのイスラムと政治（インドネシア）
Thatheva Saphangtong	2000－01	ラオスの土壌・土地利用システム（ラオス）

3．シンポジウム・セミナー・研究集会

東南アジア研究に関して内外の研究者とより広く意見を交換するため，これまでに数多くのシンポジウム，セミナー，ワークショップ，研究集会などが，センターの主催または他機関との共催で開かれた。最近 2 年間に開催された主なものについて簡単な趣旨とプログラムを掲げておく。

（1）日・タイ拠点大学セミナー

“Eco-history and the Rise/Demise of the Dry Areas in Southeast Asian Studies”　（1998 年 10 月 13 ～ 16 日，京都）

日タイ拠点交流プログラムの一環として京都で開催され，日本国内のみならず東南アジア諸国およびアメリカ・イギリスから約 70 名が参加した。

セミナーでは，相対的乾燥地社会の盛衰の過程でどのような生態史的変化があったのかという大きな問題設定に対して，重要かつ研究可能な副次的課題を学際的協力によって見出し，それらをいかに実施してゆくかに討論の焦点が絞られた。現在，実施段階にある副次的課題としては「耕地拡大による天水田化過程」「灌漑と生産安定性」「減水深と土地利

用」「森林産物の局在と土地条件」などがある。

発表と討論は5つのセッションで行われ，それらの主題と発表者は以下のとおりである。

総　括：福井捷朗，Srisakra Vallinbhotama, 新田栄治，Richard O'Connor

土地と土地利用：福井捷朗，春山成子，河野泰之，Paiboon Pramojanee, Sopsan Petchkam

古代文明の生態基盤：Mundardjito, U Aung Myint, Tran Quoc Vuong

内陸―瀬海関係：Sunait Chutintaranond, Dhida Saraya, Agus Aris Munandar，岩城高広

核心域の遷移：足立 明，Porphant Ouyyanont, Sompop Manarungsan

（2）共同研究「農村開発における地域性」

農村開発は，地域の問題群や村という地域の実体や，関係する人々の価値観に直接的にかかわる。分析を主とした，地域事象の説明原理を求めていく地域研究とは異なるという意味を込めて，応用的地域研究の一つとしての農村開発研究を位置付け追求するために，1996年度より研究会を継続して開催している。1998年度からは，環境問題をも積極的に視野にいれて研究会を発展させている。

1998年度研究会はスリランカとガーナにおいて実施されている国際協力事業団の研究協力プロジェクトを題材に，参加型アクション・リサーチ型の農村開発研究の手法，地域の見方に関して，各プロジェクトの主宰者の発表をもとに，活発な議論を展開した。また，1999年度は，参加型農村開発に焦点を当て，地方分権化，市場経済化，共同体活動からみた「参加」に関する報告と，ファーミング・システムと持続的農業に関する報告による研究会を開催し，活発な議論が展開された。

また，こうした議論を踏まえ，応用的地域研究を具体的に模索するために，国際協力事業団のチーム派遣ミニ・プロジェクト「住民参加型農村開発支援計画」，文部省科学研究費による国際学術研究「バングラデシュとミャンマーの少数民族における持続的農業と農村開発」の，2つの研究プロジェクトが，2000年4月からそれぞれ4年のプロジェクト期間で開始されている。

第1（通算第3）回研究会（1999年1月29日）
「スリランカにおける『参加型農村開発の確立』に関するJICA研究協力プロジェクト」
（龍谷大）中村　尚司

第2回研究会（1999年2月17日）
「ガーナにおける『農民参加によるアフリカ型谷田総合開発』に関するJICA研究協力プロジェクト」
（島根大）若月　利之

第3回研究会（2000年2月12日）
「参加型開発の展望と今日的課題」
（龍谷大）斎藤　文彦
第4回研究会（2000年2月22日）
「参加型農村研究・開発手法 —— FSRE（Farming Systems Research and Extension）の概要と最近の動向」
（農業総合研究所）横山　繁樹
「アメリカおよびヨーロッパにおける持続型農業研究 —— 土地利用型作物の場合」
（東北農業試験場）長谷川　浩

（3）研究会「生態資源管理の展望 —— 地域とグローバルの視点から」

生態資源管理は，単に個々の生物種を対象とするのではなく，より「場」に密着した総合的な視点が必要とされる。これは，東南アジアにおいて重要な視点であるが，異生態域においてはどうか。この研究会では，世界各地の特色ある場における特有の生態資源を取り上げ，今後の地域研究の軸にしていきたいと考えている。

第1回研究会（1999年2月24日）

本研究会では，熱帯地域，特に東南アジアの比較対象として，(1) カナダ・北海道の事例，そして (2) より広域な「場」として，クジラの生息域となっている海洋の事例を取り上げた。2人の特別講師による報告を受けて，生態資源利用に関わる伝統文化の再編，国家あるいはグローバルレベルで行われる生態資源管理の問題等について議論が交わされた。

「先住民族による海洋資源利用の二つのケース —— カナダ，北西海岸先住民と北海道アイヌ」
（北海学園大学）岩崎・グッドマン・まさみ
Management Regimes for Whaling: The Failure of the Inter-national Whaling Commission
（財団法人日本鯨類研究所）ダン・グッドマン

第2回研究会（1999年7月21日）

生態資源をテーマに，世界各地の状況を把握する一環として，ブラジルを中心にした話題提供を下記の要領で行った。ここでは，ブラジルアマゾンにおける熱帯林の中で，日系移民がアグロフォレストリーを通じ，自動車産業と協力している現状を分析し，生産資源の開発の新たな方向性をみることができた。

「ポエマ計画（アマゾン貧困撲滅環境計画）—— 特に企業戦略としての熱帯農林産物利用と農村のパートナーシップについて」
（富士総合研究所）泊　みゆき
「ブラジルの熱帯林の守り方 —— 森林保全と社会開発を両立させる手法について」
（日本・ブラジルネットワーク）原後　雄太

（4）共同研究「地下水砒素汚染のメカニズム」（1999年3月8日）

地球的規模の環境問題群への取り組みが，地域研究にも期待されている。インド西ベンガル州，バングラデシュ，中国内モンゴルなどで起きている地下水砒素汚染問題は，まさにそれらの問題群の一つである。本研究会では，現地でのフィールド・ワークと分析実験に基づく最近の研究成果の報告があり，活発に議論が展開された。なお，この研究会は，アジア・アフリカ地域研究研究科生態論講座とセンター生態環境部門の共同開催であった。発表題目と報告者は以下のとおりである。

「地下水砒素汚染地域の水文地質 —— 応用地質研究会の取組」
（株式会社興和）坂東　和郎・上坂　麻子
「バングラデシュの砒素汚染地域堆積物中の砒素汚染起源鉱物を探る」（新潟大）赤井　純治
「地下水砒素汚染における起源解明に向けて」
（新潟大）久保　喜裕
コメント
「砒素汚染水形成の原因と地質との関係」
（大阪市大）益田　晴恵・三田村宗樹

（5）共同研究「民族間関係・移動・文化再編」

過去30年間に東南アジアが経験した「開発の時代」は，一方で国民国家を枠組とするナショナリズム，近代化，経済発展，都市化としての変化，他方で資本，労働力，文化などのグローバル化の一環としての変化をもたらした。本研究会は，その社会変容の諸相を，民族間関係，移動，文化再編をキーワードにして考える。東南アジアを中心としつつも，東アジア，アフリカを含む他地域との比較を試みる。1998年から2000年度にかけて合計8回延べ26名の研究者が報告した。最新調査に基づく2本の個別発表を基本形式とした。

1998年度：第1回研究会（1998年7月2日）
「母系社会ミナンカバウの女たちと『大きな家』の100年」　（京大A・A研）加藤　剛
「モダニズムとバリ『文化』—— 倫理政策下の蘭領東インドを舞台にして」
（名工大）永渕　康之
第2回研究会（1998年9月7日）
「『同化政策』30年後のチャイニーズネス —— 中部ジャワ・スマラン華人の現在」
（京大）貞好　康志
「北タイ・クリスチャンラフ族の自嘲の語り —— 周縁的民族の社会的経験の形成」
（東大）西本　陽一
第3回研究会（1998年10月15日）
「民族生成の現場から —— 東アフリカにおける移住とアイデンティティー」
（京大）松田　素二
「客家の移住とアイデンティティー」
（東北大）瀬川　昌久
第4回研究会（1999年2月5日）
「イフガオ村の植林・環境保全と文化復興運動 —— 過去と未来，ローカルとグローバルを結ぶ企て」　（九州大）清水　展
「開発の政治と仏教の役割 —— タイの開発僧」
（北大）櫻井　義秀

第5回研究会（1999年3月30日）
「ラオスにおけるラオ語の現状 ―― ラオ語とタイ語の語彙比較から」（東京外大）鈴木　玲子
「テレビはジャワ農村に何をもたらしたか ―― インドネシアのテレビ視聴の現状報告」
（桃山学院大）小池　誠
1999年度：第1回研究会（1999年5月21日）
「女性と民族の境界，そして越境 ―― 北タイ・カレンの場合」（京大A・A研）速水　洋子
「インドネシアのバティック産業 ―― 植民地の『近代』と脱植民地の『伝統』」
（東大）関本　照夫
第2回研究会（2000年1月22・23日）
大主題「実践仏教の諸相 ―― テキスト・コンテキストの地域間比較」を設け，西南中国を含む東南アジア上座仏教文化圏における実践と制度の地域間比較を試みるシンポジウム形式をとった。
「開催主旨説明」　林　行夫
「ビルマ実践宗教研究再考」
（広島大）高谷　紀夫
「ビルマ語で翻訳編纂された仏教典籍について」
（大阪外大）原田　正美
「シャン仏教における民間知識人と教義解説書の役割 ―― タイ北部のタイ・ヤイの事例」
（学振特別研究員）村上　忠良
「仏教と聖遺物崇拝」（龍谷大）入澤　崇
「東南アジア上座仏教文化圏における『身体』と『テキスト』」　林　行夫
「タンマカーイ寺信徒における社会観と自己」
（東大）矢野　秀武
「倶生神の展開」（桃山学院大）長尾佳代子
「タイとカンボジアにおける『尼になる』という選択」（愛国学園大）高橋　美和
「上座部仏教圏周縁の少数民族における宗教の動態」（京大A・A研）速水　洋子
（名大）イサラー・ヤーナータン
「上座仏教と周縁社会の動態 ―― 中国雲南省・徳宏地区，タイ・ヌーの事例」
（岐阜教育大）長谷川　清
2000年度：第1回研究会（2000年7月8日）
「世俗経験としての『開発』活動 ―― タイ東北地方の開発僧と村落宗教の再編」
（東京外大）泉　経武
「マレーシア・ケダーのタイ人居住区の状況について」（鹿児島大）黒田　景子

（6）共同研究「フロンティア社会の地域間比較研究」

平成10年度までセンターの共同研究として実施していた「フロンティア社会の比較研究」を発展させ，科研費基盤研究（B）により平成11年度から3カ年計画で研究会を重ねている。

開拓前線の西漸によってアメリカ社会が形づくられたという，F. J. Turnerの「フロンティア仮説」は，アメリカ合衆国だけでなく，世界各地の地域（国家）形成のプロセスを説明する理論としていまも議論の対象となっている。一方，東南アジア各地で臨地調査を行ってきた東南アジア研究者のあいだで，東南アジア地域をフロンティア社会として捉える見方がある。東南アジアを「フロンティア世界」として捉えるこのような見方を，地域間の比較からより相対的かつ実証的に検証するために，本研究が計画された。アジア，アフリカ，オーストラリア，アメリカ，日本などを対象にフィールド・ワークを行ってきた

研究者が各地域の調査結果をもちより，地域間比較によってフロンティア社会の特徴を描こうとしている。そのために，① 各地域・各時代のフロンティア社会の地域性，② フロンティア社会の永続性，③ ある地域を「フロンティア社会」として捉えることの今日的意義などを明らかにすることを目指している。

平成 11 年度には以下の研究会を実施した。

第 1 回研究会（1999 年 7 月 2 日，センター）
「生態論的視点から見たフロンティア論 —— エコトーンとエコロジカル・セッティング，エコロジカル・プロセス」　田中　耕司
第 2 回研究会（1999 年 8 月 3 ～ 5 日，神戸松蔭女子学院大学大山ロッジ）
「フロンティアの危機 —— 北タイにおける国家領土，環境保護と山に住む人々」
（京大 A・A 研）速水　洋子
「アフリカの内的フロンティア論 —— バントゥの移動を中心に」
（京大）塙　狼星・小松かおり
第 3 回研究会
（1999 年 10 月 15 ～ 17 日，久留米大学）
「日本の開発史からみた東南アジアフロンティア社会論」　（久留米大）江藤　彰彦
「絵図にみる有明海干拓の進展過程」
（柳川古文書館）田渕　義樹
「景観のなかの開発定住史」
（神奈川大）香月洋一郎
第 4 回研究会（1999 年 12 月 23 日，慶応大）
「フロンティア —— アメリカ合衆国史研究の立場から」　（日本女子大）小塩　和人
「ポール・ゲイツの夢 —— あるフロンティア史家の肖像」　（慶應大）岡田　泰男
第 5 回研究会（2000 年 2 月 25 日，センター）
「ナマコ資源の多様性」
（民博地域研）赤嶺　淳
「海域の系譜 —— 西セレベス海における人口移動とフロンティア」　（京大）長津　一史
「東南アジアフロンティア論と海域世界」
立本　成文

（7）Relations between Environment and Development in the Mountains of Northern Vietnam and Thailand　（2000 年 2 月 14 日）

この国際セミナーの目的は，北ベトナムとタイの山地部をとりあげ，開発と環境の問題に対してバランスのとれた議論のできる場を提供しようとするものであった。国内外から，人類学，経済学，農学の諸分野 5 人の研究者に話題提供をお願いした。地域の開発と環境の相克はそれぞれの地域特有の様相を呈すると同時に，世界規模の開発や環境政策にも影響されるため共通の現象も見られる。具体的な方策についての深い議論には至らなかったものの，学際研究や地域間比較研究を駆使してセンターが開発と環境の問題に貢献できる点は多々あると思われる。

Development Trends in Vietnam's Northern Mountain Region
（ベトナム国立大学）Le Trong Cuc；（センター外国人研究員）Terry Rambo

People in Between : Conservation and Conversion of Forest Lands in Thailand

（東大）佐藤　仁

Policy Impacts on Environmental Resource Management : A Case Study of Deforestation in the Northern Hill Region of Vietnam　（北大）橘　永久

Agricultural Diversification in the Mountainous Areas of Northern Vietnam　柳澤　雅之

（8）研究会「環ヒマラヤ広域圏における生態資源利用の比較地域間研究」

（2000年2月16日）

東南アジアを，これまでとは少し異なった視点からとらえ，周辺との比較の中から，その実像をうかびあがらすというのが，この研究会の骨子である。ヒマラヤを中心にして，周辺の東南アジア，南アジア，西南アジア，およびチベットとモンゴルという5つの大生態系において，生態資源がいかに利用されてきているかを比較しようとする試みである。セミナーの発表は以下のとおりであった。

「イランキャビール砂漠東縁における土地・水利用を中心に」　（大東文化大）原　隆一
イランの乾燥砂漠において，水を中心にした土地利用の実態について，キャビール砂漠を舞台に，周辺の乾燥地帯を含めた土地利用形態について論じた。

「内蒙古ムウス砂地の人と自然の問題 —— 砂漠化の実態とは?」　（千葉大）小林　達明
中国黄土高原の北に位置するムウス砂地において，10年にわたる砂漠緑化とその問題点について論じた。

上記二つの議題提供をもとに，環ヒマラヤ各地の生態系の状況について総合討論を行った。

（9）日・タイ拠点大学セミナー

“The Future of Southeast Asian Studies”　（2000年3月10～11日，バンコク）

バンコクのタマサート大学にて日タイ拠点交流プログラムの一環としてワークショップThe Future of Southeast Asian Studiesを開催した。日本からは阿部茂行，白石隆，パトリシオ・アビナーレス，濱下武志，末廣昭，鳥居高の6名が出席した。「東南アジア研究の将来」というテーマはいくら議論しても答えは出ない。それをワークショップのテーマとしたのは，折りからタマサート大学に東南アジアプログラムが設立され，これが時機に適ったテーマであったことによる。しかし，それにしても，東南アジア研究の中心が東南アジアに移ったこと，これから将来，東南アジアの東南アジア研究者，研究センターと

の交流がますます重要となることがあらためて確認された。また三つの共同研究「ヘゲモニーとテクノクラシー」「ネットワークの比較史」「国家，市場，社会，地域協力」については，報告と討論によって，ヘゲモニー，テクノクラシー，ネットワークなどの概念について共通理解を深めるとの趣旨はほぼ達成できたと考える。

(10) 東南アジア地域研究ゼミ

このゼミは，1）東南アジア研究センターと大学院アジア・アフリカ研究科に所属する大学院生や非常勤研究員等の若手研究者が主体的に成果発表と討議の機会を持つことと，2）自然科学系および社会科学系双方の若手研究者が地域研究に関する互いの知見・構想を交換する場を設けることを目的として，1999 年度から開始された。

第 1 回研究会（1999 年 6 月 9 日）
「紅河デルタ村落におけるドイモイ前後の農村変容」　柳澤　雅之
「生活の場としての森と国家の森 —— 東北タイの事例から」　（京大）藤田　渡
第 2 回研究会（1999 年 6 月 23 日）
「タイ東北部コラート高原における地形と表層物質の形成過程」　吉木　岳哉
「バリ島のガムラン・ゴン・クビヤールの形成過程」　（京大）真崎　恵子
第 3 回研究会（1999 年 7 月 14 日）
「東北タイの村落形成と女性の生活史」
（京大 A・A 研）加藤眞理子
「シャムの国家とチャイニーズ」
（京大 A・A 研）水谷　康弘
第 4 回研究会（1999 年 12 月 20 日）
「IKAN BILIS をめぐる利用と流通 —— '99 年夏マレー半島を歩いて」
（京大 A・A 研）河野　元子
「変わりゆく村の姿 —— ハノイ近郊村 Trieu Khuc（潮曲）の事例から」
（京大 A・A 研）川上　崇
第 5 回研究会（2000 年 1 月 24 日）
修士論文公聴会予備練習（5 人の発表）
第 6 回研究会（2000 年 6 月 20 日）
「トンコナンから出て行った人々 —— インドネシア・トラジャ地方におけるペンテコステ教会の発生と社会的コンフリクト」
（京大 A・A 研）江口佐和子
「イフガオ，棚田耕作民にみる資源の重層的利用権と管理」　（京大 A・A 研）葉山アツコ
第 7 回研究会（2000 年 9 月 18 日）
「混栽樹園地の利用・展開にみられるジャワ島の地域性」　（東京農工大）及川洋征

4．地域研究フォーラム

センターは，1998 年 4 月に創設された大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とともに，1999 年 3 月 1 日に「21 世紀の地域研究」と題した「地域研究フォーラム」を開催した。その第 1 部は，フィールドワークの伝統を問い直し，地域研究への新たな展望を議論するものであった。また，第 2 部では，5 つの分科会を設けて具体的なテーマのもとに異

地域間の研究交流のありかたを模索することをめざした。

以下，フォーラムのテーマと話題提供者の一覧を掲げる。

第 1 部：パネルディスカッション「21 世紀の地域研究」　　司会：小杉　泰
パ ネ ラー：応地利明，島田周平，立本成文，田中耕司，坪内良博，古川久雄，山田　勇

第 2 部：以下 5 つの分科会を同時に開催した。

分科会 1 ：宗教と権力　　司会：加藤　剛
「インドにおけるダルマ，カースト，ネーション」　　（京大 A・A 研）田辺　明生
「イスラームにおける宗教知識人と権力 —— ウラマーとスーフィーを中心に」　　（京大 A・A 研）東長　靖
「東南アジア上座部仏教文化圏の宗教と政治 —— その所在と視点」　　林　行夫
「都市宗教運動からみた権力の位相 —— ラスタファリ運動を手がかりとして」　　（京大）石井　美保
コメント：（筑波大）池上　良正
（東　大）市川　裕

分科会 2 ：生態と社会　　司会：島田　周平
「水産生態資源の東南アジアにおける地域性」　　（京大 A・A 研）岩田　明久
「マダガスカルにおけるナマコ採取の現状と将来」　　（京大 A・A 研）飯田　卓
「雲南の少数民族における共有林の利用と管理」　　（京大）郭　艶春
「タンザニアの在来灌漑システムにみる組織と運用」　　（京大 A・A 研）池野　旬
コメント：（筑波大）佐藤　俊
（民　博）秋道　智弥

分科会 3 ：技術と生業　　司会：海田　能宏
「アフリカ熱帯雨林における焼畑農耕と土地利用」　　（京大 A・A 研）木村　大治
「焼畑農耕の変容 —— ザンビア・ベンバ社会の市場経済化への対応」　　（京大 A・A 研）大山　修一
「東北タイにおける天水田の発生」　福井　捷朗
「Asian Ecotechnology Network 構築の試み」　　海田　能宏
コメント：（宇都宮大）富田　正彦
（愛 媛 大）遅沢　克也

分科会 4 ：開発と行政　　司会：阿部　茂行
「タイにおける行政の担い手：農務省官僚の出自 —— 1892 〜 1940 年」　　（京大 A・A 研）玉田　芳史
「地方行政官僚の生き残り方 —— 植民地国家，独立闘争，国民国家」　　（京大）岡本　正明
「ザンビアにおける『開発』介入と地域住民間のインターアクション」　　（京大 A・A 研）荒木美奈子
「インドネシア経済危機におけるコミュニティーと国家」　　水野　広祐
コメント：（日本福祉大）余語トシヒロ
（上智大）村井　吉敬

分科会 5 ：環境と健康　　司会：吉田彌太郎
「中央アジアの水問題」　　（京大 A・A 研）石田　紀郎
「環境問題をどう捉えるか —— バングラデシュの地下水砒素汚染問題」　　安藤　和雄
「アフリカにおける環境の利用とその改変 —— 生態と技術」　　（京大 A・A 研）荒木　茂

激動の東南アジアを感染症のダイナミズムに見る：
「アジアを震源地として世界に広がる新しい感染症」　松本　千穂
「近隣国から東南アジアへ輸入される感染症」
西渕　光昭
「東南アジアに特有の感染症」
Varaporn Vuddhakul
コメント：（静岡大）河合　香吏
（日本福祉大）穂坂　光彦

5．コロキアム

東南アジア研究センターの研究部は，研究スタッフの相互理解の促進と問題提起による議論の活性化を目的として，所員会議終了後，所員討論会を実施してきた。一方，1998年度にアジア・アフリカ地域研究研究科が新たに開設され，同研究科との連携が模索されることになり，1999年3月には，東南アジア研究センターと同研究科は，合同で地域研究フォーラム「21世紀の地域研究」を開催した。同研究科との連携を模索する一環として，従来，所員向けに開催されていた所員討論会を発展的解消，東南アジア研究センターの関係者ばかりでなく，同研究科の学生，スタッフの参加を呼びかけ，月例の所員会議後に，討論会ではなく研究会として東南アジアコロキアムを1999年度から開始した。また，1999年度からは，外国人研究者が所員会議に正式に出席することになったことと，外国人助教授がセンター研究部スタッフとして加わったことを契機に，所員会議の使用言語が主に英語となったことを受け，東南アジアコロキアムも，英語を主な使用言語とし，外国人研究者が討論に積極的に参加出来るような研究会に改めた。1999年度の発表題目と報告者は以下のとおりである。

1999年4月22日　“Economic Approaches to Asia”　阿部　茂行
5月27日　“Southeast Asia as an Epistemic Project and a Cultural Region” Richard A. O’Connor
6月24日　“Knowing Forest : An Example for Malaysia”　Lye Tuck-Po
7月15日　“The Political Lesson of the Thai Economic Crisis : A Critical Dissection of Electocracy” Kasian Tejapira
10月28日　“The Relation between Siam and Lao Kingdoms in the 19th Century” Thaveesilp Subwattana
11月25日　“Nation-States, Indigenism and Citizenship in Southeast Asia : Some Preliminary Thoughts” Leo Suryadinata

2000年1月27日 “Agricultural Land Use in Indonesia : Coastal Geographical Information Assessment” Aris Poniman Kertopermono “Applications of Remote Sensing and Geographic Information Systems for Land Evaluation in NE Thailand” Roengsak Katawatin

2月24日 “Evolution of Rain-fed Rice in Northeast Thailand” 福井　捷朗

5月25日 “The Cultural Turn in Philippine Historiography” Caroline S. Hau

6月22日 “Ryukyu Merchants and Their Pepper Trade under Tributary Trade System : 15–17 Centuries” 濱下　武志

7月12日 “情報処理室の運営について” 木谷　公哉

9月28日 “Making Mindanao : The Origins of the Present Crisis” Patricio N. Abinales

6．その他の研究会

上記のシンポジウム，研究会，東南アジアコロキアムのほかに，センタースタッフを中心としてテーマ別に組織された研究会や，センターの客員部門の外国人研究員や折々にセンターを訪問する外国人研究者による特別研究会などがあり，常時センター内外の人々の出入りがたえない。

7．東南アジアセミナー

センターでは1976年以来毎年，主に東南アジアおよびその周辺地域の学術的研究に関心を持つ学生または大学卒業者を対象として受講者を募り，東南アジアセミナーを実施している。近年は，年ごとに異なるテーマを決め一段とセミナー色を濃くしてきた。

1999～2000年度のセミナーのテーマと内容，講義題目，講師の一覧を揚げておく。

1999年度

テーマ「地域研究と空間情報の利用

――フィールドワークとリモートセンシング・GIS」（9月6～10日）

この東南アジアセミナーは，文部省科学研究費（中核的研究拠点形成プログラム）「アジア・アフリカにおける地域編成」の協力を得て，実施された。近年の人工衛星画像解析や地理情報システムなどのコンピュータ関連技術をトゥールとして地域研究に取り込み，

より有効なフィールドワークの方法論を確立しようとする試みであった。

「衛星画像解析の発展」　（京大）鳥井　清司
「空間情報と RS・GIS」　吉村　充則
「地域を測る①『歩く・見る』と『測る』」　田中　耕司
「地域を測る② 植生と農業的土地利用」　（京大 A・A 研）荒木　茂
「地域を測る③ 生活・生業圏」　（農業環境技術研究所）David S. Sprague
「地域を測る④ 経済活動と人口分布を探る」　（東京農工大）中山　幹康
「地域を描く① 地域情報のマッピング」　（大阪市大）永田　好克
「地域を描く② 農業生産の持続性」　（京大）縄田　栄治
「地域を描く③ 農村社会のダイナミズム」　河野　泰之
「地域計画と空間情報の利用」　（京大）水野　啓
「地域環境保全における空間情報の利用」　（千葉大）本多　嘉明

これらの講義に加えて，ラボ実習と野外実習を行った。ラボ実習では，受講生が実際に，空間情報ソフトを使って各種の地図・画像情報を操作した。野外実習では，嵯峨野近郊に出かけて，水田を主とする農地の地形，土壌，土地利用，栽培作物，農業施設などを半日がかりで調べた。

2000 年度

テーマ「20 世紀の東南アジア ―― 軌跡と展望」（9 月 4 ～ 8 日）

臨地研究を中核に据え，生態，文化，社会，政治，経済の相互関連を重視する地域研究の立場から，東南アジアの 20 世紀を理解するための重要な論点と視角を探求することを目指した。受講生は，各分野で活躍中の講師たちによる講義と自由討論を通じて，東南アジアの過去と現在を再考するとともに，東南アジアの将来像を展望する手がかりを得ることが出来たと思われる。

「東南アジアの 20 世紀 ―― 村の体験」　（京大 A・A 研）加藤　剛
「東南アジアの 20 世紀 ―― 国家と地域化」　白石　隆
「研修生の紹介 / 自由討論」
「農業近代化の展開 ―― 東南アジアの 20 世紀は日本とどう違ったのか?」　田中　耕司
「東南アジアの森林物産利用 ――100 年の軌跡」　（京大 A・A 研）竹田　晋也
「海民，移動，国家 ―― スルー・マカッサル海域の系譜」　（京大 A・A 研）長津　一史
「自由討論」
「Nationalism and the Problem of History」　Caroline Sy Hau
「周縁における儀礼と宗教」　速水　洋子
「民族文化の再編」　（金沢大）鏡味　治也
「自由討論」
「国家と国民の形成」　（京大 A・A 研）玉田　芳史
「国民教育の展開」　西村　重夫
「政治的動員と参加 ―― ナショナリズム，革命，民主化，そして市民社会」　（神戸大）片山　裕
「自由討論」

「グローバリゼーション下の東南アジア農村」　　「ネットワーク論で考える東南アジア」
（東北大）米倉　　等　　濱下　武志
「何が国の経済格差を生むのか」　吉原久仁夫　　「自由討論」　　藤田　幸一

8．資料収集および情報処理

東南アジアの研究を深化，発展させるために各種の資料収集がとりわけ重要なことは言うまでもない。1965 年に図書室が開設されて以来，東南アジア地域にかかわる専門書を中心に収集を進めてきた結果，2000 年 3 月 31 日現在 97,245 冊（洋書 75,338 冊，和漢書 21,907 冊）を登録し，所蔵するにいたった。これらの資料のうち単行書の 5 割弱は，インターネット上で検索可能である。現地語資料を除く全蔵書に学外からもアクセスできるように，1999 年 11 月より溯及入力を開始している。研究資料としては次のような特記すべき資料がある。

（1） 現地語資料

1983 年度以来，東南アジア諸地域の言語で出版された文献の組織的収集を目指して，特別予算の要求を行なっている。1983 年度から 5 カ年間の第一次収集計画，および 1988 年度からの 10 カ年間の第二次収集計画を終わり，1998 年度からの 5 カ年間の第三次収集計画が始まった。現地語図書資料は，レファレンス図書を除いてタイ語約 6,000 冊，インドネシア語約 5,000 冊，マレー語約 330 冊，ビルマ語 210 冊があり，その他に特殊コレクション（別置）としてフォロンダ・コレクション 7,000 冊，チャラット・コレクション 9,000 冊，ベトナム語 2,200 冊がある。特に，タイ語文献の「チャラット・コレクション」およびフィリピンに関する「フォロンダ・コレクション」は世界に誇るコレクションである。

また，1986 年度からは，東南アジア諸語文献研究部門が新設され，東南アジアから書誌学者やカタロガーを招聘することができるようになったので，彼らの協力によりこれらの資料の整理もできるようになった。「チャラット・コレクション」については 3 巻よりなる冊子体の目録と「フォロンダ・コレクション」の蔵書目録がある。今後もさらに充実した収集を目指している。タイ語資料についてはセンター独自のデータベースを構築している。

（2） マイクロフォーム

1971年以降，「インドネシア関係文献マイクロフィッシュ」の一部を継続的に購入したのを始め，その後機会のあるごとにその充実をはかってきた。この結果，現在までにマイクロフィルム約5,500リール，マイクロフィッシュ約4,300ケースが納められている。このうち，フィルムは，東南アジア諸国統計資料，インドシナ三国近・現代史資料，第2次大戦下の東南アジア関係資料などを含み，フィッシュは，コーネル大学およびオランダ王立言語民族文化研究所が所蔵するインドネシア関係資料を主としている。

（3） 雑　誌

東南アジアを専門に対象とする雑誌は，創刊号から揃っている*BEFEO*をはじめとして50タイトル以上に及ぶ。東南アジアを含むアジア一般，熱帯，開発に関するタイトルは43点である。このほかすでに刊行されていない雑誌もかなりあり，東南アジア関係では有名なLoganの*JIAEA*や*Djawa*をも含めて18タイトル，アジア関係では，Londonから出た*Asiatic Quarterly Journal*及びその後誌（1886－1912）や*Mondes Asiatiques*など12タイトルある。これらの地域関係雑誌の多くは欧米発行のものであるが，東南アジアの大学・研究機関の刊行する雑誌も増えてきており，できるだけ収集するように努めている。その他*Prisma, Tenggara*などのような各国語の週刊誌，総合雑誌，文芸批評誌も定期購読している。年刊の遂次刊行物を除いて約1,500タイトルはインターネット上で検索が可能である。

（4） 統　計

東南アジア，東アジア諸国の政府刊行物，および国際機関の刊行物を中心に，購入または寄贈として収集している。このうち継続して購入している刊行物は26種である。国民所得，財政，金融，貿易，労働，人口など経済統計が大半で，国別ではインドネシアが多く，地方統計も多く含まれている。その他に東南アジア各国のセンサスを，刊行の都度，可能な限りで収集している。

（5） 地　図

所有する地図は東南アジア地域はもとより，インド，バングラデシュ，スリランカ，ネパール，パキスタン，中国，朝鮮，オーストラリア，太平洋諸島及び日本周辺と，ほぼ南

アジアから東アジア全域をおおっている。製作年代も，戦前のものから近年の航空測量によるものまで，多岐にわたっており，現在約 2 万 8 千枚余に及んでいる。この中には，旧陸地測量部による南アジア，東南アジア，東アジアの 2 万 5 千分の 1， 5 万分の 1 地形図等，歴史的にみても貴重なコレクションもある。また，数は少ないが，東南アジア各国の土地利用図，地質図，植生図などの主題図も含まれている。なお，所蔵する地図や人工衛星画像データについては，COE 形成基礎研究プロジェクトの助成を得て，オンラインで検索することが可能になった。詳しくはセンターのホームページを参照されたい。

（6） 人工衛星画像データ

1978 年から人工衛星画像データの収集をはじめ，現在 3 千数百シーンの画像データを所蔵している。対象地域は，東南アジア全域，インド亜大陸東半分からバングラデシュ，南中国の一部および日本の一部である。とくに東南アジア大陸部は隈なくカバーされている。当初は Landsat MSS の 100 万分の 1 の白黒ポジフィルム（バンド 4， 5 及び 7）を中心に集めていたが， やがて Landsat TM や MOS の 25 万分の 1 フォルスカラー写真に切り換え，近年はディジタルデータへ移行しつつある。

センターでの人工衛星画像データ利用は，従前，目視による，広域の地形，土地利用，植生，水文環境などの判読に限定されていたが，近年は，ディジタル処理を行うことにより，また他の情報と重ね合わせて地理情報システムを構築することにより，より多様な利用を進めている。なお，所蔵する画像データについてはセンターのホームページから検索可能である。

（7）情報処理

情報処理室では，最近のインターネットの普及に歩調を合わせて，UNIX サーバを設置し，ホームページ，e-mail，ファイル転送等のサービスを提供している。所員や外国人研究者をはじめとするセンター関係者が信頼して利用できる情報処理環境を維持・発展させている。

これには先のサービスの他，文書作成，画像処理，データベース作成，統計解析などのソフトの導入と作成がある。利用相談そしてマニュアル作成もサービスの重要な項目である。

現在，情報処理室で利用可能な機器は以下のとおりである。

・DOS/V パーソナルコンピュータ　5台（Windows 2000 日本語版）
・Power Macintosh（MacOS 8.5）　1台
・レーザープリンタ　2台（カラー1台を含む）
・A4スキャナー　1台
・ノート型パーソナルコンピュータ　5台

情報処理室以外で利用可能な機器には次のものがある。
・プロッター
・GIS 機器
・デジタルカメラ
・A3スキャナー

9．出　版

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は，センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは，1963年以来季刊学術誌『東南アジア研究』を出版し，レフリー制度のもとに学内外の東南アジア研究者の論稿を掲載してきた。2000年9月現在38巻2号（通算153号）を数え，所収論稿は膨大な数に上る。

また東南アジア研究センターでは，東南アジア地域研究の発展に寄与するオリジナルな学術研究の発展の場として，以下の4種類の叢書を刊行している。

叢　書　名	言　語	出　版　社
『東南アジア研究叢書』	和文	創文社
Monographs of Southeast Asian Studies (English-language Monograph Series)	英文	ハワイ大学出版局
『地域研究叢書』	和文	京都大学学術出版会
Area Studies Monographs (English-language Monograph Series)	英文	京都大学学術出版会

『東南アジア研究叢書』は24冊，Monographs of Southeast Asian Studies は20冊，『地域研究叢書』は13冊，Area Studies Monographs は1冊を刊行してきた。これまで主としてセンター所員の研究成果の発表の場であったが，2000年4月よりセンター内外を問わず投稿を受け付けることになった。

研究報告書シリーズは，シンポジウムの報告書，文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書，その他の研究奨励金を受けて行った研究の報告書，共同研究の中間的な成果，外国人研究員の研究報告書など各種のものを含んでいる。2000年9月現在合計85冊を数える。より機動的に運営されていたディスカッション・ペーパーシリーズ，リプリント・シリーズは，ワープロなどの普及により，シリーズとしては発行を中止している。

10. 広　報

研究活動広報のため，東南アジア研究センターでは，和文要覧，*CSEAS Report* とニューズレターを発行している。和文要覧と英文要覧（*CSEAS Report*）は隔年刊で，和文要覧は本冊で10冊目，*CSEAS Report* は The eleventh report が1999年に出版された。1979年創刊のニューズレターは，以後現在に至るまで春と秋の年2回発行し，センターの現況を関係者に伝えている。また広く学生や一般にセンターを紹介する冊子として，パンフレット（日・英）を発行している。

昨年よりセンターのホームページ（http：//www.cseas.kyoto-u.ac.jp）で，研究会の案内，スタッフ紹介，研究プロジェクト，出版物，公募情報など最新の情報を発信するようになった。また，センター所蔵の地図・人工衛星画像・写真もホームページで公開し始めており，今後一層の充実を図るつもりである。

第4章　大学院教育

農学研究科：熱帯農学専攻（協力講座）

1981年に農学研究科に熱帯農学専攻が設置され，センターの農学系の教授，助教授らが協力講座として3講座（熱帯稲作論，熱帯地文環境論，熱帯水文環境論）を担当してきた。熱帯農業に関連した環境，生態，農村発展論にわたって長期のフィールドワークを中心として教育訓練を行い，これまでに計27名の修士ならびに博士修了者を送り出してきた。この内，留学生は11名で，大半が博士号を取得して帰国し，それぞれの職場で活躍している。

なお，熱帯農学専攻は，農学部・農学研究科の改組に伴って1996年をもって廃止された。協力講座としては，現在も数名の博士課程在学生の教育を続行している。

人間・環境学研究科：東南アジア地域研究講座（協力講座）

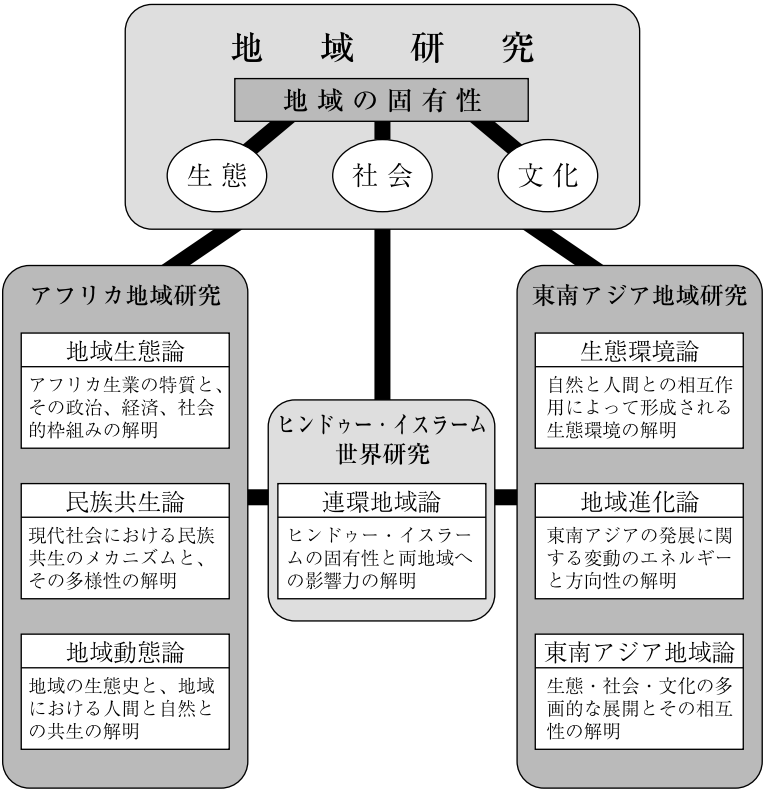
人間・環境学研究科の第2専攻（文化・地域環境学専攻）が1993年度に発足するとともに，センターの教授・助教授ほぼ全員が東南アジア地域研究講座（協力講座）担当として参画し，ほぼセンターの5部門14分野に沿った授業科目を設けて学生を募集してきた。各年度の入学者数は，1993年度6名（うち留学生1名），94年度4名（うち留学生3名），95年度4名，96年度3名，97年度3名である。今や10数人の地域研究者が巣立ちつつある。1998年度からは，アジア・アフリカ地域研究研究科の発足とともに，東南アジア地域研究講座としては学生募集をしていない。

2000年度現在の在籍者は，博士課程に6名。それぞれが東南アジア諸地域に自分のフィールドを持ち，長期にわたる調査研究を進めている。

アジア・アフリカ地域研究研究科：東南アジア地域論講座（協力講座）

1998年4月，アジア・アフリカ地域研究研究科が発足した。この研究科は，東南アジア地域研究専攻とアフリカ地域研究専攻の2専攻から構成されるが，東南アジア地域研究専攻の中に連環地域論講座を置き，東南アジアとアフリカの両地域に連接するヒンドゥー・イスラーム両世界をも含めて，地域間比較を視野に入れた地域研究教育を進めて

アジア・アフリカ地域研究研究科の構成



いくことにした。それぞれの地域の歴史が育んできた生態・社会・文化の固有性を解明するとともに，諸地域が抱える現代的な課題についても地域研究の方法を通じて考究していく。本研究科の構成は付図のとおりである。

東南アジア地域研究専攻は，３基幹講座を創設したものであり，一方アフリカ地域研究専攻は，人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻のアフリカ地域研究講座（旧アフリカ地域研究センター）を移行させたものである。本研究科は５年一貫制の博士課程を設けており，学生定員は東南アジア地域研究専攻 14 名，アフリカ地域研究専攻 10 名の計 24 名である。

センターは，東南アジア地域研究専攻の東南アジア地域論講座全体を協力講座として担当し，このために教授５，助教授３名を充てている。さらに，研究科共通科目担当として，

その他の教授・助教授全員があたり，全センターをあげて大学院教育に参加することとなった。

本研究科の東南アジア地域研究専攻の教育面における大きな特徴は，集団指導体制である。この専攻に入学した1回生は主指導教官1名に加えて副指導教官2名を自主的に選ぶことができる。この制度によって，専攻としては比較的幅広い分野から学生をリクルートすることができ，また学生は比較的自由に研究テーマを選ぶことができる。学生は，5年一貫制教育の中で，長期にわたる本格的なフィールドワークを通して，地域の生態・社会・文化の相互関係を総合的に把握する能力を養うことを期待されている。

2000年5月現在，最上級生が第3年次に進んだばかりであるが，すでに大半の者が比較的長期のフィールドワークに挑んでいる。

第5章　研究スタッフ

東南アジア研究センターの現職研究スタッフの略歴，現在の研究テーマ，主要な研究業績などを紹介する。各研究スタッフは，研究部では生態環境部門，社会生態部門，統合環境部門，地域発展部門，人間環境部門，地域研究第二客員部門，非常勤講師・非常勤研究員等，続いて資料部の順に配列されており，１．最終学歴，２．学位，３．専門分野，４．現在の研究テーマ，５．略歴，６．主要な研究業績の順である。

１．研　究　部

生態環境研究部門

山田　　勇

1.　京都大学農学部，1966.
2.　京都大学農学博士，1979.
3.　森林生態学
4.(1)　東南アジア熱帯多雨林の生態資源
(2)　地球生態系における東南アジアの位置づけ
(3)　熱帯林生態系における人と自然のかかわり
5.　1975年，東南アジア研究センターに助手として採用される。1980年農林水産省関西林木育種場，1981年同関東林木育種場室長をへて，1988年より，東南アジア研究センター助教授。京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教授を兼任。1995年より教授。人間・環境学研究科およびアジア・アフリカ地域研究研究科併任。

1965年以降，以下の海外研究活動を行う。1965年タイ，カンボジア，マレーシアの植物調査，1968～70年インドネシアの森林調査，1976年インドネシアの森林調査，1977年タイ，マレーシア生態調査，1978年フィリピン生態調査とインドネシア調査，1979年北米山林調査，1982，1983，1984～86年までブルネイ森林調査，1988年北米及び中米の森林調査，1988～89年パプアニューギニア，インドネシアの低湿地調査，1990年タイ，インドネシア，中国，1991年マレーシア，タイ，ラオス，中国の生態調査。1992年アマゾン，マレーシア，インドネシア，1993年アマゾン，マレーシア，インドネシア，1994年ギリシャ，トルコ，エジプト，エクアドル，ボリビア，グアテマラ，ペルー，インドネシア，マレーシア，ブルネイ。1995年中国，ネパール，ホンコン。1996年マレーシア，ネパール，フィンランド，スウェーデン，ノルウェー，チェコ，オーストリア，ポーランド，ケニア，カメルーン，フランス。1997年マレーシア，中国，アメリカ，カナダ，エクアドル，ペルー，ボリビア，チリ，アルゼンチン。1998年マレーシア，中国，ベトナム。1999年インド，ミャンマー，ブラジル，中国，マレーシア。
6.(1)　Forest Ecological Studies of the Montane Forest of Mt. Pangrango, West Java（Ⅰ）～(Ⅳ)『東南アジア研究』13(3)－15

(2), 1975－77.
⑵ 『熱帯の有用樹種』(共著) 熱帯農業研究センター, 1978.
⑶ "Ecological Study of Mangrove and Swamp Forests in South Sumatra," (共著) in *South Sumatra, Man and Agriculture,* CSEAS, Kyoto Univ., 1980.
⑷ 「西ジャワパングランゴ山山地林における落葉落枝などの季節変化」『東南アジア世界』創文社, 1980.
⑸ 「東南アジアの低湿地林1. マングローブ」『東南アジア研究』21 (2), 1983.
⑹ 「同 2．マングローブの分布」『東南アジア研究』21 (3), 1983.
⑺ 「同 3．淡水湿地林」『東南アジア研究』21 (4), 1984.
⑻ 「同 4．泥炭湿地林」『東南アジア研究』22 (2), 1984.
⑼ 『東南アジアの低湿地』(共著) 農林統計協会, 1986.
⑽ *Report on the Forest Research in Negara Brunei Darussalam from 1984 through 1986,* JICA, 1987.
⑾ *The Changing Pattern of Vertical Statification along an Altitudinal Gradient of the Forests of Mt. Pangrango, West Java,* Kluwer, 1990.
⑿ 「多雨林の世界」高谷好一 (編)『東南アジアの自然』(講座・東南アジア学第 2 巻) 弘文堂, 1990.
⒀ 『東南アジアの熱帯多雨林世界』創文社, 1991.
⒁ 『熱帯雨林を考える』(共編著) 人文書院, 1992.
⒂ 「世界の森林と地球環境」渡部忠世 (編著)『現代の農林水産業』放送大学教育振興会, 1993.
⒃ *Vegetation Science in Forestry,* (共編著) Kluwer, 1995.
⒄ 『森と人との対話』(編著) 人文書院, 1996.
⒅ 『フィールドワーク最前線』(編著) 弘文堂, 1996.
⒆ 『事典東南アジア――風土・生態・環境』(編集委員代表, 共編著) 弘文堂, 1997.
⒇ *Tropical Rain Forests of Southeast Asia : A Forest Ecologist's View* (trans. by Peter Hawkes), University of Hawai'i Press, 1997.

田中　耕司

1. 京都大学農学部, 1969.
2. 京都大学農学修士, 1972.
3. 熱帯農学, 熱帯環境利用論
4. (1) 熱帯アジアにおけるファーミング・システム
   (2) インドネシア移住民の農業適応
5. 1973 年, 京都大学農学部助手に採用される。1979 年, 東南アジア研究センター助手に配置換, 1984 年助教授, 1998 年教授に昇任, 現在に至る。

   この間, 1974 年ビルマ, アッサム等において野生イネの分布と栽培イネの生態型分化の調査に従事。1979 年, インド, スリランカにおいてクロッピングシステム等の比較研究調査を行う。1980 ～ 85 年にかけて 3 次にわたり, インドネシアにおいて熱帯島嶼域の人の移動に関わる環境形成過程の研究調査に参加, その後, インドネシアで農業移民の調査, バングラデシュで農村開発調査, インドネシア, マダガスカル, 中国, ベトナム, ラオス等で稲作技術・文化の調査を行う。近年は, 東南アジア海域世界の生業と生活に関する文化生態学的調査とベトナムやラオスでの農業生態学的調査を進めている。
6. (1) "A Note on Typology and Evolution of Asian Rice Culture : Toward a Comparative Study of the Historical Devel-

opment of Rice Culture in Tropical and Temperate Asia,"『東南アジア研究』28 (4), 1991.

(2) 「マレー型稲作とその広がり」『東南アジア研究』29 (3), 1991.

(3) 「東南アジア海域世界と農業フロンティアの拡大――インドネシア南スラウェシ州の事例から」『東南アジア研究』30 (4), 1993.

(4) 「拓かれる生活空間」矢野暢（編）『地域研究のフロンティア』（講座・現代の地域研究第3巻）弘文堂, 1993.

(5) 「フロンティア社会の変容」矢野暢（編）『地域研究と「発展」の論理』（講座・現代の地域研究第4巻）弘文堂, 1993.

(6) "Farmers' Perceptions of Rice-Growing Techniques in Laos: 'Primitive' or *'Thammasat'*?"『東南アジア研究』31 (2), 1993.

(7) 「森と野の狭間――東南アジアの熱帯雨林から」梅原猛・伊東俊太郎（監修）『森の文明・循環の思想』講談社, 1993.

(8) 「海域世界と稲作の伝播」小泉格・田中耕司（編）『海と文明』（講座・文明と環境第10巻）朝倉書店, 1995.

(9) 「生活者の『森』と観察者の『森林』」山田勇（編）『森と人との対話』人文書院, 1995.

(10) 「アグロノミストからみた『地域』把握の課題」『農林業問題研究』124, 1996.

(11) 「フィールド・ワークから生まれた稲作論」農耕文化研究振興会（編）『稲作空間の生態』大明堂, 1996.

(12) "Who Owns the Forest?: The Boundary between Forest and Farmland at the Frontier of Land Reclamation,"『東南アジア研究』34 (4), 1997.

(13) "Development of Southeast Asian Rice Culture: An Ecohistorical Overview," in Y. Oshima *et al.* (eds.), *Asian Paddy Fields: Their Environmental, Historical, Cultural and Economic Aspects under Various Physical Conditions,* College of Agr., Univ. of Saskatchewan, 1997.

(14) 「東南アジアの水田利用の集約性――熱帯アジアと日本との比較論に向けて」（共著）『環境科学総合研究所年報』16, 1997.

(15) 「水田が支えるアジアの生物生産」『岩波講座　地球環境学6　生物資源の持続的利用』岩波書店, 1998.

(16) 「海と陸のはざまに生きる」秋道智彌（編）『講座人間と環境――自然はだれのものか』昭和堂, 1999.

(17) 「東南アジアのフロンティア論に向けて」坪内良博（編）『〈総合的地域研究〉を求めて』京都大学学術出版会, 1999.

(18) "Cropping Systems Research and Area Studies in Southeast Asia: Toward an Integration of Agronomic Studies and Socio-cultural Studies," in T. Horie *et al.* (eds.), *World Food Security and Crop Production Technologies for Tomorrow*, The Crop Science Society of Japan, 1999.

(19) 『自然と結ぶ――「農」にみる多様性』（編著）昭和堂, 2000.

(20) 「フロンティア世界としての東南アジア――カリマンタンをモデルに」坪内良博（編）『地域形成の論理』京都大学学術出版会, 2000.

安藤　和雄

1. 静岡大学農学部, 1978.
2. 京都大学博士（農学）, 1994.
3. 熱帯農学, 農村生態
4. (1) 応用的地域研究としての農村開発及び環境問題研究

⑵ 新しい農業・農村観の構築
⑶ 農業と村落社会における地域性と在地性

5. 際協力事業団青年海外協力隊員（1978～81，バングラデシュ），バングラデシュ農科大学留学（1984～86），国際協力事業団長期派遣専門家（1986～90，94～95，バングラデシュ）を経て，1996年に東南アジア研究センターに助教授として採用され，現在に至る。長期派遣専門家として，村落調査，小規模農村開発計画の策定・実施という参加型農村開発研究プロジェクに参加する。こうした応用的地域研究の他に，農業技術，農村社会の地域性と在地性，ベンガルの地域性の東南アジアへの広がりを調査するために，1997年に，ミャンマー（イラワジデルタと中央平原），バングラデシュ（ベンガルデルタ），1998年，中国（珠江デルタ），タイ（チャオプラヤデルタ），バングラデシュ（ベンガルデルタ），1999年，中国（雲南，ハニ族の棚田農業），ラオス（サバナケット周辺の農業と定期市），バングラデシュ（農村開発と環境問題）に関するフィールドワークを行った。

6. ⑴「バングラデシュの農業と社会――ノアカリ県の稲作と稼ぎ」『国際農林業協力』7(1)，1984.
⑵「バングラデシュのアウス稲・アマン稲の混播栽培」『農耕の技術』7，1984.
⑶「バングラデシュにおける稲作に関する『格言』・『稲作儀礼』ノート――ノアカリ県シラディ村の稲作調査より」『コッラニ』9，1984.
⑷「ベンガル・デルタ低地部の稲作――バングラデシュ東部地方におけるアウス・散播アマンの混播栽培とパーボイルド米に関するノート」『東南アジア研究』25(1)，1987.
⑸ “Village-Level Studies on Rice-Based Cropping Systems in the Low-Lying Areas of Bangladesh Ⅰ. Cropping Patterns and Their Distribution in Haor and Bil Areas,”（共著）*Japanese Journal of Crop Science,* 59(3)，1990.
⑹「バングラデシュ・ハオール地域ジャワール村の灌漑稲作と近代の農業変容」（共著）『農業土木学会誌』58(12)，1990.
⑺「ベンガルデルタ低地部の作付体系――技術変容と作付体系展開の地域間比較」（共著）『東南アジア研究』28(3)，1990.
⑻「ベンガルデルタの村落形成についての覚書」（共著）『東南アジア研究』28(3)，1990.
⑼「バングラデシュ・ハオール縁辺地域における乾季稲作と伝統的灌漑技術――ジャワール村における事例研究」（共著）『アジア経済』32(2)，1991.
⑽ “Rice-Cultivation and Land Tenancy System under Shallow Tubewell Irrigation in Barind Tract, Bangladesh: A Case Study in Tetulia Village, Bogra District,”（共著）*Journal of the Japanese Association for South Asian Studies,* No. 3, 1991.
⑾「バングラデシュの低平地における動的水文環境への適応農業」（共著）『農業土木学会誌』60(5)，1992.
⑿「伝統稲作農業の特色」（共著）臼田・佐藤・谷口（編）『もっと知りたいバングラデシュ』弘文堂，1993.
⒀「第7章バングラデシュ」『アジア畑作指導マニュアル』全国農業改良普及協会，1993.
⒁「バングラデシュの農村道路建設による水文環境の攪乱」（共著）『農業土木学会誌』62(9)，1994.
⒂「マタボール達と在地の農村開発――バングラデシュ，ドッキンチャムリア村におけるアクション・リサーチの記録」（共著）『東南アジア研究』33(1)，1995.

⑯「バングラデシュの農村開発の現状と援助」河合明宣（編）『発展途上国産業開発論』放送大学教育振興会，1995.
⑰「バングラデシュの氾濫原における乾季畑作と稲作農業――ジャムナ氾濫原ドッキン・チャムリア村の事例」（共著）『南アジア研究』第9号，1997.
⑱「NGOの発展を支える在地性」斉藤千宏（編）『NGOが変える南アジア』コモンズ，1998.
⑲「農村開発における在村リーダーシップとインフラ整備事業の可能性――バングラデシュ・ドッキンチャムリア村の事例」佐藤寛（編）『開発援助とバングラデシュ』アジア経済研究所，1998.
⑳「洪水とともに生きる――ベンガル・デルタの氾濫原に暮らす人びと」田中耕司（編）『自然と結ぶ――「農」にみる多様性』（講座・人間と環境3）昭和堂，2000.

柳澤　雅之

1. 京都府立大学農学部，1991.
2. 京都大学農学修士，1994.
3. 熱帯農業生態学
4. (1) 人口稠密なベトナム・紅河デルタ村落における自然環境資源の集約的利用法
   (2) 東南アジア大陸部山地における農業発展と環境保護問題
5. 1999年，東南アジア研究センターに助手として採用される。これまでに行った主な海外調査は以下の通りである。1992～94年，タイ中部の畑作地帯を対象として森林から大規模畑作地帯が形成されるまでの史的展開に関する聞き取り調査を行った。1994年から毎年，紅河デルタの1村落を対象とした学際的調査に参加し，これは現時点（2000年）も継続中である。1995～96年にメコンデルタの水利および農業技術調査，1999～2000年には北部山地にて地域の多様性と農業集約化過程に関する調査を行った。これらの他に，それぞれ短期間ではあるが，1995年にフィリピンのミンドロ島でハヌノー・マンヤン族の植物利用に関する調査，1999年にスリランカで水稲栽培技術調査，2000年にラオス北部山地で焼畑に依存する人たちの農業変容に関する調査を行ってきた。
6. (1) "Development of Field Crops in Thailand: A Case Study in Saraburi and Lopburi Provinces,"（共著）『東南アジア研究』33(4)，1996.
   (2) "Changes in Village-Level Cropping Patterns in the Red River Delta after *Doi Moi*: A Case Study of the Coc Thanh Cooperative in Nam Dinh Province, Vietnam,"（共著）*Japanese Journal of Tropical Agriculture*, 43(3)，1999.
   (3) "An Interdisciplinary Study of a Rice Growing Village: History and Contemporary Changes," in N. N. Kinh, P. S. Teng, C. T. Hoanh, and J. C. Castella (eds.), *Towards an Ecoregional Approach for Natural Resource Management in the Red River Basin of Vietnam*, Ministry of Agriculture and Rural Development of Vietnam & International Rice Research Institute. The Agricultural Publishing House, Hanoi, 1999.
   (4) "Fund-Raising Activities of a Cooperative in the Red River Delta: A Case Study of the Coc Thanh Cooperative in Nam Dinh Province, Vietnam,"『東南アジア研究』38(2)，2000.

社会生態研究部門

立本　成文

1. 京都大学文学部，1963.
2. シカゴ大学 Ph. D.（人類学），1974.

3. 地域研究，文化人類学，社会学

4.(1) マレー世界の社会と文化の変容

(2) 社会システムと生活世界

(3) 東南アジア社会におけるネットワーク構造分析

5. 1964年，マラヤ大学マレー学科に留学。1965年初頭にケダー州農村の臨地研究を3カ月行った後，同年7月から翌年5月までジョホール州でオラン・フルの民族誌的研究に従事する。1967年から2年間，マラヤ大学において日本学講座の講師。1969年からセンターに奉職。1971年から1年間，マラカ州の農村で主として社会経済的なデータに基づいて，家族，世界観の研究を行う。1974年から1975年にかけて南ベトナムのメコン・デルタの農村のリーダーシップの調査。同年11月から翌年3月までインドネシア，南スラウェシの調査。1977年から1979年にかけてジャカルタの日本大使館に勤務。南スラウェシの調査を1980年から再び開始し，1984年まで3次にわたって，主として非ムスリム教徒も住む平地村落で調査を行う。1989年からジョホール（マレーシア），リンガ（マラカ海峡），サランガニ諸島（ミンダナオ島南）のマレー世界の調査を継続。その他，南アジア，マダガスカル，メラネシア，中国，ヨーロッパ，カリブ海域，ブラジルでも短期間のサーベイを行う。

6.(1)「マラヤ原住民の経済生活」『アジア経済』10(5)，1969.

(2) "The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.

(3) "Family Circle, Community and Nation in Malaysia," *Current Anthropology*, 16, 1975.

(4)『マレー農村の研究』（共編著）創文社，1976.

(5)「コミュニティ宗教におけるシンボリズム」『東南アジア研究』14(3)，1976.

(6)『核家族再考――マレー人の家族圏』（共著）弘文堂，1977.

(7)「屋敷地共住集団と家族圏」（共著）『東南アジア研究』18(2)，1980.

(8)「生活環境と社会組織――南スラウェシの一山村誌」『東南アジア研究』20(1)，1982.

(9) "A Melakan Farming Village," in P. Wheatley and K.S. Sandhu (eds.), *Melaka : The Transformation of a Malay Capital c. 1400–1980*, Oxford University Press, 1983.

(10)「差異の文化論」石井米雄（編）『差異の事件誌――植民地時代の異文化認識の相克』巌南堂，1984.

(11)「世帯と親族」石井米雄（編）『東南アジア世界の構造と変容』創文社，1986.

(12)『東南アジアの組織原理』勁草書房，1989.

(13) "Household and Religion : The Problem of Identity in a Bugis Community,"『東南アジア研究』28(4)，1990.

(14)『東南アジアの文化』（編著）弘文堂，1992.

(15) "Coping with the Currents of Change : A Frontier Bugis Settlement in Johor, Malaysia,"『東南アジア研究』32(2)，1994.

(16) "Global Area Studies with Special Reference to the Malay or Maritime World,"『東南アジア研究』33(3)，1995.

(17)『地域研究の問題と方法――社会文化生態力学の試み』京都大学学術出版会，1996.

(18) "Symbiotic Dynamics of an Insular Community in the Melaka Strait,"『地域学研究』11，1997.

(19)「地域研究の思想」坪内良博（編）『〈総合的地域研究〉を求めて――東南アジア像

を手がかりに』京都大学学術出版会，1999.
⑳『家族圏と地域研究』京都大学学術出版会，2000.

五十嵐忠孝

1. 東京大学医学部，1970.
2. 東京大学保健学修士，1972.
3. 人類生態学
4. (1) 小人口学
   (2) 栄養と生業機構
5. 1975年，東京大学医学部保健学科助手に採用される。1982年，群馬大学医学部助教授に昇任，1984年，東南アジア研究センターに配置換となり，現在に至る。
   1970～73年，トカラ列島でヒトの個体群生態学的調査，1974～75年，韓国の一農村で人口移動の調査，1979年以降，インドネシア西ジャワ州のスンダ人村落で小人口学，栄養と生業機構に関する調査などに従事，近年比較の観点からバリ島農村社会に調査の比重を移しつつある。
6. (1) "Change in Daily Activity Patterns during the Ramadan in an Islamic Society," in *Proceedings of the Second International Symposium on Asian Studies, 1980*, Vol. Ⅱ, Asian Research Service, Hong Kong, 1981.
   (2)「個人年齢の推定方法に関する若干の覚え書き――西部ジャワ・スンダ人村落での調査から」『東南アジア研究』20 (2)，1982.
   (3) "Seeking the Dates of Birth of Children：An Age-Estimation Method that Combines Dental Age with Indigenously Expressed "Time of Birth" for Use in Priangan, West Java," in *Proceedings of the Fourth International Symposium on Asian Studies, 1982*, Vol. Ⅲ, Asian Research Service, Hong Kong, 1983.
   (4)「漁撈と農耕の比較生態――西部ジャワ・プリアガン地方での調査から」大塚柳太郎（編）『生態人類学』至文堂，1983.
   (5) "Locality-Finding in Relation to Fishing Activity at Sea," in Bela Gunda (ed.), *The Fishing Culture of the World : Studies in Ethnology, Cultural Ecology and Folklore*, Akadémiai Kiadó, Budapest, 1984.
   (6)『インドネシア人類生態学調査集成』（共編）日産科学振興財団，1984.
   (7)「西ジャワ・プリアガン高地における水稲耕作――若干の人類生態学的観察」『農耕の技術』7，1984.
   (8)「西ジャワ・プリアガン高地の食糧資源と人口」小石秀夫・鈴木継美（共編）『栄養生態学』恒和出版，1984.
   (9)「インドネシアの人口，出生，死亡」『医学のあゆみ』132，1985.
   ⑩ *Human Ecological Survey in Rural West Java in 1978 to 1982 : A Project Report,*（共編著）Nissan Science Foundation, Tokyo, 1985.
   ⑪ "Some Biosocial Variables That May Account for Fertility Patterns in the Sundanese Society," in *Health Ecological Survey in Indonesia in 1983/84*, Part 1, Department of Public Health, Gunma University, 1985.
   ⑫ "Biosocial Variables Affecting Sundanese Fertility, West Java," *Man and Culture in Oceania*, 3, 1987.
   ⑬「農作業・季節・星――西ジャワ・プリアンガン高地における畑地耕作をめぐる季節性と農作業のタイミング」『東南アジア研究』25 (1)，1987.
   ⑭「西ジャワ・プリアンガン地方のスンダ人農民社会における早婚・多産の文化・社

会的背景」『東南アジア研究』25(4), 1988.
⑮「ヒト・社会・出生間隔――東南アジアにおける具体像」矢野暢（編）『東南アジア学の手法』（講座・東南アジア学第1巻）弘文堂, 1990.
⑯「早婚・高出生力・文化――プリアンガン・スンダ人社会の事例」前田成文（編）『東南アジアの文化』（講座・東南アジア学第5巻）弘文堂, 1991.

林　行夫

1. 龍谷大学文学部, 1979.
2. 龍谷大学文学修士, 1981.
3. 文化人類学, 宗教社会学
4. (1) 上座仏教文化圏における宗教と社会の比較研究
   (2) 東南アジア大陸部民族誌
5. 1988年国立民族学博物館研究部助手に採用され, 1993年京都大学東南アジア研究センター助教授に転任, 現在に至る。東北タイ・ラオ系農村の宗教と村落形成について, 1981～83年タイ・チュラーロンコーン大学大学院（社会学・人類学科）留学中に定着調査, 1984～85年, 1987年に広域調査を実施。1989年以来, タイ, ラオス, 西南中国（雲南省）で上座仏教の実践形態と民族間関係にかんする比較研究に従事。1993～94年にはカンボジアの仏教復興についての調査を実施。
6. (1)「モータムと『呪術的仏教』――東北タイ・ドンデーン村におけるクン・プラタム信仰を中心に」『アジア経済』25(10), 1984.
(2) "A Temple, Ritual and World-View in Don Daeng," in H. Fukui *et al.* (eds.), *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report), CSEAS, Kyoto University, 1985.
(3)「葬儀をめぐるブン（功徳）と社会関係」『東南アジア研究』23(3), 1985.
(4)「タイ仏教における女性の宗教的位相についての一考察」『龍谷大学社会学論集』7, 1986.
(5)「ラーオ系稲作村における互助規範と功徳のシェアの社会的意味――タイ上座部仏教の文化人類学的考察」『ソシオロジ』105, 1989.
(6)「ダルマの力と帰依者たち――東北タイにおける仏教とモータム」『国立民族学博物館研究報告』14(1), 1989.
(7)「『王』・功徳・開発――現代タイ王権と仏教」松原正毅（編）『王権の位相』弘文堂, 1991.
(8)「内なる実践へ――上座仏教の論理と世俗の現在」前田成文（編）『東南アジアの文化』（講座・東南アジア学第5巻）弘文堂, 1991.
(9)「仏教儀礼の民族誌」石井米雄（編）『講座　仏教の受容と変容2・東南アジア編』佼成出版社, 1991.
(10)「ラオ人社会の変容と新仏教運動――東北タイ農村のタマカーイをめぐって」田辺繁治（編）『実践宗教の人類学――上座部仏教の世界』京都大学学術出版会, 1993.
(11)「森林の変容と生成――東北タイにおける宗教表象の社会史試論」佐々木高明（編）『農耕の技術と文化』集英社, 1993.
(12) "Notes on the Inter-ethnic Relation in History：With Special Reference to Mon-Khmer Peoples in Southern Laos," in Surat Worangrat (ed.), *Chonklum Chattiphan nai aeng Sakon Nakhon*, Sathaban Ratchaphat Sakon Nakhon, 1995.
(13)「仏教の多義性――戒律の救いの行方」青木保（編）『宗教の現代』（岩波講座　文

化人類学第11巻）岩波書店，1997.

⑭「もうひとつの『森』――ラオ人とモン＝クメール系諸語族の森林観から」『東南アジア研究』35(3)，1997.

⑮「カンボジアにおける仏教実践――担い手と寺院の復興」大橋久利（編）『カンボジア――社会と文化のダイナミックス』古今書院，1998.

⑯「『ラオ』の所在」『東南アジア研究』35(4)，1998.

⑰ "Differentiation and Involution of Ethno-Regional Lao Identity in Northeast Thailand and Lao P. D. R.," in Y. Hayashi (ed.), *Inter-Ethnic Relations in the Making of Mainland Southeast Asia Vol. 1,* Bangkok: CSEAS, Kyoto University Bangkok Office, 1998.

⑱ "Rup Laksana Mai khong Phi Khumkhrong Muban nai Mu Chao Thai-Laao nai phak tawanookchiangnua khong Prathet Thai," *Warasan Mahawitthayalai Maha Sarakham*, 17(1)，1999.

⑲ "Spells and Boundaries: *Wisa* and *Thamma* among the Thai-Lao in Northeast Thailand," in Y. Hayashi and Yang Guangyuan (eds.), *Dynamics of Ethnic Cultures Across National Boundaries in Southwestern China and Mainland Southeast Asia: Relations, Societies, and Languages*, Chiang Mai: Ming Muang Publishing House, 2000.

⑳『ラオ人社会の宗教と文化変容――東北タイの地域・宗教社会誌』京都大学学術出版会，2000.

石川　登

1. 東京都立大学人文学部，1985.
2. ニューヨーク市立大学 Ph. D., 1998.
3. マレーシア・インドネシア地域研究，社会人類学
4. 社会動態論
5. 1994年，東南アジア研究センター助手。1999年，同助教授。主に東マレーシア，サラワク州およびインドネシア，西カリマンタン州にて臨地調査に従事する。

6.(1)「シドニー W. ミンツ著『甘さと権力――砂糖が語る近代史』」『民族学研究』54(4)，1990.

(2)「ボルネオにおける非単系出自論の可能性」『社会人類学年報』16，1990.

(3)「理論と民族誌――『高地ビルマ』をめぐる人類学小史1954－1982」『民族学研究』57(1)，1992.

(4)「農民と往復切符――循環的労働移動とコミュニティ研究の前線」『民族学研究』58(1)，1993.

(5)「境界の社会史――ボルネオ西部国境地帯とゴム・ブーム」(特集：「ポリティカル・エコノミーと民族誌」)『民族学研究』61(4)，1997.

(6)「民族の語り方――サラワク・マレー人とは誰か」青木 保・内堀基光他（編）『民族の生成と論理』(岩波講座　文化人類学第5巻）岩波書店，1997.

(7) "Between Frontiers: The Formation and Marginalization of a Border Malay Community in Southwestern Sarawak, Malaysia 1870s－1990s," Ph. D. Dissertation, The City University of New York, 1998.

(8) "On the Value and Value Equivalence of Commodity, Labor and Personhood: The Use and Abuse of Nation-States in the Border Land of Western Borneo," presented at the 4th International Symposium, "Population Movement in Southeast Asia: Changing Identities and Strategies for Survival,"

Joint Research Project on Population Movement in the Modern World, Japan Center for Area Studies, National Museum of Ethnology, Osaka, September 17－19, 1998.

(9) "A Benevolent Protector or a Failed Exploiter?: Local Response to Agro-economic Policies under the Second White Rajah, Charles Brooke (1868－1917) of Sarawak," in Shamsul A. B. and T. Uesugi (eds.), *Japanese Anthropologists, Malaysian Society: Contribution to Malaysian Ethnography,* Senri Ethnological Studies 48, National Museum of Ethnology, 1998.

(10) 「文化と経済のボーダーランド――ボルネオ南西部国境地帯の調査から」(特集――文化としての経済)『国際交流』83, 1999.

(11) 「空間の履歴――サラワク南西部国境地帯における国家領域の生成」坪内良博(編)『地域形成の論理』京都大学学術出版会, 1999.

(12) "The Social History of Coconuts in Sematan, Southwestern Sarawak," *The Sarawak Museum Journal*, LIV (75), 1999.

(13) "The Sarawak Malay Studies: A New Agenda and Lessons from the Past," in *Nusantara Studies Workshop on the State of the Art*, Institute of East Asian Studies, Universiti Malaysia Sarawak. (in print)

速水　洋子

1. 国際キリスト教大学教養学部, 1981.
2. ブラウン大学人類学 Ph. D., 1992.
3. 文化人類学, 東南アジア地域研究
4. (1) 東南アジア大陸部における山地・低地の民族間関係
   (2) 東南アジア周縁社会における宗教と社会の動態
   (3) 東南アジアにおけるジェンダーと家族
5. 1993年東北大学, 宮城学院女子大学にて非常勤講師, 1996年東南アジア研究センターに助手として採用される。1998年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助手に配置換。2000年より, 東南アジア研究センター助教授。1987年よりタイにて調査活動を行う。1987～89年, 1996年以後毎年北タイを中心とする調査。2000年よりミャンマーでの研究開始。
6. (1) "Women in Thailand: Thoughts on the Recent Anthropological Literature," 『社会科学ジャーナル』25 (1), 国際基督教大学社会科学研究所, 1986.
   (2) "Ritual and Religious Transformation among Sgaw Karen of Northern Thailand: Implications on Gender and Ethnic Identity," Ph. D. dissertation, Brown University, 1992.
   (3) 「カレン族における周縁の力と宗教・社会変動――十九世紀ビルマから今日のタイまで」『民族学研究』57 (3), 1992.
   (4) 「カレン族の赤いスカート」『季刊民族学』17 (2), 1993.
   (5) "To Be Karen and to Be Cool: Community, Morality and Identity among Sgaw Karen in Northern Thailand," *Cahier des Sciences Humaines*, 29 (4), Paris: Editions de l'Orstom, 1993.
   (6) 「北タイ山地における仏教布教プロジェクト――あるカレン族村落群の事例」『東南アジア研究』32 (2), 1994.
   (7) 「カレン族における秩序と豊饒, 男と女」清水昭俊 (編)『洗練と粗野――社会関係を律する価値』東京大学出版会, 1995.
   (8) "Karen Tradition According to Christ

or Buddha : The Implications of Multiple Reinterpretations for a Minority Ethnic Group in Thailand," *Journal of Southeast Asian Studies*, 27 (2), 1996.

(9) "Between Tradition and the State : Women and Ethnic Boundary among a Minority Ethnic Group in Northern Thailand," in *Proceedings of the International Conference on Women in the Asia-Pacific Region : Persons, Powers and Politics*, Singapore : National University of Singapore, 1997.

(10) "Internal and External Discourse of Communality, Tradition and Environment : Minority Claims on Forest in the Northern Hills of Thailand,"『東南アジア研究』35 (3), 1997.

(11) "Motherhood Redefined : Women's Choices on Family Rituals and Reproduction in the Peripheries of Thailand," *Sojourn*, 13 (2), 1998.

(12)「『民族』とジェンダーの民族誌――北タイ・カレンにおける女性の選択」『東南アジア研究』35 (4), 1999.

(13)「『森に生きるカレン』と伝統の創造」山田勇 (編)『森と人のアジア――伝統と開発のはざまに生きる』昭和堂出版, 1999.

(14)「周縁社会に生きる女性たち――北タイ・カレン」窪田幸子・八木祐子 (編)『社会変容と女性――ジェンダーの文化人類学』ナカニシヤ出版, 1999.

(15)「タイ国家の領土におけるカレンの土地権――共同性と伝統の構築」杉島敬志 (編)『土地所有の政治史――人類学的視点』風響社, 1999.

(16) "Buddhist Missionary Project in the Hills of Northern Thailand : A Case Study from a Cluster of Karen Villages," *Tai Culture : International Review on Tai Cultural Studies*, 4 (1), 1999.

(17) "'He's Really a Karen' : Articulation of Ethnic and Gender Relationship in a Regional Context," in Y. Hayashi and Yang Guangyuan (eds.), *Dynamics of Ethnic Cultures across National Boundaries in Southwestern China and Mainland Southeast Asia : Relations, Societies, and Languages*, Chiang Mai : Ming Muang Printing House, 2000.

(18) "The Decline of Founder's Cults and Changing Configurations of Power : Village, Forest and State among Karen," in Tannenbaum, Nicola and C. A. Kammerer (eds.), *Founder's Cults*, Yale University : Center for Southeast Asian Studies. (in press)

統合環境研究部門

白石　隆

1. 東京大学教養学部教養学科 (国際関係論), 1972.
2. コーネル大学 Ph. D. (歴史学), 1986.
3. 歴史学, 比較政治学
4. 東南アジア政治・政治史
5. 1975年, 東京大学東洋文化研究所助手, 1979年, 東京大学教養学部 (国際関係論) 助教授, 1987年コーネル大学助教授 (歴史・アジア研究), 1990年同准教授, 1996年同教授, 1996年京都大学東南アジア研究センター教授。

6.(1)「上からの国家建設――タイ, インドネシア, フィリピン」『国際政治』第84号, 1987.

(2) *An Age in Motion : Popular Radicalism in Java, 1912–1926,* Cornell University Press, 1990.

(3) “Dangir’s Testimony : Saminism Reconsidered,” *Indonesia,* No. 50, 1990.
(4) *Reading Southeast Asia,*（編）Cornell Southeast Asia Program, 1990.
(5)『インドネシア――国家と政治』リブロポート，1992.
(6)「インドネシアの国家建設――スハルト体制下における技術・戦略産業育成」『東南アジア世界の歴史的位相』東京大学出版会，1992.
(7) “Current Data on the Indonesian Military Elite,”（共著）*Indonesia,* No. 55, 1993.
(8) *Japanese in Colonial Southeast Asia,*（共編）Cornell Southeast Asia Program, 1993.
(9) “Current Data on the Indonesian Military Elite, January 1992–August 31, 1993,”（共著）*Indonesia,* No. 56, 1993.
(10)「開発国家の政治文化――インドネシア新秩序を考える」『講座現代アジア１．ナショナリズムと国民国家』東京大学出版会，1994.
(11) *Approaching Suharto’s Indonesia from the Margins,*（編）Cornell Southeast Asia Program, 1995.
(12) “Current Data on the Indonesian Military Elite : Selected Biographies,”（共著）*Indonesia,* No. 59, 1996.
(13)「『最後の波』のあとに――二十世紀ナショナリズムのさらなる冒険」『民族・国家・エスニシティ』（岩波講座　現代社会学）岩波書店，1996.
(14)『新版インドネシア』（ネットワークの社会科学２）NTT 出版，1996.
(15) “The Phantom World of Digoel,” *Indonesia,* No. 61, 1996.
(16)「インドネシアの近代における『わたし』――カルティニのikとスワルディのsaya」『東南アジア研究』34 (1)，1996.
(17) “Policing the Phantom Underground,” *Indonesia,* No. 63, 1997.
(18)『スカルノとスハルト――偉大なるインドネシアをめざして』岩波書店，1997.
(19) *Network Power : Japan and Asia,*（共編著）Cornell University Press, 1997.
(20)『崩壊インドネシアはどこへ行く』NTT 出版，1999.

濱下　武志

1. 東京大学文学部，1972.
2. 東京大学文学修士，1974.
3. アジア地域研究
4. (1) 華僑・華人のネットワーク
   (2) 地域システム
   (3) ポスト国家の時代における宗主権と主権
   (4) 海洋アジア
5. 1979 年，一橋大学経済学部専任講師，1981 年，一橋大学経済学部助教授，1982 年，東京大学東洋文化研究所助教授，1988 年，東京大学東洋文化研究所教授，2000 年，京都大学東南アジア研究センター教授。東南アジア華人と中国華南との歴史的な結びつきを，シンガポールと香港に焦点を当てて調査を行い，タイ・マレーシアを中心として，ヤンゴン・ジャカルタの調査を加え，華僑送金のメカニズムと，華南・東南アジア間の商業ネットワークを研究してきた。香港においては，貿易・貿易金融の検討に加え 19 世紀後半の土地改革，商業組織，外国銀行，地域組織などを調査している。1997 年の返還後の変化にも注目した研究を行っている。
6. (1)『中国近代経済史研究――清末海関財政と開港場市場圏』東文研研究報告，1989.
   (2)『近代中国の国際的契機』東京大学出版会，1990.
   (3)『アジア交易圏と日本工業化1500–1900』（共編著）リブロポート，1991.
   (4)「朝貢と条約」溝口雄三他（編）『アジア

から考える』3，東京大学出版会，1994.
⑸ 「近代東アジア国際体系」平野健一郎（編）『講座現代アジア』4，東京大学出版会，1994.
⑹ “Overseas Chinese Remittance and Asian Banking History,” in O. Checkland (ed.), *Pacific Banking, 1859–1959,* St. Martin’s Press, New York, 1994.
⑺ “The Tribute Trade System and Modern Asia,” in A. J. H. Latham (ed.), *Japanese Industrialization and the Asian Economy,* Routledge, London, 1994.
⑻ 「海のアジア史」『大航海』2，1995.
⑼ 「海と国家」『へるめす』55，1995.
⑽ 「環シナ海域の観点から」川勝平太（編）『海から見た歴史』藤原書店，1996.
⑾ 『香港』筑摩書房，1996.
⑿ 『朝貢システムと近代アジア』岩波書店，1997.
⒀ 「歴史研究と地域研究」『地域の世界史 1 ――地域史とは何か』山川出版，1997.
⒁ “The Intra-regional System in East Asia in Modern Times,” in P. J. Katzenstein and T. Shiraishi (eds.), *Network Power : Japan and Asia,* Cornell University Press, Ithaca and London, 1997.

Carolin Sy HAU（キャロライン シィ ハウ）

1. フィリピン大学（英文学），1990.
2. コーネル大学 Ph. D.（英文学），1998.
3. カルチュラル・スタディーズ
4. 植民地期およびポスト植民地期の文学と文化，東南アジア華人社会，植民地化およびナショナリズム比較研究
5. 1990 年，フィリピン大学講師，1994 年，コーネル大学副手，1998 年，フィリピン大学講師，1999 年，京都大学東南アジア研究センター助教授。
6. ⑴ “Dogeaters, Postmodernism, and the Worlding of the Philippines,” in Priscelina Patajo Legasto and Cristina Patajo Hidalgo (eds.), *Philippine Post-Colonial Literary Studies : Essays on Language and Literature*, Quezon City : University of the Philippines Press, 1993.
⑵ “Hierarchy and Hybridity in Homi Bhabha’s ‘Signs Taken for Wonders’,” in Jaime Biron Polo (ed.), *Critical Forum*, Manila : National Commission for Culture and the Arts, 1995.
⑶ “Alterities of Rupture in Octavia E. Butler’s Kindred,” *Journal of English and Comparative Literature*, 4 (2), 1996.
⑷ *The Best of Tulay : An Anthropology of Chinese Filipino Writing in English, Tagalog and Chinese*, (共編) Manila : Kaisa Para sa Kaunlaran, Inc., 1997.
⑸ “Kidnapping, Citizenship, and the Chinese,” *Public Policy*, 1 (1), 1997.
⑹ *All the Conspirators by Carlos Bulosan*, (編) Pasig : Anvil Publishing, Inc., 1998.
⑺ “Literature, Nationalism, and the Problem of Consciousness,” *Diliman Review*, 46 (3, 4), 1998.
⑻ “Afterword to *Intsik* : An Anthropology of Chinese Filipino Writing,” in Priscelina Patajo Legasto (ed.), *Filipiniana Reader : A Companion Anthropology of Filipiniana Online*, Quezon City : University of the Philippines Press, 1998.
⑼ “‘Who Will Save Us from the Law?’ : The Criminal State and the Illegal Alien in Post-1986 Philippines,” in Vicente L. Rafael (ed.), *Figures of Criminality in Indonesia, Vietnam, and the Philippines*, Ithaca : Cornell Southeast Asia

Program, 1999.

⑽ "Texts and Histories," *Public Policy*, 3 (1), 1999.

⑾ "On Representing Others : Intellectuals, Pedagogy, and the Uses of Error," in Paula Moya and Michael Hames Garcia (eds.), *Realist Theory and the Predicament of Postmodernism*, California : University of California Press, 2000.

⑿ *Intsik : An Anthropology of Chinese Filipino Writing*, (編) Pasig : Anvil Publishing, 2000.

パトリシオ　アビナーレス
Patricio N. ABINALES

1. フィリピン大学（歴史学・政治学），1978.
2. コーネル大学 Ph. D.（政治学），1997.
3. 歴史学，比較政治学
4. 東南アジア政治・政治史
5. フィリピン大学第三世界研究センター助手，フィリピン大学政治学部助手，フィリピン大学文学部講師等を経て 1998 年，オハイオ大学政治学部助教授。1999 年，京都大学東南アジア研究センター助教授。
6. ⑴ "Salipada Pendatun and Muslim Elite Politics in Pre-Martial Law Cotabato, Part 1," *Kinaadman* (Wisdom) (A Journal of the Southern Philippines), 18 (4), 1996.

⑵ "When the Revolution Devours Its Children before Victory : Operasyong Kampanyang Ahos and the Breakdown of Mindanao Communism," in Patricio N. Abinales (ed.), *The Revolution Falters : The Left in Philippine Politics after 1986*, Ithaca, New York : Cornell University Southeast Asia Program, 1996.

⑶ "The Church and State and the Church as State in the Philippines : Review Essay," *Bulletin of Concerned Asian Scholars*, 28 (2), 1997.

⑷ "Salipada Pendatun and Muslim Elite Politics in Pre-Martial Law Cotabato, Part 2," *Kinaadman*, 19 (1), 1997.

⑸ "State Building, Communist Insurgency and *Cacique* Politics in the Philippines," in Paul B. Rich and Richard Stubbs (eds.), *Counter-insurgent States : Guerrilla Warfare and State-Building in the Twentieth Century*, New York and London : MacMillan, 1997.

⑹ "Davao-kuo : The Political Economy of a Japanese Settler Zone in Philippine Colonial Society," *Journal of American-East Asian Relations*, December, 1997.

⑺ *Images of State Power : Essays on Philippine Politics from the Margins*, Quezon City : University of the Philippines Press, 1998.

⑻ "The Muslim-Filipino and the Philippine State," *Public Policy* (A University of the Philippines Quarterly), August, 1998.

⑼ "Muslim Political Brokers and the Philippine Nation-State," in Carl J. Trocki (ed.), *Gangsters, Democracy and the State in Southeast Asia*, Ithaca, N. Y. : Cornell University Southeast Asia Program, 1998.

⑽ "The Muslim Rebellion Reconsidered," *Philippine Yearbook*, 1999.

⑾ "Filipino Marxism and the National Question," *Filipinas* (A Journal of Philippine Studies, Special Issue on Post-War Filipino Nationalisms, edited by Patricio N. Abinales and Benito M. Vergara, Jr.), 32, Spring, 1999.

⑿ “The Rise and Demise of a Colonial Frontier Society : Davao Americans and the Moro Province,” *Kinaadman*, Spring, 1999.

⒀ “Filipino Communism and the Spectre of the Communist Manifesto,” submitted to the panel discussion on The Communist Manifesto and the Philippine Radical Movement, Third World Studies Center, University of the Philippines, November, 1999.

⒁ “Review Essay : *Booty Capitalism : The Politics of Banking in the Philippines*, by Paul D. Hutchcroft. Ithaca and London : Cornell University Press, 1998,” *Bulletin of Concerned Asian Scholars*, Spring, 2000.

⒂ From Orang Besar to Colonial Big Men : Datu Piang of the Magindanaos and the American Colonial State, in Alfred W. McCoy (ed.), *Lives at the Margin : Biographies of Obscured Filipinos*, Madison : Center for Southeast Asian Studies, University of Wisconsin, 1999 and Ateneo de Manila University Press, 2000.

⒃ *Fellow Traveller : Essays on Filipino Communism*, Quezon City : University of the Philippines Press, 2000.

⒄ *Making Mindanao : Cotabato and Davao in the Formation of the Philippine State, 1900–1972*, Quezon City : Ateneo de Manila University Press, 2000.

地域発展研究部門

吉原久仁夫

1. カリフォルニア大学（バークレー校），1966.
2. カリフォルニア大学 Ph. D.（経済学），1966.
3. 経済学
4. 文化，制度，経済成長
5. ミシガン大学経済学部助教授（1966～69年）を経て，1969年，東南アジア研究センター助手として着任，1971年，同助教授，1987年，同教授に昇任，現在に至る。

   この間，1970～71年，1981～82年，および1992年フィリピン大学経済学部，1973～74年，シンガポール大学経済学部，1976～77年，スタンフォード大学経済学部，1982～83年タマサート大学経済学部，1987年マラヤ大学経済学部，1993年ベトナム社会科学院世界経済研究所，および1999～2000年ハワイ大学経済学部で客員教授として経済発展論を講義する。

6. (1) “Demand Functions : An Application to the Japanese Expenditure Pattern,” *Econometrica*, 37 (2), 1969.

   (2) “Long-term Models of the Japanese Economy,”『季刊理論経済学』20 (3), 1969.

   (3) “The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index,”（共著）*Journal of the American Statistical Association*, 66 (333), 1971.

   (4) “Productivity Change in the Japanese Economy, 1905－65,”（共著）『季刊理論経済学』23 (1), 1972.

   (5)「シンガポールの工業化と米系企業」『東南アジア研究』12 (4), 1975.

   (6)「シンガポールの工業化における外資系企業と民族系企業」『東南アジア研究』13 (2), 1975.

   (7) *Foreign Investment and Domestic Response : A Study of Singapore's Industrialization*, Eastern Universities Press, Singapore, 1976.

(8) *Japanese Investment in Southeast Asia*, University Press of Hawaii, 1978.
(9) *Sogo Shosha : The Vanguard of the Japanese Economy*, Oxford University Press, Tokyo, 1982.（インドネシア語，ベトナム語，マレーシア語に翻訳出版）
(10) "Business Groups in Thailand,"（共著） Research Notes and Discussion Paper No. 41, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore, 1983.
(11) *Philippine Industrialization : Foreign and Domestic Capital*, Oxford University Press, Singapore, 1985.
(12) *The Rise of Ersatz Capitalism in Southeast Asia*, Oxford University Press, Singapore, 1988.（インドネシア語，タイ語，マレーシア語に翻訳出版）
(13) *Oei Tiong Ham Concern : The First Business Empire in Southeast Asia*,（編） CSEAS, 1989.（インドネシア語，中国語に翻訳出版）
(14) 『東南アジアの経済』（講座・東南アジア学第 8 巻）（編著）弘文堂，1991.
(15) *Japanese Economic Development : A Short Introduction*, 3rd ed., Oxford University Press, Tokyo, 1994.（インドネシア語，タイ語，ラオス語，ベトナム語，タガログ語，中国語に翻訳出版）
(16) *The Nation and Economic Growth : the Philippines and Thailand*, Oxford University Press, Singapore, 1994.（タイ語に翻訳出版）
(17) *The Nation and Economic Growth : Korea and Thailand,* 京都大学学術出版会，1999.（タイ語に翻訳出版予定）
(18) 『なにが経済格差を生むのか』NTT 出版，1999.（英訳は *Asia per Capita : Why National Incomes Differ in East Asia*, Curzon, 2000.）
(19) 『東南アジアで良くなる国，悪くなる国』東洋経済新報社，1999.
(20) *American Dominance : A Japanese Alternative*, 近刊.

海田　能宏

1. 京都大学農学部，1962.
2. 京都大学農学博士，1970.
3. 農村開発論，熱帯農業水文学，開発技術論
4. (1) アジア農村開発論
   (2) 農業発展の水文環境的基盤――風土の工学
   (3) アジア・エコテクノロジー・ネットワークの構築
5. 1967 年，京都大学助手（農学部）に採用され，1969 年，東南アジア研究センターへ配置換え。1974 年から 77 年まで，メコン委員会に兼任勤務。1974 年，東南アジア研究センター助教授，1984 年，同教授に昇任。同年から農学研究科の熱帯農学専攻の協力講座担当教授，さらに 1993 年から人間・環境学研究科，1998 年からアジア・アフリカ地域研究研究科の協力講座担当教授を兼任。

はじめは畑地灌漑の研究から入り，1969 年以来，熱帯の水文，水利，農業生態の研究を始め，東南アジアを中心に，インド，南中国を含む広い地域の臨地研究を経験した（業績欄の（1）から（4）まではこの時期の作品）。1981 年から東北タイのドンデーン村の総合的研究に参加し（業績 5），以来，農村開発研究に関心を広げ，1986 年からはバングラデシュ農村開発研究を組織し，総合的・学際的な農村研究から，農村開発の実践的研究へ，個人的にはさらに農村開発政策論へと，ノーマティヴな方向へ研究の幅を広げてきた（業績 7, 8, 11, 15, 16, 19 など）。

最近は，これまでの臨地研究や農村定着研究で得たデータや培ってきた経験を生かして，風土の工学や Ecotechnology という概念を

設定して技術論を展開している（業績 6, 9, 13, 14, 18, 20 など）。さらに，Asian Ecotechnology Network によって日本・東南アジア・インドの生態知識を交流させるプロジェクトを立ち上げた。

6. (1) 「デルタ稲作農業の自然環境とデルタの開発構図」『東南アジア研究』13 (1)，1975.
(2) "Agro-Hydrologic Regions of the Chao Phraya Delta," in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia : Nature, Society and Development,* University Press of Hawaii, 1976.
(3) "Effect of Mekong Mainstream Flood Regulation on Hydrology and Agriculture in the Cambodian Lowland,"『東南アジア研究』16 (4)，1979.
(4) 「メコンをデザインする」松田松二（編）『自然とむすぶ文化』共立出版，1980.
(5) 「東北タイ・ドンデーン村――村のたたずまい」（共著）「東北タイ・ドンデーン村――稲作の不安定性」（共著）『東南アジア研究』23 (3)，1985.
(6) 「水文と水利の生態」渡部忠世・福井捷朗（共編）『稲のアジア史第 1 巻』小学館，1987.
(7) *Agricultural and Rural Development in Bangladesh : Key Questions and Issues from Village-Based Studies, 1986–1989.* JSARD Publication No. 20.（共編著）JICA, Dhaka, 1990.
(8) 特集「バングラデシュの農業と農村――農村発展のための共同研究」（編著）『東南アジア研究』28 (3)，1990.
(9) 「稲作と水利」高谷好一（編）『東南アジアの自然』（講座・東南アジア学第 2 巻）弘文堂，1990.
(10) "Tropical Hydrology Simulation Model 1 for Watershed Management (1) Model Building, (2) Model Application, (3) Using the Model for Landuse Management,"（共著）『水文・水資源学会誌』4 (2), (3), (4)，1991.
(11) 「農村開発研究――バングラデシュの農村発展のための共同研究」『国際協力研究』7 (2)，1991.
(12) 「問題群としての地域」矢野 暢（編）『地域研究の手法』（講座・現代の地域研究第 1 巻），「貧しさから豊かさへ」矢野 暢（編）『地域研究と発展の論理』（講座・現代の地域研究第 4 巻）弘文堂，1993.
(13) 「北インドの灌漑発展における外来技術と在地技術」（共著）『農業土木研究』62 (2)，1994.
(14) 「風土の工学」日本大学国際地域研究所（編）『東南アジアの自然・技術・農民』龍渓書舎，1994.
(15) 特集「バングラデシュ農村開発研究」（編著）『東南アジア研究』33 (1)，1995.
(16) *Final Report on Joint Study on Rural Development Experiment (JSRDE) Project,*（共編著）BARD & JICA Bangladesh, 1996.
(17) 『事典東南アジア――風土・生態・環境』（編集委員，共編著）弘文堂，1997.
(18) "*Fudo* Engineering for Sustainable Agricultural and Rural Development," in *Green Productivity, In Pursuit of Better Quality of Life,* Asian Productivity Organization, 1997.
(19) 「バングラデシュ農村開発実験――関わりの作法」『発展途上国の農村開発』JCAS 連携研究成果報告 1，1999.
(20) 「農業・農村発展のアジア的パラダイム」原洋之介（編）『発展の固有論理』京都大学学術出版会，2000.

阿部　茂行

1. 大阪大学経済学部，1970.

2. ハワイ大学 Ph. D.（経済学），1977.
3. 経済学
4. 東南アジアの経済発展（とくに貿易・投資の役割について）
5. 1977年，国連ESCAP経済担当官，1980年京都産業大学経済学部講師，1981年同助教授，1987年同教授，1991年神戸大学経済経営研究所教授，1998年東南アジア研究センター教授。

6.(1) "The Demand for Money in Pakistan : Some Alternative Estimates,"（共著）*The Pakistan Development Review*（summer），1975.

(2) "Optimum Interest Rate for a Country under a Floating Exchange Rate System," 博士論文，1977.

(3) "Financial Liberalization and Domestic Saving in Economic Development : An Empirical Test for Six Countries,"（共著）*The Pakistan Development Reviews*（autumn），1977.

(4) "Industrialization and Employment : Overview and Prospect of ASEAN Countries," in P. M. Hauser, D. Suits and N. Ogawa（eds.），*Urbanization and Migration in ASEAN Development,* University of Hawaii Press, 1985.

(5) "A CGE Analysis of Income Distribution : The Case of Malaysian Economy," *Asian Economic Journal,* 1(2)，1988.

(6) "Competitiveness and Exchange Rate Adjustments in Korea," *Development & South-South Cooperation,* 5(9)，1989.

(7) "Industrial Relations and Their Evolution in Japan," in Chung-hooon Lee and Fun-koo Park（eds.），*Emerging Labor Issues in Developing Asia,* KDI Press, 1991.

(8) "Development Assistance,"（共著）in K. Abe, W. Gunter and H. See（eds.），*Economic, Industrial and Managerial Coordination between Japan and the USA,* Macmillan, 1992.

(9)「アジアの中の南と北――援助より投資を」『アステイオン』TBSブリタニカ，1992.（英語版とフランス語版のJapan Echoに翻訳の上，再録）

(10) "Malaysia Model Ⅱ," in Ichimura and Matsumoto（eds.），*Econometric Models of Asian-Pacific Countries,* Springer-Verlag, 1993.

(11)「国際競争力からみた為替レート――韓国と台湾のケース」高木保興・猪木武徳（編）『発展途上国と日本』同文館，1993.

(12) "South Asia and Japan : Prospects for Future Cooperation,"（共著）in S. P. Gupta, William E. James, and Robert K. McCleery（eds.），*South Asia as a Dynamic Partner,* MacMillan India Ltd., 1994.

(13)「日本の対ASEAN直接投資とASEANとの産業内貿易の発展」石垣健一・永谷敬三（編著）『環太平洋経済の発展と日本』勁草書房，1995

(14)「まぼろしのアジア経済をめぐって」『国民経済雑誌』174(3)，1996.

(15) "Prospects for Asian Economic Integration," in S. Nishijima and P. H. Smith（eds.），*Cooperation or Rivalry?* Westview, 1996.

(16) "Preparing the Way for Development Cooperation in APEC : Jumping the Aid Administration and Policy Hurdles,"（共著）in Andrew Elek（ed.），*Building an Asia-Pacific Community : Development Cooperation within APEC,* The Foundation for Development Cooperation, 1997.

(17) *Japan : Why It Works, Why It Doesn't,*

（共編著） University of Hawai'i Press, 1997.

⑱『アジア経済研究』研究叢書 48，神戸大学経済経営研究所，1998.

⑲「日本の海外直接投資・貿易と環境についての一考察」『国民経済雑誌』176 (7)，1998.

⑳ *Asia-Pacific Economic Linkages*.（共編著）Pergamon, 1999.

水野　広祐

1. 京都大学経済学部，1978.
2. 京都大学農学博士，1994.
3. 経済発展論，農業経済学，労働経済学
4. (1) インドネシア，特に西ジャワにおける農村工業化と農村内非農業部門の発展
   (2) 経済発展における小営業と在来的発展
   (3) インドネシア経済論
   (4) インドネシア経済発展と土地・労働・資本
   (5) 東南アジア経済と国家・市場・共同体
5. アジア経済研究所研究員（1978 ～ 96 年）を経て，1996 年東南アジア研究センターに助教授として着任，現在に至る。

   1984 ～ 86 年にボゴール農業大学開発研究センター客員研究員として，インドネシアにおける中小零細企業の発展と農村内非農業部門に関する調査研究を行う。1989 ～ 92 年にバンドゥン工業大学環境研究センターにおいて，西ジャワ農村における非農業部門研究プロジェクトに参加し建材産業の調査を行う。1990 年には，ガジャマダ大学農村地域開発研究センターにおける中部ジャワ農村経済の系譜的分析プロジェクトに参加し，農家経済調査を行う。1994 年および 1997 年に，バンドゥン工業大学大学院開発研究科において客員講師として経済発展論等を講義。1995 年大阪市立大学経済学部客員教授，1996 ～ 97 年および 1999 年にジャカルタ連絡事務所駐在。
6. (1)「1970 年代後半におけるインドネシア土地紛争とその特質」滝川 勉（編）『東南アジア農村の低所得階層』アジア経済研究所，1982.
   (2)『インドネシアの経済』（共訳），テー・キアン・ウィー（編），めこん，1984.
   (3)「インドネシアの土地所有権と 1960 年農地基本法――インドネシアの土地制度とその問題点」『国際農林業協力』10 (4)，1988.
   (4)「インドネシアにおける稲作農業の展開と商業化のパターン――西ジャワの北部平野部とプリアンガン高地を中心に」梅原弘光（編）『東南アジア農業の商業化』アジア経済研究所，1989.
   (5) "Perspektif Peranan Industri Bahan Bangunan dalam Industrialisasi Pedesaan," in Sayogyo, M. Tambunan (ed.), *Industrialisasi Pedesaan, Dilengkapi Dengan Memorandum Bersama Tentang Industrialisasi Pedesaan,* Pusat Studi Pembangunan, Institut Pertanian Bogor, Ikatan Sarjana Ekonomi Indonesia, 1990.
   (6)「西ジャワ農村における土地所有権の確認書類保有状況」梅原弘光（編）『東南アジアの土地制度と農業変化』アジア経済研究所，1991.
   (7) "Off-Farm Sector on Rural Java in Changes of Indonesian Economy : The Case of Community-Based Industry's Development," in T. Iwasaki *et al.* (eds.), *Development Strategies for the 21st Century,* Institute of Developing Economies, 1992.
   (8)「規制緩和政策下のインドネシアにおける労働問題と労働行政――1980 年代後半のフォーマルセクターを中心に」『アジア経済』33 (5)，1992.

⑼ 「インドネシアにおける農村出身女子労働者保護問題――急成長輸出産業と中東への労働力輸出」『アジア経済』33（6），1992.
⑽ 『東南アジア農村階層の変動』（共編著）アジア経済研究所，1993.
⑾ 「西ジャワ農村における労働力移動と農村諸階層――プリアンガン高地の農村工業村の事例」『アジア研究』39（3），1993.
⑿ 「インドネシア農村におけるプリブミ資本織布小工業の展開――西ジャワ・マジャラヤ地方の産地における小営業」『東南アジア研究』31（3），1993.
⒀ 『中部ジャワ農村の経済変容――チョマル郡の85年』（共著）東京大学出版会，1994.
⒁ 『東南アジア農村の就業構造』（編著）アジア経済研究所，1995.
⒂ “Perubahan Sektor Ekonomi Nonpertanian dan Perpindahan Tenaga Kerja di Desa Karang Tengah dan Desa Pesantren,” in H. Kano, F. Husken and Dj. Surjo （eds.）, *Di Bawah Asap Pabrik Gula, Masyarakat Desa Di Pesisir Jawa Sepanjang Abad Ke-20,* AKATIGA & Gadjah Mada University Press, 1996.
⒃ *Rural Industrialization in Indonesia : A Case Study of Community-Based Weaving Industry in West Java,* Institute of Developing Economies, 1996.
⒄ 『東南アジアの経済開発と土地制度』（共編著）アジア経済研究所，1997.
⒅ 「インドネシアにおける行政組織と住民組織――西ジャワ・プリアンガン高地農村の事例」加納啓良（編）『東南アジア農村発展の主体と組織――近代日本との比較から』アジア経済研究所，1998.
⒆ 「土地問題と土地紛争」宮本謙介・小長谷一之（編）『アジアの大都市（2）ジャカルタ』日本評論社，1999.
⒇ 『インドネシアの地場産業――西ジャワ織布業産地の土地・資本・労働』（地域研究叢書 No. 7）京都大学学術出版会，1999.

藤田　幸一

1. 東京大学農学部，1982.
2. 東京大学農学博士，1992.
3. 農業経済学
4. ⑴ 熱帯アジアの灌漑と農業・農村発展
   ⑵ 熱帯アジアの農村社会組織と開発行政
5. 1986年，農林水産省農業総合研究所研究員。1995年同研究所主任研究官。1995年，東京大学助教授。1998年，京都大学東南アジア研究センター助教授。1992～94年，バングラデシュでJICAプロジェクト「農村開発実験に関する共同研究」にJICA長期派遣専門家として参加。バングラデシュなど南アジア諸国，ミャンマー，インドネシア及びアフリカの農業・農村発展の社会経済学的研究に従事，現在に至る。
6. ⑴ 「バングラデシュにおける農業発展――農業構造と技術変化の関連を中心に」『アジア経済』27（12），1986.
   ⑵ 「バングラデシュ農村における雇用問題――農業技術変化の雇用吸収効果を中心にして」『農業総合研究』42（1），1988.
   ⑶ 「マダガスカルにおける稲作の不振と政策対応」『農業総合研究』42（1），1988.
   ⑷ 「ザンビアにおける経済危機と農業の価格・流通政策」『農業総合研究』42（1），1988.
   ⑸ 「アフリカの食料問題と米――社会経済学的視点から」『国際農林業協力』11（4），1989.
   ⑹ 「灌漑開発と制度的諸問題」佐藤 宏（編）『バングラデシュ――低開発の政治構造』アジア経済研究所，1990.
   ⑺ 「農村土地なし貧困層への制度的金融――バングラデシュ・グラミン銀行」『アジア経済』31（6;7），1990.

⑻ 「ジャワ農村における農業労働慣行に関する一考察――西部ジャワ州天水田地域の農村調査から」『農業総合研究』44 (3), 1990.

⑼ "Employment Structure and Income Generation," in T. Kawagoe (ed.), *Role of the Secondary Crops in Employment Generation : A Study in a Rainfed Lowland Village,* CGPRT Centre and BORIF, 1991.

⑽ 『バングラデシュ農業発展論序説――技術選択に及ぼす農業構造の影響を中心に』農業総合研究所, 1993.

⑾ "Toward a Long-term Strategy for Income Generation : Rural Institution and Resource Mobilization," in *Mid-Term Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project,* JICA, 1994.

⑿ 「『緑の革命』と所得分配――バングラデシュの灌漑水市場の経済分析を通じて」『農業経済研究』66 (4), 1995.

⒀ 「村落公共機能の強化をめざして――バングラデシュ農村開発の新戦略」『東南アジア研究』33 (1), 1995.

⒁ 「バングラデシュ農村非制度金融の新動向――階層間金融フローの『逆転』をめぐって」『農業総合研究』49 (3), 1995.

⒂ "Role of the Groundwater Market in Agricultural Development and Income Distribution : A Case Study in a Northwest Bangladesh Village," (共著) *Developing Economies,* 33 (4), 1995.

⒃ 「小規模インフラ事業にみる行政と村落――バングラデシュにおける事例研究」(共著) 山本裕美 (編)『経済改革下のアジア農業と経済発展』アジア経済研究所, 1998.

⒄ 「農村開発におけるマイクロ・クレジットと小規模インフラ整備」佐藤 寛 (編)『開発援助とバングラデシュ』アジア経済研究所, 1998.

⒅ 「ミャンマー乾期灌漑稲作経済の実態――ヤンゴン近郊農村フィールド調査より」(共著)『東南アジア研究』38 (1), 2000.

⒆ "Credit Flowing from the Poor to the Rich : The Financial Market and the Role of the Grameen Bank in Rural Bangladesh," *Developing Economies*, 38 (3), 2000.

人間環境研究部門

西渕　光昭

1. 広島大学水畜産学部, 1976.
2. オレゴン州立大学 Ph. D., 1983.
3. 病原細菌学
4. (1) 環境と細菌の病原性発現調節メカニズムとの関係
   (2) 東南アジアの水棲環境中の病原性細菌の動態
5. 1977～78年, 文部省派遣交換留学生としてオレゴン州立大学に留学し, 魚病を研究。1980～82年 (オレゴン州立大学博士課程在学中), ヒト病原性ビブリオ属細菌の米国沿岸における分布調査に参加し, 西海岸の調査を担当。1983～86年, メリーランド大学ワクチン開発センターで細菌病原性の分子遺伝学研究を開始。1986年, 大阪大学微生物病研究所助手に採用される。1988年, 京都大学医学部講師に採用され, 同年, 同助教授に昇任。1996年, 京都大学東南アジア研究センター教授に採用され, 現在に至る。
6. (1) "Molecular Epidemiologic Evidence for Association of Thermostable Direct Hemolysin (TDH) and TDH-related Hemolysin of *Vibrio parahaemolyticus* with

Gastroenteritis,"（共著）*Infection and Immunity,* 58（11），1990.

⑵ "Cholera Enterotoxin Production in *Vibrio cholerae* O1 Strains Isolated from the Environment and from Humans in Japan,"（共著）*Applied and Environmental Microbiology,* 57（8），1991.

⑶ "Evidence for Insertion Sequence-mediated Spread of the Thermostable Direct Hemolysin Gene among *Vibrio* Species,"（共著）*Journal of Bacteriology,* 173（16），1991.

⑷ "Contribution of the *tdh*1 Gene of Kanagawa Phenomenon-positive *Vibrio parahaemolyticus* to Production of Extracellular Thermostable Direct Hemolysin,"（共著）*Microbial Pathogenesis*, 11, 1991.

⑸ "Genetics of Thermostable Direct Hemolysin of *Vibrio parahaemolyticus*,"（共著）in A. E. Pohland（ed.），*Microbial Toxins in Foods and Feeds,* Plenum Publishing Co., 1991.

⑹ "Enterotoxigenicity of *Vibrio parahaemolyticus* with and without Genes Encoding Thermostable Direct Hemolysin,"（共著）*Infection and Immunity,* 60（9），1992.

⑺ "Detection of the Thermostable Direct Hemolysin Gene（*tdh*）and the Thermostable Direct Hemolysin-related Hemolysin Gene（*trh*）of *Vibrio parahaemolyticus* by Polymerase Chain Reaction,"（共著）*Molecular and Cellular Probes,* 6, 1992.

⑻「ToxR を中心としたビブリオの病原因子遺伝子の発現調節」加藤延夫（編）『微生物学の新しい展開』菜根出版，1993.

⑼ "Thermostable Direct Hemolysin Gene of *Vibrio parahaemolyticus*: A Virulence Gene Acquired by a Marine Bacterium,"（共著）*Infection and Immunity,* 63（6），1995.

⑽ "The Thermostable Direct Hemolysin Gene of *Vibrio hollisae* is Dissimilar in Prevalence to and Phylogenetically Distant from the *tdh* Genes of Other Vibrios: Implications in the Horizontal Transfer of the *tdh* Gene,"（共著）*Microbiology and Immunology,* 40（1），1996.

⑾ "Emergence of a Unique O3: K6 Clone of *Vibrio parahaemolyticus* in Calcutta, India, and Isolation of Strains from the Same Clonal Group from Southeast Asian Travelers,"（共著）*Journal of Clinical Microbiology,* 35（12），1997.

⑿ "Detection of *Escherichia coli* O 157: H 7 in the Beef Marketed in Malaysia,"（共著）*Applied and Environmental Microbiology,* 64（3），1998.

⒀ "Characterization of *Vibrio cholerae* O 139 Bengal Isolated from Water in Malaysia,"（共著）*Journal of Applied Microbiology*, 85（6），1998.

⒁ "Isolation of *Escherichia coli* O 157: H 7 Strain Producing Shiga Toxin 1 but Not Shiga Toxin 2 from a Patient with Hemolytic Uremic Syndrome in Korea,"（共著）*FEMS Microbiology Letters*, 166（1），1998.

⒂ "Clonal Diversity among Recently Emerged Strains of *Vibrio parahaemolyticus* O 3 : K 6 Associated with Pandemic Spread,"（共著）*Journal of Clinical Microbiology*, 37（7），1999.

⒃ "Isolation and Molecular Characterization of Vancomycin-resistant *Enterococcus faecium* in Malaysia," *Letters in*

Applied Microbiology, 29 (2), 1999.

⑰ "*Vibrio parahaemolyticus* in Asia," *Indian Journal of Microbiology*, 39, 1999.

⑱ "Pandemic Spread of an O 3 : K 6 Clone of *Vibrio parahaemolyticus* and Emergence of Related Strains Evidenced by Arbitrarily Primed PCR and *toxRS* Sequence Analyses," (共著) *Journal of Clinical Microbiology*, 38 (2), 2000.

⑲ "Isolation and Characterization of *Escherichia coli* O 157 from Retail Beef and Bovine Feces in Thailand," (共著) *FEMS Microbiology Letters*, 18 (2), 2000.

⑳ "Isolation of *Vibrio parahaemolyticus* Strains Belonging to a Pandemic O 3 : K 6 Clone from Environmental and Clinical Sources in Thailand," (共著) *Applied and Environmental Microbiology*, 66 (6), 2000.

松林　公蔵

1. 京都大学医学部, 1977.
2. 京都大学医学博士, 1986.
3. 老年医学, 神経内科学, フィールド医学
4. (1) 本邦高齢者の健康度に関する縦断的追跡研究
   (2) 東南アジア諸地域における人間の老化に関する生態学的ならびに老年医学的比較研究
   (3) 痴呆性疾患に影響をおよぼす自然環境ならびに文化的背景に関する研究
5. 1977 年京大内科研修医を経て 1978 年静岡労災病院神経内科, 1980 年天理よろづ相談所病院神経内科勤務後 1982 年京大神経内科(医員)。1986 年高知医大老年病科助手, 1991 年同講師, 1998 年同助教授を経て 2000 年より京大東南アジア研究センター教授, 京大大学院医学研究科社会健康医学系教授を兼任。

1982 年以降, 下記の海外学術調査を行った。1982, 1985 年チベット高原における高所医学研究, 1989 ～ 90 年にはヒマラヤ極低酸素環境下における生理学的研究とあわせてチベット高所住民に関する疫学調査を行った。

また, 1991 年から 2000 年にかけて, 高知県香北町において地域在住高齢者の縦断的追跡調査を実施するとともに鹿児島県上屋久町, 秋田県若美町, 滋賀県余呉町に居住する高齢者と比較検討するのとあわせて, 海外においてもフンザカラコルム, 南米アンデス, 中国雲南省, 中国チベット自治区, モンゴル, 韓国などにおいて, 地域在住高齢者の健康度に関する生態学的比較調査を行った。

今後, 東南アジア諸地域における老化のありさまならびに痴呆性疾患の実態を地域研究の一環として検討し, 同時に超高齢化のすすむ本邦との比較研究を行う。

6. (1) "Incidental Brain Lesions on Magnetic Resonance Imaging and Neurobehavioral Functions in the Apparently Healthy Elderly," (共著) *Stroke*, 23, 1992.

   (2) "Diurnal Blood Pressure Variations and Silent Cerebrovascular Damage in Elderly Patients with Hypertension," (共著) *J Hypertens*, 10, 1992.

   (3) 『長寿伝説の里――高知医科大学カラコルム医学学術調査隊の記録』高知新聞社, 1992.

   (4) "Dependency of the Aged in the Community," (共著) *Lancet*, 342, 1993.

   (5) "Silent Cerebrovascular Disease and Ambulatory Blood Pressure in the Elderly," (共著) *Hypertens Res*, 17, Suppl I, S 55 –S 58, 1994.

   (6) "Polyneuritis cranialis Due to Varicel-

la-zoster Virus in the Absence of Rash,"（共著）*Neurology*, 45, 1995.

⑺ 『インカの里人――高知医科大学南米アンデス医学学術調査隊の記録』高知新聞社, 1995.

⑻ "Secular Improvement in Self-care Independence of Old People Living in Community in Kahoku, Japan,"（共著）*Lancet*, 347, 1996.

⑼ "Does Surge in Blood Pressure Precede or Follow Troke?"（共著）*Lancet*, 347, 1996.

⑽ "Effects of Exercise on Neurobehavioral Function in Community-dwelling Older People More Than 75 Years of Age,"（共著）*J Am Geriatr Soc*, 44, 1996.

⑾ "Serum Cholesterol Levels and Cognitive Function Assessed by P 300 Latencies in an Older Population Living in the Community,"（共著）*J Am Geriatr Soc*, 45, 1997.

⑿ "Cognitive and Functional Status of the Japanese Oldest Old,"（共著）*J Am Geriatr Soc*, 45, 1997.

⒀ "Home-blood Pressure Control in Japanese Hypertensive Population,"（共著）*Lancet*, 350, 1997.

⒁ "Global Burden of Disease,"（共著）*Lancet*, 350, 1997.

⒂ "Postural Dysregulation in Systolic Blood Pressure is Associated with Worsened Scoring on Neurobehavioral Function Tests and Leukoaraiosis in the Older Elderly Living in a Community,"（共著）*Stroke*, 28, 1997.

⒃ "Quality of Life of Old People Living in the Community," *Lancet*, 350, 1997.

⒄ "Improvement in Self-care Independence May Lower the Increasing Rate of Medical Expenses for Community-dwelling Older People in Japan,"（共著）*J Am Geriatr Soc*, 46, 1998.

⒅ "Frailty in Elderly Japanese,"（共著）*Lancet*, 353, 1999.

⒆ "The Timed 'Up and Go' Test and Manual Button Score Are Useful Predictors of Functional Decline in Basic and Instrumental ADL in Community-dwelling Older People,"（共著）*J Am Geriatr Soc*, 47, 1999.

⒇ "A U-shaped Association between Home Systolic Blood Pressure and Four-year Mortality in Community-dwelling Older Men,"（共著）*J Am Geriatr Soc*, 47, 1999.

Terry A. Rambo（テリー　ランボー）

1. ミシガン大学（人類学），1963.
2. ハワイ大学 Ph. D.（人類学），1972.
3. 人類生態学
4. ⑴ ベトナム北部山岳地域の開発動向
   ⑵ タイとベトナム山地部の環境劣化
5. ワシントン州立大学人類学科助教授，フォード財団東南アジア研究プログラム・ポストドクトラル・リサーチフェロー等を経て，1975年マラヤ大学人類・社会学科講師。1980年イースト・ウエストセンター上級研究員。2000年東南アジア研究センター教授。
   1961年以降以下の研究に従事。
   ⑴ Human adaptation to tropical rainforest in Belize（1961－62）
   ⑵ Refugee movement in South Vietnam（1965－67）
   ⑶ Impact of war on cultural values in Vietnam（1968－69）
   ⑷ Adaptation of northern migrants to the environment of the Mekong Delta

(1973－75)

(5) Cultural ecology of Malaysian Orang Asli (Aboriginal people)

(6) Human ecology of tropical agricultural systems in Southeast Asia (1980－94)

(7) Land degradation in tropical Asia (1994－現在)

(8) Human ecology of Vietnam's Northern Mountain region (1997－現在)

6. (1) *A Comparison of Peasant Social Systems of Northern and Southern Viet-Nam : A Study of Ecological Adaptation, Social Succession, and Cultural Evolution*, Monograph III of the Center for Vietnamese Studies, Southern Illinois Univ., Carbondale, IL, 1973.

(2) "Why They Fled : Motivations for Refugee Movement during the Spring 1974 Communist Offensive in South Viet-Nam," (共著) *Asian Survey*, 16 (9), 1976.

(3) "Closed Corporate and Open Peasant Communities : Reopening a Hastily Shut Case," *Comparative Studies in Society and History*, 19 (2), 1977.

(4) "Human Ecology of the Malaysian Orang Asli," *Federation Museums Journal*, 24, 1979.

(5) "Of Stones and Stars : Malaysian Orang Asli Environmental Knowledge in Relation to Their Adaptation to the Tropical Rain Forest Ecosystem," *Federation Museums Journal*, 25 (New Series), 1980.

(6) "Fire and the Energy Efficiency of Swidden Agriculture," *Asian Perspectives*, 23 (2), 1980.

(7) "Human Ecology Research on Tropical Agroecosystems in Southeast Asia," *Singapore Journal of Tropical Geography*, 3 (1), 1982.

(8) *An Introduction to Human Ecology Research on Agricultural Systems in Southeast Asia*, (共編) UPLB, Los Banos, 1984.

(9) *Primitive Polluters : Semang Impact on the Malaysian Tropical Rain Forest Ecosystem*, Anthropological Papers No. 76, Univ. of Michigan, Museum of Anthropology, Ann Arbor, 1985.

(10) "Black Flight Suits and White Ao Dais," in Truong Buu Lam (ed.), *Borrowing and Adaptation of Symbols of Vietnamese Cultural Identity* (Southeast Asia Paper No. 25), Univ. of Hawaii, Center for Asian and Pacific Studies, Honolulu, 1987.

(11) *Ethnic Diversity and the Control of Natural Resources in Southeast Asia*, (共編) Michigan Papers on South and Southeast Asian Studies No. 32, Univ. of Michigan, Center for South and Southeast Asian Studies, Ann Arbor, 1988.

(12) *Agroecosystems of the Midlands of Northern Vietnam : A Report on a Preliminary Human Ecology Field Study of Three Districts in Vinh Phu Province*, (共編) EAPI Occasional Paper No. 12, East-West Center, Honolulu, 1990.

(13) *Profiles in Cultural Evolution : Papers from a Conference in Honor of Elman R. Service*, (共編) Anthropological Papers No. 85, Univ. of Michigan, Museum of Anthropology, Ann Arbor, 1991.

(14) *Too Many People, Too Little Land : The Human Ecology of a Wet Rice-Growing Village in the Red River Delta of Vietnam*, (共編) Program on Environ-

ment Occasional Paper No. 15, East-West Center, Honolulu, 1993.

⑮ *Development Trends in Vietnam's Northern Mountain Region*, 2 volumes (共編) National Political Publishing House, Hanoi, 1997.

⑯ "Culture, Environment and Human Settlement in the Uplands of Northern Vietnam," *Vietnam Social Sciences*, 5 (61), 1997.

⑰ "The Composite Swiddening Agroecosystem of the Tay Ethnic Minority of the Northwestern Mountains of Vietnam," in Aran Patanothai (ed.), *Land Degradation and Agricultural Sustainability : Case Studies from Southeast and East Asia*, Susan Regional Secretariat, Khon Kaen, 1998.

⑱ "The Development Crisis in Vietnam's Mountains," (共著) *East-West Center Special Report No. 6*, Honolulu, Hawaii, November 1998.

⑲ "The Balance of Nature, the Garden of Eden, and the Power of Policy : Some Observations on Contemporary Environmental Mythology," *The Asian Geographer*, 18 (1 & 2), 1999.

⑳ "Shifting Cultivation : A New Paradigm for Managing Tropical Forests," (共著) *Bio Science*, 50 (6), 2000.

河野　泰之

1. 東京大学農学部, 1981.
2. 東京大学農学博士, 1986.
3. 自然資源管理
4. (1) 地域資源評価
   (2) モンスーンアジアの水利
5. 1987年東南アジア研究センター助手, 1992～94年アジア工科大学灌漑工学経営プログラム助教授, 1998年東南アジア研究センター助教授, 現在に至る。1981年ジャワ島, 1983～84年タイ, スリランカ及び南インド, 1986年ルソン島, 1989年イラン, イラク, エジプト, 1990, 1991年中国, 1995～98年ベトナム紅河デルタやタイ東北部等, 1999～2000年ラオス北部やベトナム北部山地において土地・水利用や水利開発の調査に従事する。
6. (1) 「タイ国東北部農村の生業構造に基づく村落類型――ヤソトン県を対象として」(共著)『東南アジア研究』30 (3), 1992.
   (2) 「『火耕水耨』再考」(共著)『史林』76 (3), 1993.
   (3) "Changing Features of Irrigated Agriculture in the Chao Phraya Delta, Thailand," (共著) in *Proceedings of the International Conference on Environmentally Sound Water Resources Utilization*, 1993.
   (4) "Dynamics of Upland Utilization and Forest Land Management : A Case Study in Yasothon Province, Northeast Thailand," (共著)『東南アジア研究』32 (1), 1994.
   (5) "Effect of Water Control on Rice Cultivation in the Red River Delta, Vietnam : A Case Study in the Nhue River Irrigation System," (共著)『東南アジア研究』32 (4), 1995.
   (6) "Land and Water Resources Management for Crop Diversification in the Chao Phraya Delta, Thailand : A Case Study of Citrus Cultivation in the North Rangsit Irrigation Project," (共著)『東南アジア研究』33 (2), 1995.
   (7) "Spread of Direct Seeded Lowland Rice in Northeast Thailand : Farmers' Adaptation to Economic Growth," (共著)『東南アジア研究』33 (4), 1996.

(8) "Who should Manage an Irrigation System : Monsoon Asian Experiences," in *Proc. of the Int. Conf. on Water Resour. & Environ. Res.,* 1996.

(9) "Application of NETVIS to the Evaluation of a Reforestation Project in Northeast Thailand," (共著) in *Proc. of the 17th Asian Conference of Remote Sensing,* 1996.

(10) "Monitoring and Mapping Reforestation in Northeast Thailand : An Application of Northeast Thailand Village Information System (NETVIS)," (共著) in *Tropical Forestry in the 21st Century, Vol. 9 : The Sixth Wacharakitti Remote Sensing Workshop*, 1996.

(11) "Post-1949 Development of the Dujiangyan Irrigation System, South China : Bridging over a Gap between the Government and Farmers," *International Journal of Water Resources Development,* 13 (1), 1997.

(12) 「社会開発型ODA事業におけるGISの役割――東北タイ造林普及計画 (REX) を例として」(共著)『GIS――理論と応用』5 (1), 1997.

(13) 「タイ国における農業開発の現状と今後の課題」(共著)『農業土木学会誌』65 (4), 1997.

(14) "Yielding Ability in Direct Seeding Rice Culture in Northeastern Thailand," (共著)『熱帯農業』42 (4), 1998.

(15) "Village-level Irrigation System Management in the Command Area of Nam Ha 1 Irrigation Scheme," (共著) in *Towards an Ecoregional Approach for Natural Resource Management in the Red River Basin of Vietnam*, 1998.

(16) 「東南アジアにおける農業発展と地域性――灌漑開発を中心として」『システム農学』15 (1), 1999.

(17) "Technical Changes in Rainfed Rice Cultivation in Northeast Thailand," (共著) in *World Food Security and Crop Production Technologies for Tomorrow*, 1999.

(18) "Direct Seeded Rice Cultivation in Northeast Thailand : Present Situation and Problems Involved," (共著) in *World Food Security and Crop Production Technologies for Tomorrow*, 1999.

(19) "Methodology for Regional Level Land Productivity Evaluation : A Case Study of Rainfed Agriculture in Northeast Thailand," (共著) in *Can Biological Production Harmonize with Environment?* 1999.

(20) "Competition and Interdependence between Paddy and Weeds of Rainfed Agriculture in Northeast Thailand," (共著) in *Can Biological Production Harmonize with Environment?* 1999.

吉村　充則

1. 法政大学工学部, 1985.
2. 法政大学工学修士, 1987.
3. 環境工学
4. 東南アジアの土地利用と熱帯林の破壊
5. (財) リモート・センシング技術センター研究員 (1987～96年) を経て, 1996年, 東南アジア研究センターに助手として着任, 現在に至る。1990年にはNASA/JPLとのJERS-1 CAL/VAl観測実験に従事。1996年3～4月には, リモートセンシングに関する技術指導のためインドネシア国技術評応用庁へ派遣される。

6. (1) 「パーソナルコンピュータを用いた衛星情報と地理情報による地域特性算定システム」『法政大学工学部研究集報』27, 1991.

⑵ “Computer Assisted Satellite Image Interpretation for Updating Land Use Information,”（共著） *Applications of Remote Sensing in Asia and Oceania,* Asian Association on Remote Sensing, 1992.
⑶「道路網認識に対する画像情報利用の可能性」『法政大学工学部研究集報』28, 1992.
⑷「多時期の衛星画像の画像判読による植生分布図の作成」『写真測量とリモートセンシング』33 (1), 1994.
⑸「リモートセンシングを活用した土地利用情報の整備」『測量』1994. 4.
⑹「熱環境解析に対する時系列熱映像の活用」『写真測量とリモートセンシング』33 (6), 1994.
⑺「NOAA/AVHRR の観測輝度温度に基づく LANDSAT/TM の観測輝度温度誤差の補正」（共著）『リモートセンシング学会誌』16 (4), 1996.
⑻「エリアセンサ・ラインセンサ」『イメージセンシング』日本測量協会, 1997.
⑼「測量小委員会担当分」土木学会（編）『土木用語大辞典』1999.

地域研究第二客員部門

杉島　敬志

1. 明治大学政治経済学部, 1975.
2. 東京都立大学博士（文学）, 1992.
3. 人類学
4. ⑴ 人類学的実践の可能性
   ⑵ インドネシア・フローレス島中部の土地制度の変遷
5. 1982 年, 国立民族学博物館助手に採用される。1993 年, 助教授, 1999 年, 教授に昇任して現在にいたる。また, 1993 年から総合研究大学院大学助教授, 1999 年からは同大学院大学教授を併任。

この間, フローレス島中部における 20 世紀初頭からの土地と人間との関係の変遷について調査研究をすすめてきた。同時並行して, 近代人類学の基本的諸前提を対象化する作業をとおして, 現代世界において人類学的実践がどのような可能性をもつかについて考えてきた。

6. ⑴「親族の個別性と普遍性」『親族の社会人類学』至文堂, 1982.
⑵「首狩り人の幻想――リセ地域のリオ族の作物と人間の関係」『季刊民族学』34, 1985.
⑶「土地神の儘ならぬ配下――フローレス島・リオ族・リセ地域における妖術者をめぐる民俗的知識」『社会人類学年報』12, 1986.
⑷「フローレス島・リオ族・リセ地域における伝統家屋の建築構造」『物質文化』47, 1986.
⑸「リオ族における呪術的・宗教的土地所有権」『民族学研究』52 (1), 1987.
⑹「婚姻・性・知識」『民博通信』38, 1987.
⑺「精液の容器としての男性身体――精液をめぐるニューギニアの民俗的知識」『文化人類学』4, 1988.
⑻「舞台装置としての家屋――東インドネシアにおける家屋のシンボリズムに関する一考察」『国立民族学博物館研究報告』13 (2), 1988.
⑼「ダグラス――直観的な冒険者」『文化人類学群像 2・外国編 2』アカデミア出版会, 1988.
⑽「リオ族における農耕儀礼の記述と解釈」『国立民族学博物館研究報告』15 (3), 1991.
⑾「リオ族における性のプラクティス」『性の民族誌』人文書院, 1993.
⑿「二種類の植物隠喩――リオ族における

二重出自と非対称縁組」『国立民族学博物館研究報告』18 (2)，1993.

⑬ “Double Descent, Alliance, and Botanical Metaphors among the Lionese of Central Flores,” *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde*, 150 (1)，1994.

⑭ 「人類学におけるリアリズムの終焉」『民族誌の現在』弘文堂，1995.

⑮ 「歴史研究にもとづく人類学批判」『民博通信』71，1996.

⑯ 「承認と解釈――プラクティスとしての儀礼と社会のかかわり」『儀礼とパフォーマンス』岩波書店，1997.

⑰ 『土地所有の政治史』（編著）風響社，1999.

⑱ 「インドネシアの土地政策とリオ人の土地権」『土地所有の政治史』風響社，1999.

⑲ “The Persistence of ‘Constructivism’ in Anthropology,” *Suomen Anthropologi* (*Journal of the Finnish Anthropological Society*)，24 (2)，1999.

⑳ 「人類学の歴史研究――バリ宗教の近代史」『植民地経験の諸相』人文書院，1999.

黒田　景子

1. 大阪外国語大学外国語学部，1980.
2. 大谷大学文学修士，1985.
3. 東南アジア史，タイ＝マレーシア関係史
4. (1) 18－19 世紀のマレー半島を巡る交易ネットワークの研究
   (2) ケダーにおける Thai-speaker 住民の歴史
5. 1990 年大阪外国語大学外国語学部（タイ史）で非常勤講師となったため大谷大学大学院博士後期課程を退学。1993 年鹿児島大学教養部歴史学に専任講師として採用。1995 年同助教授。1996 年鹿児島大学法文学部助教授。鹿児島大学大学院人文社会科学研究科助教授を併任。1999 年 4 月より，東南アジア研究センター地域研究第二部門助教授を併任。1989 年以降，タイ・マレーシアを中心に海外研究活動を行う。1989 年，北部マレーシアにおける歴史史料調査。1990 ～ 92 年，マレーシアにて村落歴史聴き取り調査。1993 ～ 95 年，タイ東北部，ラオスにおける村落歴史聴き取り調査。1995 ～ 97 年，ミャンマー，インドネシア，マレーシア，タイで広域歴史調査。1997 ～ 98 年，マレーシア歴史調査。1999 年タイバンコクの東南アジア研究センターリエゾンオフィス駐在にてタイ史料調査。文献史料とオーラルヒストリー史料の収集を中心とする。
6. (1) 「華僑地方国ソンクラーの成立」『南方文化』12，1985.
   (2) 「ソンクラー国年代記訳注（上）」『南方文化』12，1985.
   (3) 「ソンクラー国年代記訳注（下）」『南方文化』13，1986.
   (4) 「『Samsam』と呼ばれた人々」『マレーシア社会論集 2』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1989.
   (5) 「タラーン港の破壊――ラーマ 1 世期（1785－1808）シャムにおけるマレー半島北部西海岸交易港群の役割」『南方文化』18，1991.
   (6) “The Samsams of Kubang Pasu : The Historical Relations between Kedah and Siam Viewed from a Kampung,” in *Local Societies in Malaysia* Vol. 1, Institute for the Study of Language and Culture of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 1992.
   (7) 「サムサムとシャム人――ケダーにおける Thai-speaker 小史」『南方文化』22，1995.
   (8) “The Samsam and the Siamese : A Historical Perspective of Kedah,” in Hayao Fukui (ed.)，*Cross-Border Perspectives*

from Thailand and Malaysia : Selected Papers Presented at Kyoto-Thammasat Core University Seminar, Kyoto, 19–20 November, 1993, The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 1995.

⑼ 「『パタルン』に関するノート」『東南アジア史の中の「中央」と「地方」』（平成 6－8 年度文部省科学研究補助金（国際学術研究）成果報告書），大阪外国語大学，1997.

⑽ 「タリボンとランカウィー――18－19 世紀南タイ西海岸部の海域支配」『タイ国東北部および北部におけるオーラルヒストリーに基づく村落史の研究』（平成 7－9 年度文部省科学研究補助金（国際学術研究）成果報告書），名古屋大学，1998.

⑾ 「ナコンシータマラートの拡大政策――1811－1839」『東洋學報』80 (4)，1999.

非常勤講師・非常勤研究員等

非常勤講師

安田　豊

1. 京都産業大学理学部，1988.
2. 京都産業大学理学士，1988.
3. 情報処理システム
4. ネットワークシステムのデザイン
5. 1988 年京都産業大学計算機センター，1995 年神戸大学経済経営研究所助手，2000 年同講師。
6. ⑴ 「インターネットのトラフィックの現状分析――最適利用に向けて」『経済経営研究年報』48，神戸大学経済経営研究所，1998.

⑵ 「インターネットのトラフィック計測とその分析」『情報処理学会研究報告』99－DPS－92，1999.

⑶ 「東アジア経済データベースの研究」（共著）『東アジアへの視点』国際東アジア研究センター，1999.

⑷ 「日蝕中継における WWW 分散サーバ群の構築とその有効性」『情報処理学会研究報告』99－DSM－14，1999.

⑸ 「電子商取引に伴うネットワーク技術的課題」大森義生・米山高生（編）『ネットワーク社会と保険金融システム』京都簡易保険事務センター，1997.

⑹ 『RIEB データベースの研究』（経済経営研究叢書 54）（共著）神戸大学経済経営研究所，1999.

非常勤研究員

松本　千穂

（1998 年 4 月 1 日～ 2001 年 3 月 31 日）

1. 甲南大学理学部，1990.
2. 京都大学人間・環境学博士，1999.
3. 分子生物学，分子疫学
4. 東南アジアにおける腸管感染症原因細菌の分子遺伝学的研究
5. 1991 ～ 93 年，奈良女子大学家政学研究科修士課程，1993 ～ 95 年，京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程，1995 ～ 98 年，京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程。1998 年 4 月，東南アジア研究センター非常勤研究員に採用され，現在に至る。
6. ⑴ “A New Locus on Chromosome 3 Strongly Linked with Salt-sensitive High Blood Pressure in Female F 2 from SHRSP and WKY Rats,” *Clinical Experimental Pharmacolgy Physiology*, 22, 1995.

⑵ “Cosegregation of the New Region on Chromosome 3 with Salt-induced Hypertension in Female F 2 Progeny

from Stroke-prone Spontaneously Hypertensive and Wistar-Kyoto Rats," *Clinical Experimental Pharmacolgy Physiology,* 23, 1996.

(3) "Construction of a Rat Genetic Map Using the Randomly Amplified Microsatellite Polymorphism (RAMP) Markers," *Mammalian Genome,* 9, 1998.

(4) "Pandemic Spread of O3:K6 Clone of *Vibrio Parahaemolyticus* and Emergence of Related Strains Evidenced by Arbitrarily Preimed PCR and *tox RS* Sequences Analyses," *Journal of Clinical Microbiology*, 38, 2000.

左右田直規

(1999年4月1日～2001年3月31日)

1. 京都大学法学部，1993.
2. 京都大学人間・環境学修士，1995.
3. 政治学，歴史学
4. マレーシアにおける民族・国民・国家の形成史
5. 1995年4月～98年3月，日本学術振興会特別研究員。1996年7月～99年3月，マレーシア国民大学に留学し，マレー半島におけるマレー民族概念の形成史について調査を行う。1999年4月，東南アジア研究センター非常勤研究員に採用され，現在に至る。
6. (1)「独立初期のマラヤにおける言語問題をめぐる政治力学――民族紛争規制の構造」京都大学大学院人間・環境学研究科修士論文，1995.
   (2) *Melayu Raya and Malaysia : Exploring Greater Malay Concepts in Malaya*, Research Paper, The Setsutaro Kobayashi Memorial Fund, 2000.

岡本　正明

(1999年4月1日～2001年3月31日)

1. 京都大学法学部，1994.
2. 京都大学人間・環境学修士，1996.
3. 政治学
4. (1) インドネシア・西ジャワ州の地方政治
   (2) インドネシアにおける地方分権化
5. 1999年，東南アジア研究センター非常勤研究員に採用され，現在に至る。1997年以降，以下の海外調査活動を行う。1997年から1998年にかけてインドネシア・西ジャワ州にて地方政治についての調査。1998年に再びインドネシア・西ジャワ州において政治家・官僚とのインタビュー及び資料収集実施。2000年に入り，ジャカルタ，バンテン地方で政治家・官僚とのインタビュー実施。
6. (1)「スハルト期インドネシアの対外政策，80年代前半に始まる変容――対外政策の原則 Bebas Aktif の持つ意味をふまえて」『アジア研究』43(4)，1997.
   (2)「革命期を生き抜いた植民地期原住民行政官吏（パンレ・プラジャ）――インドネシア・西ジャワ州の場合」『東南アジア研究』38(2)，2000.

河津　日和佐

(2000年4月1日～2002年3月31日)

1. 高知大学農学部，1994.
2. 愛媛大学農学博士，1999.
3. 土壌環境化学
4. ベトナム北部山地の土壌の肥沃度評価・分類
5. 2000年4月，東南アジア研究センター非常勤研究員。
6. (1)「高知県下の農耕地土壌の新しい区分方法」『ペドロジスト』42(2)，1998.
   (2)「理化学性，鉱物性および荷電ゼロ点からみた高知県下の農耕地土壌の特性」『日本土壌肥料学雑誌』69(5)，1998.

学振特別研究員

平田　昌弘

（2000年4月1日～2003年3月31日）

1. 東北大学農学部，1991.
2. 京都大学農学博士，1999.
3. 牧野生態学
4. (1) ユーラシア大陸における乳加工体系の類型分類
   (2) 西南アジアの牧畜と中央アジアの遊牧における生態利用の比較研究
   (3) 衛星データを利用した植物生産量の推定
5. 2000年，日本学術振興会特別研究員として東南アジア研究センターに配属される。1993年から1996年までシリアにおいて植生調査と牧畜研究に関して現地調査を行う。1997年シリアとカザフスタンの畜産事情調査，1998年モンゴルの遊牧調査，1999年カザフスタンとクルグズスタンの農業構造調査，ジョルダンの牧畜調査を行う。一貫して，ユーラシア大陸の乾燥地における牧畜および遊牧に関する生態学的調査を進めている。
6. (1) 『平成9年度海外畜産事情調査研究報告書――シリア』（共著）国際農林業協力協会，1998.
   (2) 「シリアの都市や農村で利用されている乳製品」『食の科学』247，1998.
   (3) “Changes in Grazing Areas and Feed Resources in a Dry Area of Northeastern Syria,” *Journal of Arid Environment*, 40, 1998.
   (4) “Feed Resource Evaluation in the Marginal Lands of Syria Using Satellite Image Processing,” in R. B. Singh and S. Murai (eds.), *Space Informatics for Sustainable Development*, Oxford & IBH Publishing Co. Pvt. Ltd., 1998.
   (5) 「カザフスタン共和国の家畜生産と農民経営の動向」『沙漠研究』9(2)，1999.
   (6) “Historical Changes of Grazing Forms of Arabian Pastoralists in Syria,” *Journal of Arid Land Studies*, 9(2)，1999.
   (7) 「西南アジアの乳加工体系――シリア北東部のアラブ系牧畜民バッガーラの事例を通して」『エコソフィア』3，1999.
   (8) 「トンコローニィ・メリノス」『日本キルギス友好協会ニュース』14，日本キルギス友好協会，2000.
   (9) 「シリア乾燥地の生態系におけるアラブ系牧畜民の放牧形態」『沙漠研究』(印刷中).
   (10) “Vegetation Classification by Satellite Image Processing in a Dry Area of Northeastern Syria,” *International Journal of Remote Sensing*, (印刷中).

濵元　聡子

（2000年4月1日～2003年3月31日）

1. 立命館大学国際関係学部，1992.
2. 京都大学人間・環境学修士，1997.
3. 東南アジア地域研究，文化人類学
4. マカッサル海峡における人の移動に関する社会史的地域研究
5. 1993～94年マレーシア・サバ州において国境を越える人の移動に関する研究に従事。1995年～現在，マカッサル海峡島嶼部において，日常的に行われる人の移動に関する社会史的研究に従事。
   (1) 日本学術振興会特別研究員DC1（1997年4月～2000年3月）
   (2) 日本学術振興会特別研究員PD（2000年4月～2003年3月）
6. (1) 「東マレーシア・サバ州における人の移動――スルー海・スラウェシ海に惹かれた国境からみる東南アジア海域世界の構造」立命館大学国際関係学研究科修士論文，1994.
   (2) 「東マレーシア・サバ州における人の移

動――スルー諸島からのバジャウ族の移動を中心に」『南方文化』22，1995.

(3) 「『移動の島』の女たち・その生活世界の展開――マカッサル海峡島嶼部における社会的動態の考察」京都大学人間・環境学研究科修士論文，1997.

(4) 「ハッジ・ミラの行商記録――マカッサル海峡における女性の生活世界」『ジェンダー――移動と後期近代』「ジェンダー」研究会平成9年度報告書所収，1998.

(5) 「発酵保存食品チャオの生活誌――マカッサル海峡B島における生業活動の変化」『東南アジア研究』37(3)，1999.

2．資　料　部

北野　康子

1. 長崎大学教育学部，1962.
2. ハワイ大学MATESL（Master of Arts in Teaching English as a Second Language），1968. ハワイ大学MLS（Master of Library Studies），1971.
3. 図書館学
4. (1) 東南アジア研究資料の目録情報
   (2) 図書館の情報技術
5. 1966～68年，East-West Center奨学生，1969～71年，ハワイ大学大学院にて図書館学を修める。1971～77年，貿易研修センター情報資料室勤務を経て，1977年，東南アジア研究センター資料部図書室に助手として着任，現在に至る。
6. (1) *The Bibliography of Bibliographies of the Pacific*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1969.
   (2) *United Nations Documents on the Trust Territory of the Pacific Islands*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1971.
   (3) 「発展途上国の経済ナショナリズムと経済統合に関する文献目録」（共編）『アジア経済資料月報』20(3)，1978.
   (4) 「図書館ネットワークのしくみ――WLNのシステム，Washington Library Network」（共編）ライブラリー・オートメーション研究会，京都，1982.
   (5) 「インドネシアにおける図書館システム」（訳）『図書館界』35(4)，1983.
   (6) “Southeast Asian Research Resources in Western Japan,” presented at the Seventh Congress of Southeast Asian Librarians, Manila, 15－21 February 1987.
   (7) 「京都大学東南アジア研究センターの現地語資料」『アジ研ニュース』119，1990.
   (8) 「子どもに素晴らしい本の世界を開く――タイの場合」（訳）『こどもの図書館』40(5)，1993.
   (9) “Two Special Collections in the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University：Foronda Collection and Charas Collection,” presented at International Seminar on Special Collection of Southeast Asian Studies, Universiti Kebangsaan Malaysia, 19－21 June 1995.
   (10) 「小田泰正先生とWLN」『情報技術と図書館――小田泰正先生追悼論文集』小田泰正先生追悼論文集刊行委員会，1995.
   (11) 「マレーシアの図書館について――トンスリラナン図書館，マレーシア国民大学図書館」（訳）『現代の図書館』34(4)，1996.
   (12) “Thai Information in the CSEAS Library of Kyoto University,” in *WAINS 2, Proceedings of the 2nd International Workshop in Information Networks and Systems, 13 December 1995.* National

Center for Science Information Systems, 1996.

⑬ “Acquisition of Southeast Asian Scholarly Publications,” in *Proceedings* [*of the*] *Colloquium on Academic Library Information Resources for Southeast Asian Scholarship, 3–5 November 1997, University of Malaya, Kuala Lumpur*. Vol. I, University of Malaya Library, 1997.

⑭ 「第65回IFLA大会におけるタイ人図書館員の経験」(訳)『図書館雑誌』93(12), 1999.

⑮ 「国際図書館連盟(IFLA)バンコク大会に参加して」『東南アジア研究』37(4), 2000.

米沢眞理子

1. 京都大学文学部, 1972.
2. 京都大学文学修士, 1974.
5. 1974年, 京都大学東南アジア研究センターに文部事務官として採用される。1987年, 資料部編集室助手に配置換, 現在に至る。
6. 「パスカルにおけるキリスト教弁証論の方法」(京都大学修士論文), 1974.

木谷　公哉

1. 京都産業大学工学部, 1998.
2. 京都産業大学工学研究科修士, 2000.
3. 形状処理工学
4. (1) 小規模な研究所向けのネットワーク構築・運用
   (2) 安全なネットワーク設計
   (3) 動画画像と静止画画像の時間単位での融合
5. 1999年, 京都大学東南アジア研究センターに非常勤職員として採用され, 2000年, 同東南アジア研究センター助手となる。

   1995年以降, 以下の研究活動を行う。

   1995～98年京都産業大学でコンピュータ補助員(コンピュータ関係のトラブル対処や操作マニュアル作成等)とコンピュータ基礎実習運営補助員(コンピュータ関連授業の補佐)を兼任。1997年京都産業大学で緊急災害情報システムのシステム構築を担当。同年京都産業大学にてインターネットライブ中継の技術補佐員をする。1998～2000年にコンピュータ補助員の主任をする。1999年さまざまなソフトウェアやハードウェアの設定マニュアルを作成する。同年東南アジア研究センターのサーバーを入れ替え, セキュリティ対策として暗号化受信メールサーバー(APOP), 遠隔操作ソフトであるSSH(Secure Shell)を導入し送信メールサーバー(SMTP)にSPAM対策を施す。メーリングリスト管理ソフトを導入。IPアドレス管理の改善。2000年情報処理室のリフォームとともに, 高速ネットワーク, ファイルサーバー(SAMBA System), データベースソフト(Postgre SQL)の導入を行う。
6. (1) 「電子メール(Eudora Pro 3)のインストールと設定マニュアル」京都産業大学, 1998.
   (2) 「Outlook Express 4のセッティングマニュアル」京都産業大学, 1998.
   (3) 「遠隔操作ソフト(Tera Term Pro)の設定マニュアル」京都産業大学, 1998.
   (4) 「画像のフォーマット変換」京都産業大学論文, 1998.
   (5) 「電子メール(AL-Mail)のインストールと設定マニュアル」京都産業大学, 1999.
   (6) 「VAIO PCG-C1Rの一般的な使用方法マニュアル」センター, 1999.
   (7) 「動画画像の再構築」京都産業大学修士論文, 2000.
   (8) 「SSH(Secure Shell)のマニュアル」センター, 2000.

第6章　出　版　活　動

2000年9月現在で，センターが刊行した東南アジア研究叢書（和文，英文），地域研究叢書（和文，英文），『東南アジア研究』（36巻3号以降），研究報告書シリーズの一覧を掲げる。なお，『東南アジア研究』23巻までの全所収論文等は『東南アジア研究』別冊（23巻5号）に一括掲載されているので，参照されたい。また『東南アジア研究』の目次情報は国立情報学研究所のホームページ（http://www.nii.ac.jp/sokuho/articles/w00543.html）で検索可能である。

1．研究叢書等

A．東南アジア研究叢書（和文）

1．棚瀬　襄爾.　1966.『他界観念の原始形態』
2．矢野　　暢.　1968.『タイ・ビルマ現代政治史研究』
3．本岡　　武.　1968.『東南アジア農業開発論』
4．坪内　良博；坪内　玲子.　1971.『離婚』創文社.
5．飯島　　茂.　1971.『カレン族の社会・文化変容』創文社.
6．シュトルツ.　1974.『ビルマ――地誌・歴史・経済』野上裕生（訳）．創文社.
7．市村　真一 編.　1974.『東南アジアの自然・社会・経済』創文社.
8．石井　米雄 編.　1975.『タイ国――ひとつの稲作社会』創文社.
9．石井　米雄.　1975.『上座部仏教の政治社会学』創文社.
10．本岡　　武.　1975.『インドネシアの米』創文社.
11．市村　真一 編.　1975.『東南アジアの経済発展』創文社.
12．口羽；坪内；前田 編.　1976.『マレー農村の研究』創文社.
13．西原　　正 編.　1976.『東南アジアの政治的腐敗』創文社.
14．エクスタインほか 編.　1979.『中国の経済発展』市村真一（監訳）．創文社.
15．渡部　忠世 編.　1980.『東南アジア世界――地域像の検証』創文社.
16．水野　浩一.　1981.『タイ農村の社会組織』創文社.
17．土屋　健治.　1982.『インドネシア民族主義研究――タマン・シスワの成立と展開』創文社.
18．高谷　好一.　1982.『熱帯デルタの農業発展――メナム・デルタの研究』創文社.
19．小林　和正.　1984.『東南アジアの人口』創文社.
20．石井　米雄 編.　1986.『東南アジア世界の構造と変容』創文社.

21. 桜井由躬雄. 1987.『ベトナム村落の形成――村落共有田＝コンディエン制の史的展開』創文社.
22. 福井　捷朗. 1988.『ドンデーン村――東北タイの農業生態』創文社.
23. 口羽　益生 編. 1990.『ドンデーン村の伝統構造とその変容』創文社.
24. 山田　　勇. 1991.『東南アジアの熱帯多雨林世界』創文社.

B. 東南アジア研究叢書（英文）

1. Sato, Takashi. 1966. *Field Crops in Thailand*. Kyoto：CSEAS.
2. Watabe, Tadayo. 1967. *Glutinous Rice in Northern Thailand*. Kyoto：CSEAS.
3. Takimoto, Kiyoshi, ed. 1968. *Geology and Mineral Resources in Thailand and Malaya*. Kyoto：CSEAS.
4. Kawaguchi, Keizaburo ; and Kyuma, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Thailand*. Kyoto：CSEAS.
5. Kawaguchi, Keizaburo ; and Kyuma, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Malaya*. Kyoto：CSEAS.
6. Maeda, Kiyoshige. 1967. *Alor Janggus, A Chinese Community in Malaya*. Kyoto：CSEAS.
7. Ichimura, Shinichi, ed. 1975. *The Economic Development of East and Southeast Asia*. Honolulu：University Press of Hawaii.
8. Nishihara, Masashi. 1976. *The Japanese and Sukarno's Indonesia : Tokyo-Jakarta Relation, 1951–66*. Honolulu：University Press of Hawaii.
9. Ichimura, Shinichi, ed. 1977. *Southeast Asia : Nature, Society and Development*. Honolulu：University Press of Hawaii.
10. Kawaguchi, Keizaburo ; and Kyuma, Kazutake. 1977. *Paddy Soils in Tropical Asia*. Honolulu：University Press of Hawaii.
11. Yoshihara, Kunio. 1978. *Japanese Investment in Southeast Asia*. Honolulu：University Press of Hawaii.
12. Ishii, Yoneo, ed. 1978. *Thailand : A Rice-Growing Society*. Honolulu：University Press of Hawaii.
13. Cho, Lee-Jay ; and Kobayashi, Kazumasa, eds. 1980. *Fertility Transition of the East Asian Populations*. Honolulu：University Press of Hawaii.
14. Kuchiba, Masuo ; Tsubouchi, Yoshihiro ; and Maeda, Narifumi. 1979. *Three Malay Villages : A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*. Honolulu：University Press of Hawaii.

15. Cho, Lee-Jay ; Suharto, S. ; Mcnicoll, G. ; and Mamas, S. G. M. 1980. *Population Growth of Indonesia : An Analysis of Fertility and Mortality Based on the 1971 Population Census*. Honolulu：University Press of Hawaii.
16. Ishii, Yoneo. 1986. *Sangha, State, and Society : Thai Buddhism in History*. Honolulu：University of Hawaii Press.
17. Takaya, Yoshikazu. 1987. *Agricultural Development of a Tropical Delta : A Study of the Chao Phraya Delta*. Honolulu：University of Hawaii Press.
18. Tsuchiya, Kenji. 1988. *Democracy and Leadership : The Rise of the Taman Siswa Movement in Indonesia*. Honolulu：University of Hawaii Press.
19. Fukui, Hayao. 1993. *Food and Population in a Northeast Thai Village*. Honolulu：University of Hawaii Press.
20. Yamada, Isamu. 1997. *Tropical Rain Forests of Southeast Asia : A Forest Ecologist's View*. Honolulu : University of Hawai'i Press.

C. 地域研究叢書（和文　京都大学学術出版会刊）

1．坪内　良博. 1996.『マレー農村の 20 年』
2．高谷　好一. 1996.『「世界単位」から世界を見る』
3．立本　成文. 1996.『地域研究の問題と方法――社会文化生態力学の試み』
4．坪内　良博. 1998.『小人口世界の人口誌――東南アジアの風土と社会』
5．高谷　好一 編. 1999.『〈地域間研究の試み〉（上）――世界の中で地域をとらえる』
6．坪内　良博 編. 1999.『〈総合的地域研究を求めて〉――東南アジア像を手がかりに』
7．水野　廣祐. 1999.『インドネシアの地場産業――アジア経済再生の道とは何か?』
8．高谷　好一 編. 1999.『〈地域間研究の試み〉（下）――世界の中で地域をとらえる』
9．坪内　良博 編. 2000.『地域形成の論理』
10. 原　洋之介 編. 2000.『地域発展の固有論理』
11. 加藤久美子. 2000.『盆地世界の国家論――雲南，シプソンパンナーのタイ族史』
12. 林　　行夫. 2000.『ラオ人社会の宗教と文化変容――東北タイの地域・宗教社会誌』
13. 立本　成文. 2000.『家族圏と地域研究』

D. 地域研究叢書（英文　Kyoto University Press 刊）

1．Yoshihara, Kunio.　1999. *The Nation and Economic Growth : Korea and Thailand.*

E. その他の公刊図書

1．講座・東南アジア学（全 10 巻・別巻 1 ）弘文堂.

第 1 巻　矢野　暢 編.　1990.『東南アジア学の手法』
第 2 巻　高谷　好一 編.　1990.『東南アジアの自然』
第 3 巻　坪内　良博 編.　1990.『東南アジアの社会』
第 4 巻　石井　米雄 編.　1991.『東南アジアの歴史』
第 5 巻　前田　成文 編.　1991.『東南アジアの文化』
第 6 巻　土屋　健治 編.　1990.『東南アジアの思想』
第 7 巻　矢野　暢 編.　1992.『東南アジアの政治』
第 8 巻　吉原久仁夫 編.　1991.『東南アジアの経済』
第 9 巻　矢野　暢 編.　1991.『東南アジアの国際関係』
第 10 巻　矢野　暢 編.　1991.『東南アジアと日本』
別　巻　矢野　暢 編.　1992.『東南アジア学入門』

2．講座・現代の地域研究（全 4 巻）弘文堂.

第 1 巻　矢野　暢 編.　1993.『地域研究の手法』
第 2 巻　矢野　暢 編.　1994.『世界単位論』
第 3 巻　矢野　暢 編.　1993.『地域研究のフロンティア』
第 4 巻　矢野　暢 編.　1993.『地域研究と「発展」の論理』

3．東南アジア研究センター 編.　1997.『事典東南アジア――風土・生態・環境』弘文堂.

4．Tsuchiya, Kenji.　1992. *Demokrasi dan Kepemimpinan : Kebangkitan Gerakan Taman Siswa.* Jakarta：Balai Pustaka.（東南アジア研究叢書（英文）No. 18, *Democracy and Leadership : The Rice of the Taman Siswa Movement in Indonesia* のインドネシア語訳）

5．Ishii, Yoneo.　1993. *Sejarah Sangha Thai : Hubungan Buddhisme dengan Negara dan Masyarakat.* Bangi, Selangor, Malaysia : Penerbit Universiti Kebangsaan Malaysia.（東南アジア研究叢書（英文）No. 16, *Sangha, State, and Society : Thai Buddhism in History* のマレー語訳）

6．Nishihara, Masashi.　1993. *Sukarno, Ratna Sari Dewi, dan Pampasan Perang.* Jakarta：Pustaka Utama Grafiti.（東南アジア研究叢書（英文）No. 8, *The Japanese and Sukarno's Indonesia* の

インドネシア語訳）

7．FURUKAWA, Hisao. 1994. *Coastal Wetlands of Indonesia : Environment, Subsistence and Exploitation*. Kyoto University Press.

8．UEDA, Yoko. 1995. *Local Economy and Entrepreneurship in Thailand : A Case Study of Nakhon Ratchasima*. Kyoto University Press.

2．『東南アジア研究』（36 巻 3 号から 38 巻 2 号まで）

各報告は，コード番号・著者名・報告表題・掲載頁の順に配列されている。コード番号は，4，5 桁目の数字が巻数を，3 桁目の数字が号数を，そして，1，2 桁目の数字が報告の番号を表している。

36 巻 3 号［Vol. 36, No. 3］1998 年 12 月［Dec. 1998］

36301 Escoto, Salvador P. Francisco Xavier Salgado, Civil Servant and Pioneer Industrialist in Eighteenth Century Philippines. 273－292.

36302 Sumawinata, Basuki. Sediments of the Lower Barito Basin in South Kalimantan : Fossil Pollen Composition. 293－316.

36303 Sadoi, Yuri. Skill Formation in Malaysia : The Case of Auto Parts Industry. 317－354.

36304 田子内　進［Takonai, Susumu］. ダンドゥットの成立と発展――オルケス・ムラユの発展とムラユ音楽［The Formation and Development of *Dangdut*（Ⅱ）: *Orkes Melayu* and *Musik Melayu*］. 355－378.

36305 郭　艶春［Guo Yanchun］. 雲南の多民族村における森林利用と「森林創出」――保山の山腹地帯にいきづく集団林業とアグロフォレストリー栽培［Forest Utilization and Practice of "Forest Creation" in Multi-ethic Villages : Village Forestry and Agroforestry Cultivation in the Mountainous Area of Baoshan, Yunnan, China］. 379－423.

書評［Book Reviews］

36306 Yoshihara, Kunio. Shin'ichi Shigetomi, *Cooperation and Community in Rural Thailand : An Organizational Analysis of Participatory Rural Development*. 424－425.

36307 Yoshihara, Kunio. Carl A. Trocki, ed., *Gangsters, Democracy, and the State in Southeast Asia*. 425－426.

現地通信［Field Report］

36308 Fukui, Hayao ; and Chumphon Naewchampa. Weir Irrigation in the Upper Mun River Basin : A Field Trip in March 1998 with Some Preliminary Discussions. 427－434.

36巻4号［Vol. 36, No. 4］1999年3月［March 1999］

36401 Porphant Ouyyanont. Physical and Economic Change in Bangkok, 1851－1925. 437－474.

36402 Sumawinata, Basuki. Soil Chemical Profiles Developed from Pyrite-containing Sediments under Banjarese Agricultural Practices in South Kalimantan. 475－493.

36403 Nishimura, Shigeo. Education in the Border Areas of Malaysian and Indonesian Borneo/Kalimantan. 494－504.

36404 安田　香［Yasuda, Kyo］. 1889年パリ万国博覧会におけるジャワの舞踊と音楽について［Javanese Dance and Music Performance at the Paris Exposition of 1889］. 505－524.

36405 岩井美佐紀［Iwai, Misaki］. ベトナム北部農村における社会変容と女性労働―― バックニン省チャンリエット村の事例から［Rural Transformation and Women's Labour in North Vietnam : The Case of Trang Liet Village, Bac Ninh Province］. 525－545.

36406 福井捷朗［Fukui, Hayao］. 農業生態から見たグロリエのアンコール水利社会説批判［Groslier's Hydraulic Society Theory of Angkor in the Eyes of an Agroecologist］. 546－554.

書評［Book Reviews］

36407 Yoshihara, Kunio. Paul D. Hutchcroft, *Booty Capitalism : The Politics of Banking in the Philippines*. 555.

36408 Yoshihara, Kunio. Benedict Anderson, *The Specter of Comparisons : Nationalism, Southeast Asia and the World*. 556－558.

36409 小林　知［Kobayashi, Satoru］. Steve Heder ; and Judy Ledgerwood, eds., *Propaganda, Politics, and Violence in Cambodia : Democratic Transition under United Nations Peace-Keeping*. 559－563.

現地通信［Field Report］

36410 速水洋子［Hayami, Yoko］. 二つのタイ系諸族研究集会（1998年於バンコク）［Two Tai Studies Meetings in Bangkok, 1998］. 564－565.

37巻1号［Vol. 37, No. 1］1999年6月［June 1999］

37101 Mohamed Yusoff Ismail. Social Control and Bird's Nest Harvesting among the Idahan : A Preliminary Observation. 3－17.

37102 Batalla, Eric Vincent C. *Zaibatsu* Development in the Philippines : The Ayala Model. 18－49.

37103 Suzuki, Kenji ; Goto, Akira ; Mizutani, Masakazu ; and Vichai Sriboonlue. Analysis of Stability of Rainfed Rice Cultivation in Northeast Thailand. 50－64.

37104 佐藤　仁［Sato, Jin］. 人々のための公共地――タイにおけるコミュニティー林の制度的基礎［Public Land for People : Institutional Foundation of Community Forestry in Thailand］. 65－89.

37105 水野明日香［Mizuno, Asuka］. 英領期上ビルマにおける地租制度の導入とその改変――タタメダ税，ヤシ税の導入を中心に［The "Land Revenue" of Upper Burma in the Colonial Period : Focusing on the Introduction of the *Thathameda* Tax and the Tree Revenue］. 90－105.

書評［Book Reviews］

37106 河野泰之［Kono, Yasuyuki］. Toshiro Matsuda ; and Akimi Fujimoto, eds., *Commercial Farming in Thailand : A Study of Sustainable Agricultural Development in Three Regions*. 106－107.

37107 青山　亨［Aoyama, Toru］. Helen Creese, *Pārthāyaṇa : The Journeying of Pārtha, an Eighteenth-century Balinese Kakawin*. 107－108.

現地通信［Field Report］

37108 吉原久仁夫［Yoshihara, Kunio］. ラオス，カンボジア，ミャンマー経済の印象［The Impressions of the Cambodian, Myanmar and Lao Economies］. 109－112.

37巻2号［Vol. 37, No. 2］1999年9月［Sept. 1999］

〈特集〉東南アジアにおけるイスラーム
［Islam in Southeast Asia］

37201 小杉　泰［Kosugi, Yasushi］. 序［Introduction］. 115－122.

37202 小杉　泰［Kosugi, Yasushi］. イスラーム世界の東西――地域間比較のための方法論的試論［Reconsidering "Unity and Diversity" in the Islamic World : Methodological Inquiry］. 123－157.

37203 Bruinessen, Martin van. Global and Local in Indonesian Islam. 158－175.

37204 小林寧子［Kobayashi, Yasuko］. インドネシア・イスラーム研究の半世紀――「地域研究」と「イスラーム学」とのはざまで［In Search of a Truer Image in Indonesia］. 176－193.

37205 川島　緑［Kawashima, Midori］. フィリピン・ムスリム研究［The Philippine Muslim Studies］. 194－209.

37206 Omar Farouk Bajunid. The Muslims in Thailand : A Review. 210－234.

37207 Muhammad Syukri Salleh.［Establishing an Islamic State : Ideals and Realities in the State of Kelantan, Malaysia］. 235－256.

37208 信田敏宏［Nobuta, Toshihiro］. 改宗と抵抗――マレーシアのオラン・アスリ社会におけるイスラーム化をめぐる一考察［Conversion and Resistance : An Examination of Islamization among the Orang Asli in Malaysia］. 257－296.

書評［Book Review］

37209 小杉　泰［Kosugi, Yasushi］. Robert W. Hefner and Patricia Horvatich, eds., *Islam in an Era of Nation-State : Politics and Religious Renewal in Muslim Southeast Asia*. 297－299.

37巻3号［Vol. 37, No. 3］1999年12月［Dec. 1999］

37301 大野昭彦；ベンジャ・チラパトピモール［Ohno, Akihiko ; and Benja Jirapatpimol］. タイ北部における農村縫製業と手織物業をめぐる市場形成［Market Formation in the Rural Garment and Weaving Industries in Northern Thailand］. 303－319.

37302 大橋厚子［Ohashi, Atsuko］. 1820年代ジャワ島プリアンガン地方における開拓社会――グデ山南麓を事例として［Frontier Society in 1820s Priangan, West Java］. 320－364.

37303 濵元聡子［Hamamoto, Satoko］. 発酵保存食品チャオの生活誌――マカッサル海峡B島における生業活動の変化［An Account of a Fermented Food, *Cao*, in the Daily Life of a Fishing Community : Changes of Activities for Subsistence in the Makassar Straits］. 365－390.

37304 Liu, Hong. Organized Chinese Transnationalism and the Institutionalization of Business Networks : The Singapore Chinese Chamber of Commerce and Industry as a Case Analysis. 391－416.

37305 Apisit Eiumnoh ; and Rajendra P. Shrestha. A Study on Estimation of Cassava Area and Production Using Remote Sensing and Geographic Information Systems in the Northeast Region of Thailand. 417－430.

書評［Book Review］

37306 加藤　剛［Kato, Tsuyoshi］. Henk Schulte Nordholt, ed., *Outward Appearances : Dressing State and Society in Indonesia*. 431－433.

現地通信［Field Report］

37307 水野広祐［Mizuno, Kosuke］. バリ銀行スキャンダル［Baligate Scandal in Indonesia］. 434－440.

37巻4号［Vol. 37, No. 4］ 2000年3月［March 2000］

37401 Lim, Lrong. A Dynamic Bumiputera Commercial and Industrial Class? : A Mismatch with Market Rationality. 443－457.

37402 Hayama, Atsuko. Transforming Interaction of the Local People with the Uplands : A Case Study in Southeastern Nueva Ecija, Central Luzon. 458－491.

37403 Adi Djoko Guritno. Indonesian Forest Management Problems : What Are the Comments and Opinions of the Groups and Organizations Concerned? 492－510.

37404 福岡まどか［Fukuoka, Madoka］. 西ジャワにおける「地方芸術」探求活動――新たな芸術教育の確立［In Search of West Javanese Art Forms : New Ways of Art Education］. 511－534.

37405 齋藤瑞枝［Saito, Mizue］. 1950年代におけるアラカン人仏教徒議員の新州設立要求［A Request for Establishment of an Arakan State Made by Arakanese Buddhist MP in the 1950s］. 535－555.

37406 藤田　渡　［Fujita, Wataru］.　食物をめぐる人と自然の関わり――東北タイでの事例から［The Relationship between Man and Nature in Choice of Foods Materials : A Case Study in Northeast Thailand］. 556－587.

書評［Book Review］

37407 前川佳遠理［Maekawa, Kaori］. M. J. C. Schouten, *Leadership and Social Mobility in a Southeast Asian Society : Minahasa, 1677–1983*. 588－589.

現地通信［Field Report］

37408 北野康子［Kitano, Yasuko］. 国際図書館連盟（IFLA）バンコク大会に参加して［Attending the IFLA（International Federation of Library Associations and Institutions）General Conference Held in Bangkok］. 590－591.

38巻1号［Vol. 38, No. 1］2000年6月［June 2000］

38101 大野昭彦；鈴木基義［Ohno, Akihiko ; and Suzuki, Motoyoshi］. 工場労働者の第1世代をめぐる職務意識――ラオスを対象として［Attitudes and Behavior of the First Generation of Factory Workers : A Case Study in Laos］. 3－21.

38102 藤田幸一；岡本郁子［Fujita, Koichi ; and Okamoto, Ikuko］. ミャンマー乾期灌漑稲作経済の実態――ヤンゴン近郊農村フィールド調査より　［An Economic Study on Irrigated Summer Rice Production in Myanmar : The Case of a Village near Yangon］. 22－49.

38103 北川香子［Kitagawa, Takako］.「水王」の系譜――スレイ・サントー王権史［History of the Water Kings in Srei Santhor］. 50－73.

38104 市川昌広［Ichikawa, Masahiro］. サラワク州イバン村落における湿地田稲作――植付け方法にみる適応戦略［Swamp Rice Cultivation in an Iban Village of Sarawak : Planting Methods as an Adaptation Strategy］. 74－94.

38105 Fujita, Wataru. Farmers' Views of the Forest : Perceptions of the Forest and the Natural Environment in Northeast Thailand. 95－111.

書評［Book Reviews］

38106 Sakai, Minako. William A. Collins, *The Guritan of Radin Suane : A Study of the Besemah Oral Epic from South Sumatra*. 112.

38107 福岡まどか［Fukuoka, Madoka］. Kirstin Pauka, *Theater and Martial Arts in West Suma-*

tra : Randai and Silek of the Minangkabau. 113.

38108 Patricio N. Abinales. *Overturned Chariot : The Autobiography of Phan-Boi-Chau*. 114.

38109 濵元聡子［Hamamoto, Satoko］. Christiaan Heersink, *Dependence on Green Gold : A Socio-economic History of the Indonesian Coconut Island Selayar*. 115－118.

現地通信［Field Report］

38110 小林　知［Kobayashi, Satoru］. カンボジア大学事情［The Situation of Universities in Cambodia］. 119－120.

38巻2号［Vol. 38, No. 2］2000年9月［Sept. 2000］

38201 Yanagisawa, Masayuki. Fund-Raising Activities of a Cooperative in the Red River Delta : A Case Study of the Coc Thanh Cooperative in Nam Dinh Province, Vietnam. 123－141.

38202 Sukanya Nitungkorn. Education and Economic Development during the Modernization Period : A Comparison between Thailand and Japan. 142－164.

38203 Lye Tuck-Po. Forest, Bateks, and Degradation : Environmental Representations in a Changing World. 165－184.

38204 永井博子［Nagai, Hiroko］. フィリピンの農村工業における持続性――アンティーケ州バリ村の土器産業［The Continuity of a Village Industry in a Philippine Community : The Pottery of Bari, Antique Province］. 185－202.

38205 岡本正明［Okamoto, Masaaki］. 革命期を生き抜いた植民地期原住民行政官吏（パンレ・プラジャ）――インドネシア・西ジャワ州の場合［The Colonial Aristocratic Bureaucrats (Pangreh Praja) Surviving the Revolution : The Case of West Java, Indonesia］. 203－225.

38206 市川昌広［Ichikawa, Masahiro］. サラワク州イバン村落における移動湿地田稲作の変遷［Transformation of Shifting Swamp-Rice Cultivation in an Iban Village of Sarawak, Malaysia］. 226－248.

書評［Book Reviews］

38207 藤田幸一［Fujita, Koichi］. Hayami, Y. ; and Kikuchi, M., *A Rice Village Saga : Three Decades of Green Revolution in the Philippines*. 249－254.

38208 中川　敏［Nakagawa, Satoshi］. Gregory Forth, *Beneath the Volcano : Religion, Cosmology and Spirit Classification among the Nage of Eastern Indonesia*. 254－256.

38209 荒樋久雄［Arahi, Hisao］. Elenanor Mannikka, *Angkor Wat, Time Space and Kingship*. 256－259.

38210 吉原久仁夫［Yoshihara, Kunio］. Khin Maung Kyi *et al., Economic Development of Burma : A Vision and a Strategy*. 259－261.

38211 吉原久仁夫［Yoshihara, Kunio］. 村瀬哲司,『アジアの安定通貨圏――ユーロに学ぶ円の役

割』［Tetsuji Murase, *For a Stable Monetary Zone in Asia : The Role of the Japanese Yen to Be Learned from the Birth of the Euro*］. 262－263.

現地通信［Field Report］

38212 濵元聡子［Hamamoto, Satoko］. 呪術師と暮らして［Living with a *Dukun*, an Indigenous Medical Magician］. 264－266.

3．研究報告書シリーズ

研究報告書シリーズは，センターが単行本として出版したもので，シンポジウムの報告書，文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書，その他の研究奨学金を受けて行なった研究の報告書など，各種のものを含んでいる。既刊のものを以下に年度順にあげる。

1．KAWAGUCHI, Keizaburo, ed. 1965. *Rice Culture in Malaya*, Symposium Series No. 1.
2．INOKI, Masamichi, ed. 1966. *Japan's Future in Southeast Asia*, Symposium Series No. 2.
3．FUJIOKA, Yoshikazu, ed. 1966. *Water Resource Utilization in Southeast Asia*, Symposium Series No. 3.
4．HIGASHI, Noboru, ed. 1968. *Medical Problems in Southeast Asia*, Symposium Series No. 4.
5．市村　真一 編. 1975.『稲と農民』
6．ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Preliminary Report on Role of Education in the Rural Development of Southeast Asia : Thailand and Malaysia*.
7．ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Econometric Models of Asian Countries* Ⅰ.
8．ICHIMURA, Shinichi ; and MIZUNO, Koichi, eds. 1979. *Ecology, New Technology, and Rural Development in Thailand and Malaysia*（with Special Reference to the Role of Education）.
9．ICHIMURA, Shinichi, ed. 1980. *Econometric Models of Asian Countries* Ⅱ.
10. TSUBOUCHI, Yoshihiro; NASRLIDDIN, Iljas; TAKAYA, Yoshikazu; and RASJID, Hanafiah A., eds. 1980. *South Sumatra, Man and Agriculture*.
11. WATABE, Tadayo, ed. 1981. *Report of the Scientific Survey on Traditional Cropping Systems in Tropical Asia*, Part 1：*India and Sri Lanka*, Part 2：*Indonesia*.

12. MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds.
1982. *Villages and the Agricultural Landscape in South Sulawesi.*
13. TAKAYA, Yoshikazu ; and Narong THIRAMONGKOL.
1982. *Chao Phraya Delta of Thailand*（Asian Rice-Land Inventory：A Descriptive Atlas, No. 1）.
14. 渡部　忠世 編.　1982.『南西諸島農耕における南方的要素』
15. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds.
1983. *A Rice-Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*（An Interim Report）.
16. THAN TUN, ed.　1983. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part One, *A. D. 1598–1648*.
17. JAYAWARDENA, S. D. G. ; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Sri Lanka and South India*.
18. Boonyawart LUMPAOPONG ; Jitti PINTHONG ; Chavalit CHALOTHON ; and KAIDA, Yoshihiro.
1984. *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand*（Asian Riceland Inventory：A Descriptive Atlas, No. 2）.
19. MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*.
20. TSUCHIYA, Kenji, ed.　1984. *"States" in Southeast Asia, from "Tradition" to "Modernity."*
21. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds.
1985. *A Rice Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*（The Second Interim Report）.
22. THAN TUN, ed.　1985. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Two, *A. D. 1649–1750*.
23. THAN TUN, ed.　1985. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Three, *A. D. 1751–1781*.
24. KATO, Tsuyoshi ; MUCHTAR, Lutfi ; and MAEDA, Narifumi, eds.
1986. *Environment, Agriculture and Society in the Malay World*.
25. TANAKA, Koji ; MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds.
1986. *Environment, Landuse and Society in Wallacea*.
26. THAN TUN, ed.　1986. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Four, *A. D. 1782–1787*.

27. THAN TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Five, *A. D. 1788–1806*.
28. 高谷　好一 編. 1986.『東南アジア伝統農業資料集成』第 1 巻.
29. 渡部　忠世 編. 1986.『日本農耕文化の展開と系譜――島の視点から』
30. EZAKI, Mitsuo, ed. 1987. *Development Planning and Policies in ASEAN Countries*.
31. THAN TUN, ed. 1987. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Six, *A. D. 1807–1810*.
32. 田中　耕司 編. 1987.『東南アジア伝統農業資料集成』第 2 巻.
33. JAIM, W. M. H. *et al*. 1987. *Review of Literature*（JSARD Working Paper No. 1）
34. HUQ, Muhammad Ammer-Ul. 1987. *Review of Literature on Planning Studies in Bangladesh*（JSARD Working Paper No. 2）.
35. SOLAIMAN, M. 1987. *Review of Literature : Institution Building*（JSARD Working Paper No. 3）.
36. NOMA, Haruo ; and CHAKRABORTY, Ratan Lal, eds. 1987. *Selections of Records on Agriculture, Land Tenure and Economy of Mymensingh District, 1787–1866*（JSARD Working Paper No. 4）.
37. THAN TUN, ed. 1988. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Seven, *A. D. 1811–1819*.
38. TAKAYA, Yoshikazu, ed. 1988. *Madagascar : Perspectives from the Malay World*.
39. 高谷　好一 編. 1988.『古代稲作農耕の学際的研究』
40. 柴山　守 編. 1988.『東南アジア学研究支援：多言語テキスト処理システムの研究』
41. KUMAGAI, Toru ; and KAIDA, Yoshihiro. 1988. *Gobarchitra Village and Chandpur Irrigation Project*（JSARD Working Paper No. 5）.
42. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1988. *A Rice-Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*（The Third Interim Report）.
43. THAN TUN, ed. 1988. *The Royal Order of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Eight, *A. D. 1819–1853*.
44. Aris PONIMAN ; 高谷　好一. 1988.『伝統農業フィールドノート集』第 1 巻.
45. SAKURAI, Yumio ; and NITTA, Eiji, eds. 1988. *Primitive Agriculture in Viet Nam and Japan I*.
46. 桜井由躬雄 ; 新田　栄治 編. 1988.『日本・ベトナム初期農耕比較論　Ⅱ』
47. YOSHIHARA, Kunio, ed. 1989. *Oei Tiong Ham Concern : The First Business Empire of Southeast Asia*.

48. Tsubouchi, Yoshihiro, ed. 1989. *The Formation of Urban Civilization in Southeast Asia.*
49. Yoshihara, Kunio, ed. 1989. *Thai Perceptions of Japanese Modernization* (Published in association with Falcon Press Sdn. Bhd., Kuala Lumpur).
50. Sakurai, Yumio. 1989. *Land, Water, Rice, and Men in Early Vietnam : Agrarian Adaptation and Socio-Political Organization* (Translated by Thomas A. Stanley).
51. Marasri Sivaraks, compiled. 1989. *Catalog of Thai Cremation Volumes in the Charas Collection.*
52. Than Tun, ed. 1989. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Nine, *A. D. 1853–1885.*
53. Than Tun, ed. 1990. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598–1885*, Part Ten, *Epiloge, Glossary and Index.*
54. Yoshihara, Kunio, ed. 1990. *Japan in Thailand* (Published in association with Falcon Press Sdn. Bhd., Kuala Lumpur).
55. 田中　耕司 編. 1990.『東南アジア伝統農業資料集成』第 3 巻.
56. Nai Pan Hla. 1990. *An Introduction to Mon Language.*
57. Tsubouchi, Yoshihiro, ed. 1991. *The Formation of Urban Civilization in Southeast Asia 2.*
58. 坪内　良博 編. 1991.『集落人口の性格と変動に関する比較社会学的研究』
59. 高谷　好一 編. 1991.『フロンティア空間としての東南アジア』
60. 田中　耕司 編. 1991.『東南アジア伝統農業資料集成』第 4 巻.
61. 深見　純生 訳. 古川　久雄 編. 1991.『ジャワ・マドゥラ古代遺跡・遺物目録』
62. 古川　久雄 ; 渡部　　武 編. 1993.『中国先史・古代農耕関係資料集成』
63. 田中　耕司 編. 1994.『東南アジア海域世界の森と海』
64. Sujin Butdisuwan. 1995. *Cumulative Index for Thai Book Collection (1989–Jan. 1995) in the Library of the Center for Southeast Asian Studies Kyoto University.*
65. Fukui, Hayao, ed. 1995. *Cross-Border Perspectives from Thailand and Malaysia.*
66. Fukui, Hayao, ed. 1996. *Transformation of Agriculture in Northeast Thailand.*
67. Phongpharn Lawananont. 1996. *List of Thai Books of the Center for Southeast Asian Studies Library.*
68. Zawawi Ibrahim, ed. 1996. *Mediating Identities in Changing Malaysia.*
69. Rohaya Umar. 1997. *Senarai Perolehan Perpustakaan 1997 : Bahasa Indonesia dan Malaysia.*
70. Kato, Tsuyoshi, ed. 1997. *Studies on the Dynamics of the Frontier World in Insular Southeast Asia.*

71. Tsuchiya, Kenji ; and Kato, Tsuyoshi, eds. 1997. *An Integrated Study on the Dynamics of the Maritime World of Southeast Asia.*
72. Kanchanaporn Chitsanga. 1997. *List of Thai Books of The Center for Southeast Asian Studies Library Kyoto University* No. 15.
73. 林　行夫 編. 1998.『東南アジア大陸部における民族間関係と「地域」の生成』
74. Sauliah Saleh. 1998. *Daftar Buku-Buku Tentang Indonesia dalam Bahasa Indonesia Koleksi Center for Southeast Asian Studies Library Kyoto University.*
75. Amphorn Wongthangsawat. 1999. *List of Thai Books of Center for Southeast Asian Studies Library Kyoto University.*
76. Amphorn Wongthangsawat. 1999. *Subject Headings of Thai Publication in the Library of Center for Southeast Asian Studies Library Kyoto University.*
77. 玉田　芳史 編. 1999.『ニティ選書』
78. Fukui, Hayao, ed. 1999. *The Dry Areas in Southeast Asia : Harsh or Benign Environment.*
79. Bachtar, Mulni Adelina. 1999. *Daftar Pengadaan Bahan Pustaka 1999 Bahasa Indonesia dan Bahasa Malaysia.*
80. Bachtar, Mulni Adelina, compiled. 1999. *Women Development in Southeast Asia : A Bibliography.*
81. Hayase, Shinzo ; Non, Domingo M. ; and Ulaen, Alex J., compiled. 1999. *Silsilas/Tarsilas*（*Genealogies*）*and Historical Narratives in Sarangani Bay and Davao Gulf Regions, South Mindanao, Philippines, and Sangihe-Talaud Islands, North Sulawesi, Indonesia.*
82. Vasin Chooprayoon. 2000. *Library Acquisition List : Thai Materials, No.* 17.
83. Vasin Chooprayoon. 2000. *Thai Material Database Management System in the Library of the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University.*
84. Che Puteh Ismail. 2000. *Library Aquisitions List Bahasa Indonesia and Bahasa Malaysia.*
85. Che Puteh Ismail, compiled. 2000. *Bahasa dan Kesusasteraan Melayu Sebuah Bibliografi 1990–1999.*

なお，センター関係者の研究報告書のうち，センター以外の機関により出版されたものを，参考までに掲げておく。

JSARD Publication Series（Published by JICA Bangladesh Office）

1．JSARD Editorial Committee, ed. 1988. *Proceedings of the Mid-term Review Workshop of JSARD, January 24, 1988*（JSARD Publication No. 6）.

2．Kaida, Yoshihiro ; and Hossain, S. M. Altaf, eds. 1988. *Gobarchitra Village in Chandpur*（JSARD Publication No. 7）.

3．Uchida, Haruo *et al*., eds. 1988. *Jawar Village in Kishoreganj*（JSARD Publication No. 8）.

4．Hossain, S. M. Altaf. 1988. *Evolution of Cropping Systems in My-mensingh and Comilla Regions*（JSARD Publication No. 12）.

5．Nishimura, Hiroyuki *et al*., eds. 1989. *Three Villages in Comilla*（JSARD Publication No. 9）.

6．Maharjan, Keshav Lall. 1989. *Phanishair Village in Chandpur*（JSARD Publication No. 11）.

7．Chakraborty, Ratan Lal ; and Noma, Haruo, compiled. 1989. *Select Records on Agriculture and Economy of Comilla District, 1782–1867*（JSARD Publication No. 13）.

8．Mamun, Abdullah Al. 1989. *Agro-ecological Studies of Weed in Bangladesh*（JSARD Publication No. 14）.

9．Noma, Haruo ; and Chakraborty, Ratan Lal, compiled. 1990. *Select Records on Agriculture, Land Revenue, Economy and Society of Noakhali District, 1849–1878*（JSARD Publication No. 15）.

10. Kaida, Yoshihiro, ed. 1990. *Tetulia Village in Bogra*（JSARD Publication No. 16）.

11. Mamun, A. Al. 1990. *Agro-ecological Studies of Weeds and Weed Control in a Flood-prone Village of Bangladesh*（JSARD Publication No. 17）.

12. JSARD Editorial Committee, ed. 1990. *Proceedings of the Second JSARD Workshop, Held on August 20–21, 1989*（JSARD Publication No. 18）.

13. Kaida, Yoshihiro, ed. 1990. *A Review of Related Studies*（JSARD Publication No. 19）.

14. Kaida, Yoshihiro *et al*., eds. 1990. *Key Questions and Issues from Village-Based Studies, 1986–1989*（JSARD Publication No. 20）.

JSRDE Publication Sries (Published by JICA Bangladesh Office and BARD)

1. BEGUM, Saleha, ed. 1994. *Report of the Seminar on Mid-Term Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project, 22nd December 1993.*

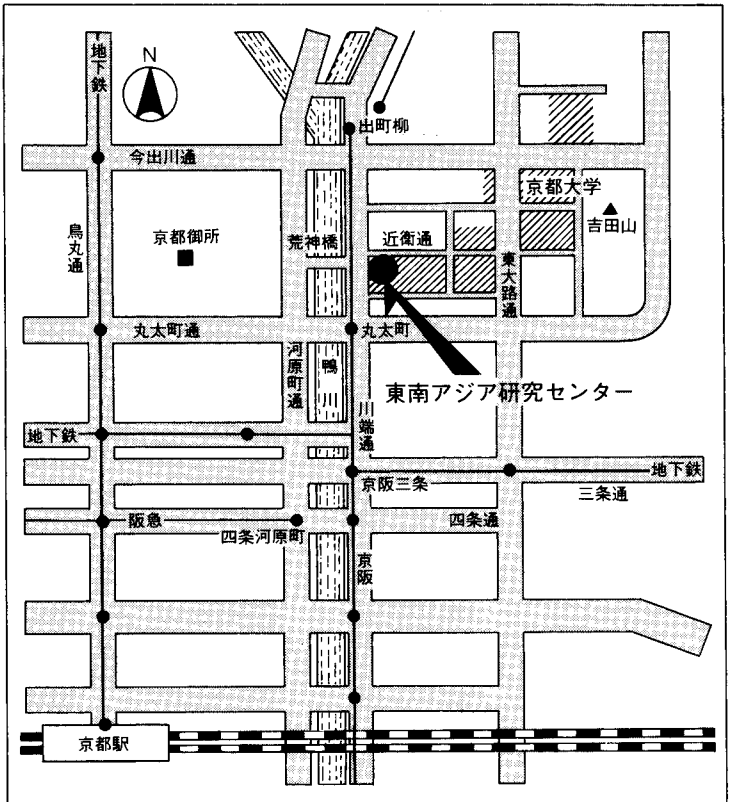
2. ISLAM, Md. Mazharul *et al.,* eds. 1994. *Report of the Workshop on Mid-Term Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project, 7th and 8th December 1993.*

3. BEGUM, Saleha *et al.,* eds. 1995. *Annual Report 1993–94: Joint Study on Rural Development Experiment Project.*

4. ISLAM, Md. Mazharul *et al.,* eds. 1995. *Report of the Workshop on Final Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project, 9th to 11th July.*

5. KAIDA, Yoshihiro; and BEGUM, Saleha, eds. 1995. *Report of the Final Seminar on Joint Study on Rural Development Experiment (JSRDE) Project, 21st November 1995.*

6. KAIDA, Yoshihiro *et al.,* eds. 1995. *Final Report on Joint Study on Rural Development Experiment (JSRDE) Project.*



◎「京都駅前」から市バス 4，17，または 205 に乗車。
河原町通「荒神口」で下車，東へ徒歩 5 分。
◎ 京阪電車「丸太町駅」から北へ徒歩 5 分。

京都大学東南アジア研究センター
〒 606－8501　京都市左京区吉田下阿達町 46　Tel.（075）753－7302
Fax（075）753－7350
e-mail director@cseas.kyoto-u.ac.jp
http : //www.cseas.kyoto-u.ac.jp